

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法

- 第一條 曹洞宗懲戒施行法ノ規定ニ基ク旅費宿泊料ノ算定ハ本規則ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 證人參考人ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ宗務院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ拾錢以内其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ五十錢以内トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
- 第三條 宿泊料ハ一夜ニ付金五圓以内ニ於テ宗務院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 附 則
- 第四條 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六節 雜 件

○曹洞教會法

昭和三年七月一日
宗法 第二號

曹洞宗教會法ハ第三十二次曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ本日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞教會法

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ曹洞教會ト稱ス
- 第二條 本會ハ昭和ノ大典ヲ記念シ本宗在家化導ノ統一ヲ計リ教化ノ擴充民心ノ作興ヲ期スルヲ

以テ目的トス

第三條 本會ハ本部ヲ宗務院内ニ置ク但シ必要ニ應シ地方ニ支部ヲ設置スルコトアルヘシ

第二章 會 員

第四條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

- 一、曹洞宗末派寺院住職
- 二、曹洞宗寺院教會所屬ノ檀信徒
- 三、一般特志者

第五條 本會會員ヲ分チテ名譽會員特別會員及正會員ノ三種トス

一、名譽會員ハ本會ニ功勞アル者又ハ學識德望アル者ノ中ニ就キ理事會ノ決議ヲ經テ會長之ヲ推薦ス

二、特別會員ハ特別ノ出資其ノ他ノ方法ニ依リ本會ノ事業ヲ援助スル者ニ就キ會長之ヲ推薦ス

三、正會員ハ本會ノ經費トシテ年額金貳拾錢以上ヲ齎出スル者ヲ以テス

第三章 事 業

第六條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 一、雜誌ノ發行
- 二、地方布教講習會ノ開設

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法

昭和十八年三月五日
昭宗法第五
三號以
二日改
正本條

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法

- 三、布教事業ノ調査研究
- 四、布教師ノ養成
- 五、其ノ他必要ナル事業

第四章 役員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、總裁 一名
- 二、會長 一名
- 三、理事 三名 (内一名ヲ専務理事ニ名ヲ財務理事トス)
- 四、監事 二名
- 五、主事 二名 (内一名ヲ庶務主任ニ名ヲ會計主任トス)
- 六、書記 若干名
- 七、評議員 若干名
- 八、地方委員

總裁ハ曹洞宗管長之ニ當ル

會長ハ曹洞宗務院總務之ニ當ル

理事ハ曹洞宗務院各部長之ニ當ル

理事中専務理事ハ教學部長ヲ以テ之ニ充テ財務理事ハ財務部長ヲ以テ之ニ充ツ

監事ハ宗會ノ議長副議長ヲ以テ之ニ充テ主事及書記ハ理事會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ任命ス評議員ハ宗會議員ヲ以テ之ニ充ツ

地方委員ハ各寺院住職ヲ以テ之ニ充ツ

總裁會長理事監事及評議員ハ名譽職トス

第五章 地方委員

第八條 地方委員ハ其ノ寺院所屬檀信徒及一般國民ニ本會ノ趣旨ヲ普及シ會員ヲ勸募スヘシ

第九條 前條地方委員ノ會員募集ノ數ハ尠クトモ其ノ寺院所屬檀信徒數ノ三分ノ一以上タルコトヲ要ス

第六章 職務權限

第十條 總裁ハ本會ヲ統率ス

會長ハ本會ノ事務ヲ總理シ理事會評議員會ノ召集開閉會ヲ行ヒ其ノ議長トナリ並ニ總裁故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ理事會ヲ組織シ會務ヲ審議ス

専務理事ハ庶務ヲ處理シ財務理事ハ財務ヲ掌ル

監事ハ會務ヲ監査ス

主事ハ理事ノ命ヲ承ケ會務ヲ處理ス

書記ハ主事ノ命ヲ承ケ會務ニ從事ス

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法

評議員會及支部ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 會計

第十一條 本會ノ經費ハ左記各號ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、會員ノ齎出金

二、特別寄附金

三、宗務院ノ補助金

第十二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第十三條 本會ノ經費ハ毎年豫算ヲ以テ之ヲ定ム

豫算ハ毎會計年度前理事會及評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ會計年度終了後理事會及評議員會ニ提出シ其ノ承認ヲ經ヘシ

第十四條 會計ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第十五條 本法ハ總裁ノ指示ニ基キ理事會及評議員會ノ決議ヲ終ルニアラサレハ之ヲ改正スルコトヲ得ス

第十六條 本法施行ニ必要ナル細則ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○同法施行細則

昭和三年七月一日
宗令第十三號

本日宗法第二號ヲ以テ發布シタル曹洞教會法ニ附帶スル同法施行細則左記ノ通相定ム

曹洞教會法施行細則

第一章 會員

第一條 本會ハ一時金五圓以上若クハ年額壹圓以上ヲ五ヶ年間齎出スル者ヲ特別會員トス
特別會員ニハ本會員章ヲ交附シ毎年春秋彼岸會中兩本山ニ於テ祖先ノ供養法會ヲ修行ス

第二條 會員ニハ一箇年六回以上本會ヨリ發行スル雜誌ヲ頒布ス

第三條 本會ハ會員ノ氏名ヲ記シタル門標ヲ作製シ各會員ニ頒布スルコトアルヘシ

第二章 會計

第四條 會ノ財産ハ財務理事之ヲ保管ス

第五條 地方委員ハ毎年六月三十日迄ニ其ノ寺所屬ノ特別會員及正會員ノ其ノ年度一箇年分ノ齎

出金ヲ取纏メ之ヲ本會ニ納附スヘシ

第六條 齎出金ノ納附ハ本會ノ加入スル郵便振替貯金口座東京七九〇〇二番ニ拂込ミ納金表ハ別

ニ之ヲ郵送スヘシ

前項齎出金ノ納附ハ現金直納又ハ郵便爲替等トスルコトヲ妨ケス但シ送金ノ郵便物ハ必ス書留
トナスヘシ

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法施行細則

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法施行細則

前第一項ニ依ル納附ハ郵便局ノ發スル領證ヲ以テ領收ノ證トシ第二項ニ依ル納附ハ本會ヨリ領證ヲ地方委員ニ交附ス

第七條 正會員ノ釀出金ニ對シテハ其ノ二分ノ一特別會員ノ出資ニ對シテハ其ノ五分ノ一ヲ所屬地方ノ委員費トシテ之ヲ交附ス但シ交附金ハ納金ノ際之ヲ控除シテ其ノ領證ヲ添附スヘシ
前項委員費ヲ自辨シ交附金ヲ控除セサルトキハ其ノ金額ヲ特殊寄附金トシテ本會之ヲ收納シ別ニ領證ヲ交附ス

第三章 事業

第八條 本會發行ノ雜誌ノ内容ヲ概略左ノ如ク定ム

- 一、宗意安心
- 二、兩山貫首ノ教諭
- 三、教諭ノ布演
- 四、詔書衍義
- 五、通佛敎ノ解説
- 六、一般思想問題
- 七、佛傳祖傳
- 八、兩本山彙報
- 九、宗門布教ノ狀況

十、宗務一般

十一、宗門緇素ノ善行表彰

十二、其ノ他重要ナル宗門及社會記事

十三、前各項ニ關スル寫眞及繪畫

第九條 前條ノ雜誌ハ地方委員ヲシテ其ノ所屬會員ニ配布セシムルモノトス

第十條 本法第六條第二號乃至第四號ノ事業ニ關スル規定ハ追テ之ヲ定ム

第四章 地方委員

第十一條 地方委員ハ本日發布ノ告諭及本會ニ關スル達令ノ趣旨ヲ演達シ其ノ所屬檀信徒ヲ成ルヘク多數本會ニ加入セシムヘシ

入會者ハ本會所定ノ會員名簿用紙ニ其ノ住所氏名會員ノ種別、入會年月日等ヲ記入シ速ニ本會ニ届出ツヘシ

第十二條 地方委員ハ別ニ會員名簿ヲ備ヘ其ノ異動アル毎ニ訂正ヲ加ヘ之ヲ本部ニ報告スルモノトス

第十三條 地方委員其ノ負擔數以上ノ會員ヲ募集シ功勞顯著ナリト認ムル者ハ本會ニ於テ之ヲ表彰ス

表彰ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 評議員會

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會法施行細則

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會所法

- 第十四條 評議員會ハ毎年一回之ヲ開キ豫算決算及重大ナル事項ヲ評決ス
理事監事ハ評議員會ニ列席シ意見ヲ陳フルコトヲ得但シ表決權ヲ有セス
- 第十五條 評議員會ノ議事ハ出席者過半数ヲ以テ之ヲ決ス
可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依ル
- 第十六條 本會ノ事業成績ハ評議員會ニ之ヲ報告ス

○曹洞教會所法

昭和三年八月一日
宗法第四號

曹洞宗教會所法ハ第三十二次曹洞宗宗會ノ協賛ヲ經文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布
シ本日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗教會所法

- 第一條 曹洞宗教會所ハ本宗ノ教義信條ヲ宣布シ兩祖ノ遺訓ヲ舉揚スルヲ以テ目的トス
- 第二條 曹洞宗教會所ハ北海道其他特殊ノ規定アル開教地ヲ除キ各府縣中本宗寺院ノ分布稀薄ノ
箇所其他特ニ必要ト認メタル地方ニシテ信徒三十人以上アル場合便宜設立スルコトヲ得
- 第三條 教會所ノ設立ヲ左ノ三種ニ區分ス
- 一 宗立教會所
 - 二 寺院附屬教會所
 - 三 獨立教會所

第四條 前條ノ教會所ハ何レモ曹洞宗教會所ト稱ス

第五條 宗立教會所ハ宗務院ニ於テ必要ト認メタル箇所ニ之ヲ設置ス

第六條 寺院附屬教會所ハ地方寺院ニ於テ必要ト認メタル箇所ニ之ヲ設置ス

第七條 教師資格ヲ有セル本宗僧侶ニシテ信徒ノ歸依ヲ得設立シタルモノヲ獨立教會所トス

第八條 獨立教會所ヲ設置セントスルトキハ附近ニ於ケル既設寺院教會所ノ同意ヲ求メ出願ノ際
必ス其ノ同意書ヲ添附スヘシ

第九條 教會所ノ設立其ノ他ニ關シテハ大正十二年文部省令第三十二號神佛道教會所規則及所轄
地方廳ノ規定ニ從ヒ手續ヲ爲スヘシ

第十條 教會所擔任教師ハ第一條ノ趣旨ヲ體シテ其ノ所屬信徒ノ教化ニ從事スヘシ

第十一條 教會所所屬信徒ハ本宗ノ教義信條ニ依リ信念ヲ培養シ社會風教ノ模範タルコトヲ期ス
ヘシ

第十二條 教會所擔任教師ハ四月一日ヨリ翌年三月末日迄ニ於ケル狀況報告書ヲ作成シ毎年四月
末日迄ニ宗務所ヲ經由シ宗務院庶務部長ヘ届出ツヘシ

第十三條 宗務院ハ新設教會所ニ對シ必要ト認ムル場合一時ニ若クハ相當ノ期間中其ノ設立ノ費
用ヲ補助スルコトアルヘシ

前項補助ニ關スル規定ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十四條 本法施行前法令ノ規定ニ從ヒ設置シタル說教所ハ本法ニ依リ設置シタル教會所ト看做

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會所法

ス

(参照)

神佛道教會所規則(大正十二年七月二十四日
文部省令第三十二號)

第一條 本令ニ於テ教會所トハ何等ノ名稱ヲ用フルニ拘ラス繼續シテ神道又ハ佛道ノ教義ヲ宣布シ又ハ其ノ儀式ヲ執行スルコトヲ目的トスル設備ニシテ祠宇寺院又ハ佛堂ニアラサルモノヲ謂フ

第二條 教會所ヲ設立セントスルトキハ神佛道教宗派ノ管長又ハ教師ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一 名稱

二 所在地

三 所屬教宗派ノ名稱

四 奉齋主神又ハ安置佛ノ稱號

五 擔任教師ノ氏名及資格

六 設立費用及其ノ支辨方法

七 管理及維持ノ方法

八 役員又ハ教徒若ハ信徒ノ總代ヲ設クルモノニ付テハ其ノ人員職務並選定方法

第三條 設立者ノ變更ハ當事者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ管長タル設立者ノ變更ハ十

四日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

前條第一號及第七號ノ變更ハ設立者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ第五號及第八號ノ變更ハ十四日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 教會所ヲ併合シ若ハ之ヲ移轉セントスルトキハ第二條各號ノ事項ヲ具シ設立者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ二以上ノ道府縣ニ涉ルトキハ合併先又ハ移轉先地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受ケ合併若ハ移轉ノ後十四日以内ニ舊所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ教會所ヲ廢止シタルトキハ設立者ニ於テ十四日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第五條 第二條第三號及第四號ヲ變更セントスルトキハ更ニ設立ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 本令ニ依リ地方長官ニ提出スル文書ハ教徒又ハ信徒ノ總代アル場合ニ於テハ其ノ總代ニ名以上之ニ連署スヘシ

前項ノ文書中教師ニ於テ提出スル許可申込ニ付テハ當該教宗派管長ハ其ノ意見ヲ付スヘシ

第七條 教會所ニ於テハ主神ヲ奉齋シ又ハ本尊ヲ安置シ教徒信徒又ハ信徒又ハ信徒タラントスル者ヲシテ之ヲ禮拜セシムルコトヲ得

第八條 教會所ニ於テハ教義ノ宣布又ハ儀式ノ執行ニ際シ公衆ヲ參集セシムルコトヲ得

第九條 教會所ニ於テハ神社ニ模擬スル建築構造ヲナスコトヲ得

第十條 教會所ニ於テハ神符護符ヲ配布スルコトヲ得但シ其ノ教徒信徒タラントスル者ニ對シ

第四編 寺院僧侶及檀信徒 ○曹洞教會所法

テハ此限ニ在ラス

第十一條 教會所ニ於テハ門戸ニ其ノ名稱及所屬教宗派ヲ標示スヘシ

第十二條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ第二條乃至第四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

トヲ得

一 法令ノ規定又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ

二 公安ヲ害シ又ハ風紀ヲ紊亂スルノ虞アルトキ

第十三條 本令施行ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條 本令ノ規定ハ専ラ葬儀執行ノ用ニ供スルモノニ關シテハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

従前ノ規定ニ依リ設立シタル教會所ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第五編 布 教

第一節 一般布教

○修證義ヲ化導ノ標準ト確定ノ件

明治二十三年十月四日
第四十號

明治廿二年當局甲第廿三號普達洞上在家化導標準ノ儀ハ兩本山協議ノ上現董貫首親下ニ於テ綴密ノ修正ヲ加ヘ玉ハンコトヲ懇請ニ及候處則チ採容相成一應修正シ之ニ曹洞教會修證義ト題名シテ曹洞宗末派總代委員及宗内碩德ニ諮問遊ハサレ更ニ其ノ意見ヲ取捨折衷シテ化導ノ標準確定相成今ヤ印刷功ヲ竣ヘ候ニ付其筋ヘ認可出願中ニ之レアリ候實際施行ノ期日ハ追テ認可ヲ得ルノ後御教令相成候得其實施期日指定ノ後ハ直ニ従前區々隨意ノ說教ヲ斷廢シ闔宗同一ノ化導法ト爲ルモノニ付宗内教師位ノ者豫メ熟讀シ機ニ臨テ苟モ謬說セサル様篤ト講究シ置クヘキモノトス依テ左ニ拜受手續ヲ定メ候

一 曹洞教會修證義書林ヲシテ刊行販賣セシムルトキハ價值不廉ニ涉リ弘布ニ便ナラス依テ兩本山藏板ト爲シ曹洞宗務院ニ於テ自今何時タリトモ拜受ノ申込ニ應ス

一 曹洞教會修證義ハ非賣品ナリ故ニ宗内僧侶及檀越信徒其ノ望ニ應シテ拜受ヲ得セシム拜受申込ト同時ニ恩金及運送費ヲ納メシム

一 曹洞教會修證義ハ宗内教師位及教師補位ノ者常ニ携持シテ臨機施設シ又ハ施設ノ講習ヲ爲ス

第五編 布教 ○修證義ヲ化導ノ標準ト確定ノ件

ヘシ

- 一 各府縣宗務所ハ豫メ所轄内ノ拜受部數ヲ定メ一ト纏メニ送數ヲ請フヘシ
- 一 宗内僧侶及檀越信徒ニシテ各自拜受ヲ冀望スル者ハ恩金ヲ添テ直ニ本院ニ申込モ妨ケナシ
- 一 在東京若クハ一時出京ノ因ミ拜受ヲ望ム者ハ直ニ本院ニ申込ムヘシ

右普達候事

○修證義ノ件

明治二十三年十二月一日
甲 第四十七號

本年當局甲第四十號普達ニ及ヒタル曹洞教會修證義ヲ以テ宗教ノ大意トナスコト愈其ノ筋ノ認可ヲ經タルニ付別紙ノ通兩本山貫首告諭相成候依テ來ル明治二十四年一月一日以後一般ニ依遵スヘシ此ノ旨普達候事但シ從前ノ制規論達等ニ於テ本文ニ牴觸ノ事項ハ總テ廢止ノ儀ト相心得ヘシ

告諭

曹洞宗ノ依止シテ以テ今古ニ貫通セルハ唯タ佛祖單傳ノ正法眼藏ノミ納等欽ンテ高祖承陽大師正法眼藏ノ中ニ就テ宗教ノ大意安心正依ノ標準ヲ選出シテ是レヲ曹洞教會修證義ト名ケタリ夫レ生ヲ明ラメ死ヲ明ラメ即心是佛ヲ承當スルヲ宗教ノ大意トス本文首尾ニ於テ之ヲ標示ス中間ニ其ノ準則ヲ開演セリ凡ソ五章三千七百零四字悉ク 高祖ノ金言ニシテ皮肉骨髓今尙暖ナルモノニ非サルハナシ況ヤ廣大ノ文字ハ萬象ニアマリテ猶豐カナリ轉大法輪マタ一塵ニオサマレリ生モ一時ノ位ナリ死モ一時ノ位ナリ然レハ即チ即身是佛ノ言猶是水中ノ月ナリ生死透脫ノ旨更ニ鏡裡

ノ影ナルコトヲ認得センヲ要ス自今以後一般ニ此ノ修證義ヲ用テ布教ノ標準トナシ自ラ信シ人ヲシテ信セシメテ吾カ宗教ヲ顯揚セヨ

永平寺住職 瀧谷 琢 宗
總持寺住職 畔上 椹 仙

○布教法

昭和十年二月十八日
宗 法 第二號

今般曹洞宗布教法改正ノ件左ノ通曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總 則

- 第一條 本宗ハ宗風舉揚ノ爲メ全國一般ニ布教傳道ヲ行フ
- 北海道、臺灣、樺太、朝鮮、滿洲等ノ布教及軍人ノ布教刑務所ノ布教其ノ他宗法ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル
- 第二條 管長ハ特派布教師ヲ派遣シテ布教ニ從事セシム一般寺院ハ各自ニ其ノ檀徒信徒ノ化導ニ從事ス
- 第三條 布教ノ標準ハ曹洞教會修證義ニ依遵シ化導ノ畫一ヲ素スヘカラス
- 第四條 特派布教ニ關スル事務ハ宗務院之ヲ管掌シ地方布教管理ヲシテ之ヲ分掌セシム
- 第五條 一般寺院ノ布教ニ關スル事務ハ宗務院之ヲ監督シ地方宗務所ヲシテ管理セシム

第五編 布教 ○布教法

第五編 布教 ○布教法

第二章 特派布教師巡教

第六條 宗務院ハ毎年適當ノ時期ニ特派布教師ヲ全國府縣ニ派遣駐在セシメ管區別ニヨリ巡回布教セシム

第七條 特派布教ニハ管區ヲ設ク

第八條 布教管區ト布教師配置ハ左表ニ依ル

特派布教管區表

布教管區	宗務所	布教師
第一區	東京府、神奈川縣	一 人
第二區	靜岡縣	二 人
第三區	山梨縣	一 人
第四區	長野縣	一 人
第五區	愛知縣	二 人
第六區	岐阜縣、三重縣、滋賀縣、京都府	二 人
第七區	奈良縣、大阪府、和歌山縣、兵庫縣	一 人
第八區	岡山縣、山口縣、廣島縣	一 人
第九區	鳥根縣、鳥取縣	一 人

第十區	愛媛縣、高知縣、香川縣、徳島縣	一 人
第十一區	佐賀縣、長崎縣、熊本縣	一 人
第十二區	福岡縣、大分縣、鹿兒島縣、宮崎縣	一 人
第十三區	福井縣、富山縣、石川縣	一 人
第十四區	新潟縣	二 人
第十五區	山形縣	二 人
第十六區	秋田縣、青森縣	一 人
第十七區	岩手縣	一 人
第十八區	宮城縣	一 人
第十九區	福島縣	一 人
第二十區	栃木縣、群馬縣	一 人
第二十一區	茨城縣、千葉縣	一 人
第二十二區	埼玉縣	一 人

北海道ハ別ニ北海道布教法ニ依リテ布教ヲ行フ

第九條 布教管區ニハ管區事務所ヲ設ケ布教管理ヲ置キ管長之ヲ特任シ名譽職トス
布教管理ノ任期ハ二ケ年トス但シ重任ヲ妨ケス

第五編 布教 ○布教法

第五編 布教 ○布教法

第十條 管區事務所ノ設定ハ宗務院之ヲ指定ス

第十一條 特派布教師ノ員數ハ二十七名トシ時宜ニ依リテ増減スルコトアルヘシ

第十二條 特派布教師ハ法齡二十歳以上色衣着用資格及三等教師以上ニシテ左ノ資格ノ一ヲ具フル者ヨリ任用ス

一 布教講習所卒業者

二 宗義ニ通シ布教ニ堪能ナル者

第十三條 特派布教師ノ任期ヲ一箇年トシ毎年一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ終ル

第十四條 特派布教師ハ一年ヲ通シテ二箇月乃至四箇月間管區事務所ニ駐在シ其ノ管區ヲ巡回布

教スルモノトス

第十五條 特派布教師ノ駐在期間ハ教場數ニ比例シ宗務院之ヲ指定ス

教場ハ五箇寺乃至十箇寺ニ一教場ヲ設クヘシ布教管理ハ宗務所長ト協議ノ上教場ヲ確定スルモノトス

第十六條 特派布教師ハ布教終了後五日以内ニ左記報告書ヲ宗務院ニ提出スヘシ

一 教筵開設ノ日時

二 教場所在地ト教場主名

三 布教ノ種別ト實況

四 參聽者ノ男女別ト員數

五 隨喜寺院ノ姓名

六 前後教場間ノ里程ト旅費

七 其他重要ナル事項

第十七條 布教管理ハ毎年布教開始二箇月以前ニ布教日程ヲ作製シ宗務院ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 教場ハ毎回轉換ヲ要ス但シ止ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ非ラス

第十九條 特派布教師ハ管内寺院僧侶及檀徒信徒等ニ於テ特殊ノ善行者アルトキハ其ノ事情ヲ詳

述シ宗務院ニ報告スヘシ

第二十條 特派布教師ハ常ニ地方ノ教勢ヲ審察シ管内布教部ト協力シテ布教ノ獎勵ヲ企圖スヘシ

第二十一條 特派布教師ノ俸給及旅費ハ宗務院之ヲ支給ス但シ特派布教師ノ俸給ハ俸給令ニ依ラ

ス

第二十二條 布教管區事務費ハ宗務院之ヲ支給シ教場ノ經費ハ總テ管區寺院ノ負擔トス

第二十三條 特派布教師ノ姓名ト其ノ受持管區及巡回日教場等ハ宗報ニ之ヲ告示ス

第三章 地方布教機關

第二十四條 宗務院ハ一般寺院ヲシテ布教及其ノ特殊布教ノ實績ヲ擧ケシムル爲メ各宗務所管内

ニ布教部ヲ設ケ左ノ職員ヲ置ク

一 委員長 一名

二 委員 若干名

第五編 布教 ○布教法

第五編 布教 ○布教法

三 布教師 若干名

委員長ハ宗務所管内寺院住職及檀徒信徒ヲ勸奨督勵シテ布教ノ事務ヲ掌理ス
委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ布教事務ヲ幹旋ス

布教師ハ委員長ノ指揮又ハ寺院住職ノ請ニ應シ専ラ布教傳道ニ從事スルモノトス

第二十五條 委員長委員布教師ノ選任手續並ニ布教部ニ關スル規則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 布教師ハ時宜ニ依リ關係者ノ申合ヲ以テ隣地又ハ他府縣ノ布教師ト臨機相互轉換ス
ルモ妨ケナシ

第二十七條 寺院住職ハ布教部ノ布教勸奨事項ニ就テハ之ヲ拒否スルコトヲ得ス

第二十八條 布教部ハ其ノ管内ノ總寺數ヲ適宜ノ區劃ニ分テ毎年一回以上寺院住職及徒弟ヲ集合
シテ十日以内布教講習會ヲ開設スヘシ

布教講習會細則ハ宗達ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第二十九條 寺院住職ハ毎年七月三十一日一月三十一日限り其ノ前半期間ニ行ヒタル布教狀況ヲ
詳記セル報告書ヲ調製シ布教部ニ提出スヘシ

第三十條 布教部ハ前條ノ報告書ニ就キ半期毎ニ管内布教ノ實狀ヲ調査シ報告書ヲ調製シ委員長
ヨリ之ヲ宗務院ニ報告スヘシ

第三十一條 布教部ハ其ノ管内ノ布教ニ關シ特殊ノ事項アルトキハ前條ノ外別ニ其ノ報告書ヲ調
製シ委員長ヨリ之ヲ宗務院ニ報告スヘシ

第四章 寺院布教

第三十二條 一般寺院ハ毎月一回以上各自ニ教筵ヲ開キ其ノ檀徒信徒ヲ化導スヘシ

第三十三條 一般寺院ハ毎年二回以上布教師ヲ招聘シ教區寺院ノ隨喜會同ヲ得テ特別布教ヲ爲ス
ヘシ

第三十四條 一般寺院ハ大祭祝日及二祖三佛會兩祖降誕會各寺開山忌等ニハ特ニ法要ヲ修行シ布
教ヲ爲スヘシ

第三十五條 第二章ニ依ル教筵ヲ開キタルトキ又ハ第三十二條第三十三條第三十四條ニ依ルノ教
筵ニシテ一箇月間ニ二回以上重複ノ場合ハ地方ノ狀況ニ依リ之ヲ兼修スルモ妨ケナシ

第三十六條 檀徒又ハ信徒ノ葬祭其ノ他佛事ノ請ニ赴クトキハ適宜ノ時間ヲ定メ説教ヲ修行スヘ
シ

第三十七條 檀徒又ハ信徒ノ多衆遠隔ノ地域ニ在ル寺院ハ毎月一回以上出張説教ヲ修行スヘシ

第五章 特殊布教

第三十八條 一般寺院住職ハ布教ノ目的ヲ貫徹スル爲メ地方ノ機宜ニ應シ一寺院又ハ一地方寺院
ノ共同ヲ以テ特ニ左記各號ノ事業ヲ舉行スヘシ

一 應徵歸休又ハ在郷ノ軍人ニ對シテハ衆庶ニ率先シテ敬愛ノ道ヲ盡クシ及臨機特ニ教筵ヲ開
キ義勇奉公ノ布教ヲ行フコト

二 地方青年男女ニ對シテハ其ノ智德ヲ發達セシムル爲メ補習學校又ハ之ニ準スル夜學會ヲ設

第五編 布教 ○布教法

第五編 布教 ○布教法

立シ教育ノ普及ヲ裨補シ又ハ特ニ佛教青年會ヲ設立シテ毎月一回以上講演或ハ説教ヲ爲スコト

三 衆庶ノ幸福ヲ増進スル爲メ殖産興業ノ勸奨又ハ衛生ノ注意ニ關スル講筵ヲ開設スルコト

四 警察、鐵道、郵便局、刑務所、會社、工場、鑛山、青年會、處女會、少年團等ノ團體ニ對シ適宜傳道弘教ヲ爲スコト

五 官吏教員其ノ他有志者ノ爲メ一箇月一回以上休日ヲトシテ參禪會ヲ開キ佛典祖錄ノ提唱又ハ講義ヲ爲スコト

六 一般婦人ニ對シテハ其ノ淑徳ヲ修養セシムル爲メ特ニ佛教婦人會ヲ設立シテ毎月一回以上説教又ハ講話ヲ爲スコト

七 一般公衆ノ便宜ヲ計ル爲メ簡易ノ圖書館又ハ新聞雜誌ノ縱覽所ヲ設クルコト

第三十九條 前條事業ノ内一寺院又ハ地方寺院ニ於テ舉行シ難キモノハ各宗寺院僧侶又ハ篤志者ト共同提携シテ實行スルモ妨ケナシ

第六章 各種傳道

第四十條 宗務院ハ文書及映畫等ヲ以テ布教傳道ヲ行フコトアルハシ

第四十一條 前條ノ傳道ニハ三尊佛御影及兩祖傳ヲ印行シ教書或ハ雜誌映畫等ヲ定期又ハ臨時ニ作製シ宗意教義ヲ宣揚スルモノトス

第七章 附則

第四十二條 各種ノ講名ヲ設ケ檀徒信徒ヲ團結スル者ハ之ヲ曹洞教會某講ト稱スルコトヲ得

第四十三條 各宗務所管内布教部ニ屬スル職員ハ名譽職トシテ依給ヲ支給セス

第四十四條 第三章第四章第五章及第六章ニ依リ布教ニ精勵シ其ノ實績ノ顯著ナル者ニハ特ニ賞典ヲ行ヒ又第五章ニ依ル特殊事業ヲ實行シ效果ヲ收メタル者ニハ獎勵金ヲ交附スルコトアルハシ

○貫首親化法 昭和十年二月十八日 宗法第一號
今般曹洞宗兩大本山貫首親化法制定ノ件左ノ通曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗兩大本山貫首親化法

第一條 兩大本山貫首本宗寺院ノ檀徒信徒ヲ化導スル爲メ全国各地ニ法輪ヲ轉セラルルヲ親化ト稱ス

第二條 兩大本山貫首ハ毎年全國ヲ東西兩部ニ分チ之ヲ交互ニ親化セラルルモノトス

第三條 東西ノ分界ハ新潟、長野、山梨、神奈川ノ四縣以東ヲ東部トシ樺太之ニ屬シ富山、岐阜、愛知、靜岡ノ四縣以西ヲ西部トシ臺灣朝鮮之ニ屬ス

兩部所屬ノ府縣ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 親化ハ一般寺院ノ拜請若クハ慈慮ニ依リテ行ハルルモノトス

第五編 布教 ○貫首親化法

第五編 布教 ○貫首親化法

第五條 親化事務ハ兩大本山監院之ヲ主管ス

第六條 親化ノ拜請ハ三箇月以前ニ當該本山ニ左ノ項目ヲ詳記シ願書ヲ提出シテ許可ヲ受クヘシ

一 法要ノ日時ト日數

二 法要ノ種類

三 教場ノ所在地

四 教場ニ至ル順路

第七條 親化ノ許可ヲナシタル時ハ當該本山監院ハ直ニ其ノ許可年月日、教場所在地、開筵日時

及日數等ヲ明記シ宗務院ニ通報スヘシ

宗務院ハ前項ノ通報ヲ直ニ宗報ニ告示ス

第八條 親化中特志ヲ以テ臨時親化ヲ請願スル者ハ豫メ隨行長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 東部ノ寺院ニシテ西部親化ノ貫首ヲ特請シ又ハ西部ノ寺院ニシテ東部親化ノ貫首ヲ特請

スルコトヲ得ス

但シ兩大本山直末寺院並ニ貫首前任職寺院ノ特請ニシテ貫首ノ慈慮ニ依ルモノハ前項ノ規定ニ

依ラス

第十條 親化隨行員ハ兩大本山各四名トス

隨行長 各一名

說教師 各一名

隨行 各一名

侍掌 各一名

隨行長ハ親化事務ヲ總掌シ說教師ハ親教ノ主旨ヲ布行シ隨行ハ記錄ヲ司リ侍掌ハ雜務ニ從事ス

第十一條 隨行長ハ親化終了後其ノ彙報ヲ宗務院ニ通報スヘシ

宗務院ハ之ヲ宗報ニ掲載ス

第十二條 親化ニ關スル諸費ハ當該寺院ノ負擔トス

第十三條 兩大本山貫首事故アル時ハ當該本山ハ臨時代理ヲ派遣ス

此ノ場合ノ手續モ亦本法ニ據ル

第十四條 本法施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

兩大本山貫首親化東西區域表

東 部

東京府 神奈川縣 山梨縣 長野縣 群馬縣 埼玉縣

千葉縣 茨城縣 栃木縣 福島縣 新潟縣 山形縣

宮城縣 岩手縣 秋田縣 青森縣 北海道 附 樺太

西 部

靜岡縣 愛知縣 岐阜縣 富山縣 石川縣 福井縣

第五編 布教 ○貫首親化法

第五編 布教 ○布教講習會規則

滋賀縣	三重縣	京都府	奈良縣	大阪府	和歌山縣
兵庫縣	岡山縣	廣島縣	山口縣	島根縣	鳥取縣
愛媛縣	香川縣	德島縣	高知縣	佐賀縣	長崎縣
熊本縣	大分縣	福岡縣	宮崎縣	鹿兒島縣	附朝鮮、臺灣

○布教講習會規則

昭和十年二月十八日
宗令第五號

今般曹洞宗教導講習院規程改題並ニ改正ノ件左ノ通文部大臣ノ許可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布
シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗布教講習所規則(教導講習院規則改正)

第一條 宗務院ハ隔年一回布教講習所ヲ東京ニ開設ス

第二條 講習所ハ布教傳道ニ堪能ナル人材ヲ養成シ且布教ノ統一ヲ圖リ布教師タルノ品位ヲ向上
セシムルヲ目的トス

第三條 講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人 教學部長之ニ當ル
- 教師 一人 宗内碩學ヲ選任ス
- 講師 若干人 布教ニ須要ナル學科ヲ擔任スル内外ノ學者ヲ招聘ス
- 幹事 一人 教學部主事之ニ當ル

書記 若干人 曹洞宗務院書記ヨリ選任ス

所長ハ所務ヲ總理シ教師ハ宗意及布教ノ要諦ヲ講述シ講師ハ布教ニ必要ナル學科ヲ講述シ幹事
ハ講習生ノ取締及庶務ヲ擔任シ書記ハ記録及雜務ニ從事ス

第四條 講習所ノ開設期間ヲ三十日トシ時期ハ宗報ヲ以テ告示ス

第五條 講習生ハ左ノ資格ヲ具備スル者ヨリ特派布教管區ニ於テ各區駐在布教師ト同一員數ヲ選
出シ又宗務院ニ於テ若干名ヲ選定ス

一 僧侶分限轉衣以上

二 三等教師以上ノ教師資格ヲ有スル者

三 道念深厚操行綿密ニシテ身體強健者

四 世壽三十年以上

第六條 前項ノ特派布教管區選出ニハ布教管理ニ於テ適否ヲ調査シ宗務院選定ニハ豫メ候補者ヲ
指定シ宗務所長ヲシテ其ノ適否ヲ調査セシム

第七條 講習生ノ定員ヲ五十人トス

講習生カ右ノ定員ニ超過シタルトキハ選抜試験ヲ行ヒ成績優良ノ者ヨリ順次之ヲ採ル又定員未
滿ノ場合ハ宗務員ノ選定ヲ以テ補充スルコトアルヘシ

第八條 講習生ニハ宗費ヲ以テ其ノ經費ヲ補助ス

第九條 講習ヲ了畢シ試験ニ合格シタル者ニハ講習證書ヲ授與シ曹洞宗教師ト稱セシム

第五編 布教 ○布教講習會規則

第五編 布教 ○布教講習會規則

第十條 講習生ハ正當ノ理由ナクシテ中途退所スルコトヲ得ス

第十一條 本規則施行ニ必要ナル事項ハ宗達ヲ以テ之ヲ定ム

(書式)

布教講習許可願(履歷書一通添付)

何縣何市何村何寺住職

何 某

私儀今般布教講習志願ニ付御許可被下度別紙履歷書相添へ保證人連署ヲ以テ此段相願候也

年 月 日

右 何 某◎

何縣何郡何村何寺住職

保證人 何 某◎

教學部長 姓名 名 殿

講習證

何寺住職

何 某

曹洞宗務院印

右者曹洞宗布教講習所ヲ卒業セシコトヲ證ス

年 月 日

教學部長 姓名 名◎

○地方布教部規則改正

大正十四年十二月二十五日 宗令 第十四號

明治四十四年三月一日宗令第二號曹洞宗務所管内布教部規則ヲ左記ノ通改正シ茲ニ之ヲ發布シ
大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

同年同日宗令第三號曹洞宗務所管内布教部職務章程ハ之ヲ廢止ス

曹洞宗務所管内布教部規則

第一條 宗務所管内布教部ハ其ノ宗務所ニ屬シ布教法第二十四條ニ依リ管内ノ寺院布教及寺院特
殊布教ヲ獎勵舉行セシムル機關トス

第二條 布教部職員ハ布教法ノ定ムル所ニ依リ各其ノ職務ニ從事スヘシ
布教部ノ事務ハ委員長之ヲ掌理ス

第三條 布教部ノ事務所ハ宗務所ニ置ク但シ地方ノ狀況ニ依リ別ニ便宜ノ地ニ置クコトヲ得
前項但書ニ依リタルトキハ委員長ヨリ之ヲ宗務院ニ届出ツヘシ

第四條 布教ノ獎勵及其ノ舉行ニ關シ重要ノ事項ハ布教部總動員ノ會議ヲ以テ決スヘシ
前項ニ關シ宗務所費ヲ以テ支辨シ又ハ之ヲ補助スヘキモノアルトキハ宗務所會ノ議決ヲ經ヘシ

第五條 寺院布教及寺院特殊布教ニ要スル經費及布教講習會ニ要スル經費ハ當該寺院及關係者ノ
負擔トス但シ宗務所費ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得

第五編 布教 ○地方布教部規則

第五編 布教 ○宗務所管内布教部職員選任規則

第六條 布教法第二十九條ニ依リ布教部ニ提出スヘキ寺院ノ布教狀況報告書ヲ提出セサル寺院アルトキハ布教部ハ之ヲ督促シ又事實相違ノ報告ト認ムルトキハ之ヲ改調セシメ布教部ニ於テ實際調査ノ資料ト爲スヘシ

第七條 布教法第三十條ニ依リ布教部ヨリ宗務院ニ報告スヘキ報告書ハ管内一般ノ布教振否ノ大勢ヲ徴シ成績良好ナルトキハ更ニ之ヲ獎勵シ若シ成績不良ノ場合ハ之レカ改善策ヲ講スヘキ必要アルヲ以テ極メテ慎重ニ調査シ苟クモ誇大ニ失スル弊ナキヲ要ス

第八條 布教部ハ布教法及此ノ規則ニ反セサル範圍ニ於テ事務上ノ内規ヲ定ムルコトヲ得

○宗務所管内布教部職員選任規則改正 大正十四年十一月一日 宗令第十一號

曹洞宗務所制度ノ施行ニ伴ヒ明治四十四年宗令第一號曹洞宗務所管内布教部職員選任規則ヲ左ノ通改正シ茲ニ之ヲ發布ス

従前ノ規定ニ依リ選任セラレタル宗務所管内布教部職員ハ本年十二月末日限り資格消滅ス依テ其ノ事務ヲ各宗務所長ニ引繼クヘシ

曹洞宗務所管内布教部職員選任規則

第一條 曹洞宗布教法第二十五條ニ依ル宗務所管内布教部委員及布教師ノ選任手續ハ此ノ規則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 委員長ハ宗務所長委員ハ教區長之ニ當リ其ノ職ニ従事スヘシ

昭和五年十二月一日
宗令第十一號
以第一號
宗令第十一號
改正

第三條 布教師ハ宗務所會ニ於テ管區法地以上ノ寺院住職又ハ前任職中ヨリ其ノ候補者ヲ選舉シ管長ノ任命ヲ請フヘシ

第四條 布教師ノ員數ハ二名以上トシ管區ノ大小ニ應シ宗務所會之ヲ定ム

第五條 布教師ノ任期ハ二年トス但シ事故ニ依リ後任ノ選任ヲ得サルトキハ其ノ選任ヲ得ルマテ其ノ任務ヲ繼續セシム

第六條 布教部員ハ總テ名譽職トス

○地方布教講習會細則 明治四十四年三月一日 宗達甲第四號

本細則ハ布教法第二十八條ニヨリ早晚改正セラルヘキモノナルモ參考トシテ之ヲ載ス

地方布教講習會細則

第一條 布教講習會ノ開設ハ成ルヘク便宜ノ時處ヲ利用シ簡易ニシテ講習ノ實益ヲ擧ケシムルコトヲ務ムヘシ

第二條 布教講習會ハ布教部委員長之ヲ主管シ布教部職員ヲシテ其ノ講師ニ當ラシムヘシ但シ別ニ講師ヲ招聘スルヲ妨ケス

第三條 布教講習會ハ既ニ布教ニ經驗アル者ノ熟達ヲ圖リ及初進者ヲ誘掖啓發シテ漸次布教ノ方法ヲ會得セシムルヲ目的トス

第四條 講習ヲ分チテ作法ノ練習及說教ノ練習トス

第五編 布教 ○地方布教講習會細則

作法ノ練習ハ法堂ニ於ケル動作ヲ練習シ進退如法ナラシムルヲ目的トス初進者ニ對シテハ傍ラ各種法要ニ於ケル進退動作ヲ習得セシムヘシ

說教ノ練習ハ其ノ方法及口演ノ實地ニ就キ練習セシムルモノトス

第五條 說教ハ専ラ修證義ヲ標準トシ其ノ一節又ハ一句ヲ贊題トシテ總序及四綱領ヲ敷衍シ法譬因ノ三目ヲ回互シテ宗意安心ヲ演暢セシムルヲ主眼トス

第六條 教說練習ノ方法ハ前條ノ旨趣ニ依準シテ講習生ヲ指導シ傍ラ言語ノ明晰及意義ノ貫徹ニ留意セシムヘシ初進者ニ對シテハ豫メ簡易ナル講録ヲ授ケ之ニ依リテ演述セシムヘシ

第七條 講習ニ精勵シ其ノ成績良好ナル者ニハ布教部ヨリ精勤證ヲ授與スルコトヲ得

第八條 布教講習會了畢シタルトキ布教部委員長ハ其ノ開設ノ期間場所講師ノ姓名講習生ノ寺號姓名及一般成績等ヲ詳記シタル報告書ヲ調製シ宗務所長ノ奥書ヲ得テ之ヲ宗務院ニ提出スヘシ

第二節 各地特殊布教

○北海道布教獎勵法改正

昭和四年六月十五日
宗法 第五號

今般曹洞宗北海道布教獎勵法ヲ左記ノ通改正シ曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且文部大臣ノ認可ヲ得テ依テ茲ニ之ヲ發布シ本日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗北海道布教獎勵法

第一條 宗務院ハ北海道宗務所長ヲシテ管内ノ寺院住職及說教所ノ擔任教師ヲ獎勵シ布教ノ擴充ヲ企畫セシム

第二條 宗務院ハ北海道巡回布教師ヲシテ各寺院及說教所ノ布教ヲ獎勵シ及平素布教ノ成績ヲ勘査セシム但シ其ノ經費ハ北海道地方布教費並宗務院ヨリ補給スル布教補助金ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 北海道宗務所長ハ管内ニ於テ新ニ開設セラルヘキ樞要ノ土地ニハ近傍ノ寺院住職又ハ說教所擔任教師若クハ相當ノ有志者ヲシテ說教所又ハ寺院ヲ設置セシムヘシ

第四條 宗務院ハ北海道ニ於テ寺院及說教所ノ設立ニ從事シ又ハ從事セムトスル本宗僧侶ヨリ申請アル場合ハ其ノ履歷ヲ調査シ布教師ノ辭令ヲ交附ス

第五條 新寺創建ノ目的ヲ以テ新ニ說教所ヲ設立スルトキ及新寺ヲ創建シタルトキハ宗費ヲ以テ一回限リ相當ノ補助金ヲ下附ス但シ下附ノ時期ハ毎年會計年度末トス

第六條 創建シタル新寺ニハ法地免贖ノ下附ニ關シテ其ノ義財ヲ免除ス

第七條 創建シタル新寺及說教所ニハ創建ノ年ヨリ十箇年間宗費賦課ヲ免除ス但シ宗門全般ニ係ル寄附金並慶弔費金兩本山ニ對スル特殊ノ納金及地方費ハ此限ニアラス

第八條 宗費免除期間滿了ノ寺院及說教所ニハ曹洞宗寺院級階査定法ニ準據シ相當ト認ムル級階ニ編入シテ宗費ヲ賦課ス

第九條 新寺創建者ニシテ當該寺院ニ住職スルトキハ教師檢定及住職ニ關スル義財ヲ免除ス

第十條 新寺創建者未轉衣ニシテ轉衣ヲ出願スルトキハ其ノ義財ヲ免除ス

第五編 布教 ○北海道布教獎勵法

第十一條 僧侶及檀徒信徒ニシテ北海道布教ニ關シ特殊ノ功勞アル者ハ相當ノ賞典ヲ行フ
第十二條 正當ノ理由ナクシテ說教所又ハ新寺ノ創建ヲ阻礙シ又ハ布教ヲ妨害スル者アルトキハ
曹洞宗懲戒法ニ依リ之ヲ處分ス

○北海道議會法改正 昭和四年六月一日 宗法第二號

曹洞宗北海道議會法ヲ左ノ通改正シ曹洞宗宗會ノ協賛ヲ經且ツ文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲
ニ之ヲ發布シ本日より之ヲ施行ス

曹洞宗北海道議會法

第一條 曹洞宗北海道議會ハ北海道内ニ於ケル開教及布教ノ實績ヲ學クルタメ毎年一回之ヲ開會
セシム
第二條 議會ハ北海道寺院住職並ニ說教所公認擔任教師ノ選出セル議員ヲ以テ組織ス
但シ兼務住職又ハ貳以上ノ說教所ヲ擔任スル教師ト雖投票ハ一人一票トス
第三條 被選人ノ資格ハ北海道内法地以上ノ寺院住職トシ其ノ任期ハ滿四年トス
第四條 議員ハ十名トス
第五條 選舉ニ關スル事務ハ宗務所長之ヲ執行ス
第六條 宗務所長ハ議會議場ノ設定及議會ニ關スル諸般ノ事務ヲ擔任ス
第七條 宗務所長ハ左ノ各號ニ據リ議案ヲ調製シ議會ニ提出シ議事ニ附スルモノトス

一、開教獎勵ノ方法

二、寺院說教所増設ノ方法

三、布教普及ノ方法

四、寺院及說教所創立補助金交附ノ方法

五、地方費割當徴收ノ方法

第八條 宗務所長ハ番外ニ列シ提出ノ議案ニ關シ説明シ質疑ニ應答スルモノトス

第九條 議會ノ會期ハ五日以内トス

第十條 議會ハ現行ノ宗法及宗令ニ抵觸スル議案ヲ提出シ又ハ議事ヲ爲ス事ヲ得ス

第十一條 本議會費開教事務費布教費宗務所費ハ道内寺院及說教所ノ負擔トス

第十二條 宗務院ハ本議會ノ決議セル開教及布教上ノ施設ヲ調査シ特ニ必要アリト認ムルトキハ

適當ノ補助金ヲ交附ス

第十三條 本議會ノ決議事項ハ議長及宗務所長連署ヲ以テ宗務院ニ具申シ認可ヲ得テ其效力ヲ生ス

第十四條 本法ノ施行細則及議員選舉細則ハ宗務所長之ヲ制定シ宗務院ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 本法ハ昭和十六年三月三十一日ニ至リ其ノ效力ヲ失フ

○臺灣布教法改定 昭和四年十一月十五日 宗法第九號

第一條 宗務院ハ臺灣ニ於ケル樞要ノ地ニ本宗寺院及布教所ヲ設置シテ布教ノ擴充ヲ企畫ス

第五編 布教 ○臺灣布教法

- 第二條 宗務院ハ臺灣ニ布教管理一名布教師布教師補若干名ヲ置ク
- 第三條 布教管理ハ兩木山臺灣別院ニ駐在シ宗務院ノ命ヲ承ケ教義ヲ宣揚シ及臺灣ニ於ケル開教並ニ布教事務ヲ監督ス
- 布教管理ハ兩木山臺灣別院ノ宗務ヲ兼攝ス
- 第四條 布教管理ハ教線擴張ノ爲メ毎年ナルヘク二箇所以上ノ開教適地ヲ選定シ布教師ヲ派シ開教ニ從事セシムヘシ
- 第五條 布教管理ハ臺灣在來ノ僧侶ヲ招徠教育シ其ノ管理スルトコロノ寺院ト本宗トノ關係ヲ密接ナラシムヘシ
- 第六條 宗務院ハ臺灣總督府各支廳所在地其ノ他樞要土地ノ寺院ヲ曹洞宗特別寺院第七條ニ依ル兩木山直末寺院トス其寺院ノ位置寺號ハ宗令ヲ以テ之ヲ告示ス
- 第七條 兩木山直末寺院ノ住職ハ管長之ヲ特選ス
- 第八條 兩木山直末寺院ノ住職ハ他ノ住職タルモ妨ケナシ
- 第九條 兩木山直末以外ノ寺院ハ曹洞宗寺院法第八條ニ依ル一般寺院ト見做ス
- 第十條 前條寺院住職ノ任免ハ曹洞宗寺院住職任免法ヲ適用ス
- 第十一條 宗務院ハ新ニ着手スヘキ土地ニ駐在シ開教ニ從事セル布教ニ對シテハ其ノ難易ニ應ジ初一年間臺灣開教費中ヨリ若干ノ衣資ヲ補給ス
- 第十二條 新寺創立ノ目的ヲ以テ布教所ヲ設置シ又ハ新寺ヲ創立シタルトキハ臺灣開教費中ヨリ

一回限り若干ノ補助金ヲ下附ス

- 第十三條 創立シタル新寺ニハ法地免贖ノ下附ニ關シ其ノ義財ヲ免除ス
- 第十四條 創立シタル新寺及布教所ニハ寺號公稱又ハ設立認可ヲ得タル年ヨリ滿十箇年間宗費ノ賦課ヲ免除ス但シ宗門全般ニ係ル寄附金並ニ慶弔費金兩木山ニ對スル特殊ノ納金及地方費ハ此限リニ非ス
- 第十五條 設立認可後十年滿了ノ寺院及布教所ニハ曹洞宗寺院級階査定法ニ準據シ級階ヲ定メ宗費ヲ賦課ス
- 第十六條 新寺創立者ニシテ當該寺院ニ住職スルトキハ教師檢定及住職ニ關スル義財ヲ免除ス
- 第十七條 新寺創立者未轉衣ニシテ轉衣ヲ出願スルトキハ其ノ義財ヲ免除ス
- 第十八條 宗務院ハ臨時布教師ヲ特派シ各寺院及布教所ヲ巡回セシムルコトアルヘシ
- 第十九條 僧侶及檀信徒ニシテ開教及布教ニ關シ特殊ノ功勞アル者ニハ相當ノ賞典ヲ行フ
- 第二十條 正當ノ理由ナクシテ寺院又ハ布教所ノ創設ヲ阻礙シ又ハ布教ヲ妨害スル者アルトキハ曹洞宗懲戒法ニ依リ處分ス
- 第二十一條 本法施行ニ關スル細則ハ宗務院ニ於テ別ニ之ヲ定ム

○臺灣別院假章程

明治四十四年四月十五日
宗達甲第十號

曹洞宗大本山臺灣別院假章程

第五編 布教 ○臺灣別院假章程

第五編 布教 ○臺灣別院假章程

第一條 大本山臺灣別院ハ管長ニ直屬シ宗務院ノ指揮ヲ承ケ教義ヲ宣揚シ及臺灣全體ノ布教事務ヲ監督スル所トス

第二條 別院ニ左ノ職員ヲ置ク

臺灣布教管理 一名

院主 一名

布教師及布教師補 若干名

院主ハ當分ノ内布教師ノ兼任トス但シ時宜ニ依リ專任スルコトアルヘシ

第三條 布教管理ハ院主以下ノ職員ヲ統管シテ別院ノ事務ヲ監理シ及臺灣全體ノ布教師ヲ督勵シテ布教ノ策進ヲ企畫シ常ニ其ノ勤怠ヲ勘査シ又ハ各寺院及各布教所ノ經營ヲ監視シ並ニ其ノ權

徒信徒ニ關スル重大ノ機務ヲ決裁ス但シ其ノ職務上處斷スヘカラスト認メタル事項又ハ疑義ニ

屬スル事件ハ宗務院ニ承合シテ執行スヘキモノトス

布教管理事故アルトキハ通常ノ事務ニ限り院主ヲシテ臨機事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條 院主ハ布教管理ヲ補佐シテ別院ノ經營ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 布教師及布教師補ハ布教管理及院主ヲ補佐シ布教及諸般ノ院務ニ従事ス

第六條 別院ニ於テ毎月一回教務財務及臺灣全體ノ教況ニ關スル報告書ヲ調製シ之ヲ宗務院ニ提出スヘシ

第七條 職員ノ任期ヲ滿三箇年トス但シ成績良好ナル者ハ繼續ヲ命シ又其ノ任ニ堪ヘサル者ハ隨

時解職スルコトアルヘシ

時解職スルコトアルヘシ

○樺太布教法制定

昭和四年十一月一日
宗法第八號

今般曹洞宗樺太布教法ヲ左ノ通改正シ曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且樺太廳長官ノ承認ヲ得タリ依テ

茲ニ之ヲ發布シ本日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗樺太布教法

第一條 宗務院ハ樺太ニ於ケル樞要ノ地ニ寺院及布教所ヲ設置シテ布教ノ擴充ヲ企畫ス

第二條 宗務院ハ樺太廳各支廳所在地及樞要ノ地ノ寺院ヲ曹洞宗特別寺院法第七條ニ依ル兩本山

直末寺院トス其ノ寺院ノ位置寺號ハ宗令ヲ以テ之ヲ告示ス

第三條 兩本山直末寺院ノ住職ハ管長之ヲ特選ス

第四條 兩本山直末寺院ノ住職ハ他ノ寺院住職者タルモ妨ナキモノトス

第五條 兩本山直末以外ノ寺院ハ曹洞宗特別寺院法第八條ニ依ル一般寺院ト看做ス

第六條 前條寺院住職ノ任免ハ曹洞宗寺院住職任免法ヲ適用ス

第七條 樺太ニ布教管理一名布教師布教師補若干名ヲ置ク

第八條 布教管理ハ兩本山樺太別院ニ駐在シ宗務院ノ命ヲ承ケ各寺院布教所及布教者ヲ監督シ開

教並ニ布教事務ヲ統理ス

第九條 布教管理ハ教線擴張ノタメ毎年成ルヘク二箇所以上ノ開教適地ヲ選定シ布教師ヲ派シ開

第五編 布教 ○樺太布教法

昭和五年十一月五日
宗法第十五號
以中法正改

第五編 布教 ○樺太布教法

教ニ従事セシムヘシ

第十條 宗務院ハ樺太ニ於テ開教及布教ニ従事シ又ハ従事セムトスル者ノ履歴ヲ調査シ布教師及布教師補ノ辭令ヲ交附ス

第十一條 宗務院ハ新ニ着手スヘキ土地ニ駐在シ開教ニ従事セル布教師ニ對シ其ノ難易ヲ計リ當初一年間樺太開教費中ヨリ若干ノ衣資ヲ補給ス

第十二條 新寺創建ノ目的ヲ以テ布教所ヲ設置シタルトキ及新寺ヲ創立シタルトキハ樺太開教費中ヨリ一回限り若干ノ補助金ヲ下附ス

第十三條 創立シタル新寺ニハ法地免贖ノ下附ニ關シ其ノ義財ヲ免除ス

第十四條 創立シタル新寺及布教所ニハ寺號公稱又ハ設立認可ヲ得タル年ヨリ滿十年間宗費ノ賦課ヲ免除ス但シ宗門全般ニ係ル寄附金並ニ慶弔費金兩本山ニ對スル特殊ノ納金及地方費ハ此限リニアラス

第十五條 認可後十年滿了ノ寺院及布教所ニハ曹洞宗寺院級階査定法ニ準據シ相當ト認ムル級階ニ編入シテ宗費ヲ賦課ス

第十六條 新寺創立者ニシテ當該寺院ニ住職スルトキハ教師檢定及住職ニ關スル義財ヲ免除ス

第十七條 新寺創立者未轉衣ニシテ轉衣ヲ出願スルトキハ其ノ義財ヲ免除ス

第十八條 宗務院ハ臨時布教師ヲ特派シ各寺院及布教所ヲ巡回セシムルコトアルヘシ

第十九條 僧侶及檀信徒ニシテ開教及布教ニ關シ特殊ノ功勞アル者ニハ相當ノ賞典ヲ行フ

第二十條 正當ノ理由ナクシテ寺院又ハ布教所ノ創設ヲ阻礙シ又ハ布教ヲ妨害スル者アルトキハ曹洞宗懲戒法ニ依リ之ヲ處分ス

第二十一條 本法施行ニ關スル細則ハ宗務院ニ於テ別ニ之ヲ定ム

○朝鮮布教法制定

今般曹洞宗朝鮮布教法ヲ左ノ通改正シ曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且朝鮮總督ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ本日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 宗務院ハ朝鮮各道樞要ノ地ニ寺院及布教所ヲ設置シ布教ノ擴充ヲ企畫ス

第二條 朝鮮ニ布教管理者一名布教師布教師補若干名ヲ置ク

第三條 布教管理者ハ兩本京城別院ニ駐在シ宗務院ノ命ヲ承ケ各寺院布教所及布教者ヲ監督シ開教及布教事務ヲ統理ス

第四條 布教管理者ハ兩本京城別院ノ院務ヲ兼攝ス

第五條 布教管理者ハ教線擴張ノタメ毎年成ルヘク參詣所以上ノ開教適地ヲ選定シ布教師ヲ派シ開教ニ従事セシムヘシ

第六條 布教管理者ハ朝鮮在來ノ僧侶ヲ招徠教育シ本宗トノ關係ヲ密接ナラシムヘシ

第七條 宗務院ハ總督府各道廳所在其ノ他樞要都市ノ寺院ヲ曹洞宗特別寺院法第七條ニ依ル兩本

第五編 布教 ○朝鮮布教法

山直末寺院トス

第八條 兩本山直末寺院ノ住職ハ管長之ヲ特選ス

第九條 兩本山直末寺院ノ住職ハ他ノ寺院住職タルモ妨ナシ

第十條 兩本山直末寺院ノ位置寺號ハ宗令ヲ以テ之ヲ告示ス

第十一條 兩本山直末以外ノ寺院ハ曹洞宗特別寺院法第八條ニ依ル一般寺院ト看倣ス

第十二條 前條寺院住職ノ任免ハ曹洞宗寺院住職任免法ヲ適用ス

第十三條 宗務院ハ朝鮮ニ於テ開教及布教ニ從事シ又ハ從事セムトスル者ノ履歴ヲ調査シ布教師及布教師補ノ辭令ヲ交附ス

第十四條 宗務院ハ新ニ着手スヘキ土地ニ駐在シ開教ニ從事セル布教師ニ對シ其ノ難易ヲ計リ朝鮮開教費中ヨリ當初一年間若干ノ衣資ヲ補給ス

第十五條 新寺創建ノ目的ヲ以テ布教所ヲ設置シタルトキ及新寺ヲ創立シタルトキハ朝鮮開教費中ヨリ一回限リ若干ノ補給金ヲ交附ス

第十六條 創立シタル新寺及布教所ニハ寺號公稱又ハ設立認可ヲ得タル年ヨリ滿十箇年間宗費ノ賦課ヲ免除ス但シ宗門全般ニ係ル寄附金並慶弔費金兩本山ニ對スル特殊ノ納金及地方費ハ此限リニアラス

第十七條 設立認可後十年滿了ノ寺院及布教所ニハ曹洞宗寺院級階査定法ニ準據シ相當ト認ムル級階ニ編入シテ宗費ヲ賦課ス

第十八條 新寺創立者ニシテ當該寺院ニ住職スルトキハ教師檢定及住職ニ關スル義財ヲ免除ス

第十九條 新寺創立者未轉衣ニシテ轉衣ヲ出願スルトキハ其ノ義財ヲ免除ス

第二十條 僧侶及檀信徒ニシテ開教及布教ニ關シ特殊ノ功勞アル者ニハ相當ノ賞典ヲ行フ

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ寺院又ハ布教所ノ創設ヲ阻礙シ又ハ布教ヲ妨害スル者アルトキハ曹洞宗懲戒法ニ依リ之ヲ處分ス

第二十二條 宗務院ハ臨時布教師ヲ特派シ各寺院及布教所ヲ巡回セシムルコトアルヘシ

第二十三條 本法施行ニ要スル細則ハ宗務院ニ於テ別ニ之ヲ定ム

○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

大正四年九月一日 宗達甲第九號

今般朝鮮總督府令第八十二號及同第八十三號ヲ以テ朝鮮ニ於ケル神社寺院規則及布教規則別記ノ通制定セラレタルニ付末派僧侶一般之ヲ領知スヘシ

朝鮮總督府令第八十二號 (大正四年八月十六日)

神社寺院規則

第一條 神社ヲ創立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ創立地ニ於テ崇敬者ト爲ルヘキ者三十人以上

上連署シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一 創立ノ事由

二 神社ノ稱號

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

三 創立地名

四 祭神

五 建物並境内地ノ坪數、圖面及境内地周圍ノ狀況

六 創立費及其ノ支辨方法

七 維持ノ方法

八 崇敬者ノ數

第二條 寺院ヲ創立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ創立地ニ於テ檀信徒ト爲ルヘキ者三十人以

上連署シ所屬宗派管長ノ承認書ヲ添ヘ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一 創立ノ事由

二 寺院ノ稱號

三 創立地名

四 本尊並所屬宗派ノ名稱

五 建物並境内地ノ坪數、圖面及境内地周圍ノ狀況

六 創立費及其ノ支辨方法

七 維持ノ方法

八 檀信徒ノ數

第三條 神社ニハ神殿及拜殿ヲ備フヘシ

第四條 寺院ニハ本堂及庫裏ヲ備フヘシ

第五條 神社又ハ寺院創立ノ許可ヲ受ケタル者許可ノ日ヨリ二年内ニ神殿拜殿、又ハ本堂庫裏ヲ

建設セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ其ノ

期間ヲ延長スルコトヲ得

建設ヲ竣リタルトキハ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第六條 變災ニ依リ神殿、拜殿又ハ本堂、庫裏ヲ亡失シタルトキ又ハ亡失シタル神殿拜殿若クハ

本堂庫裏ヲ再建シタルトキハ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

神殿拜殿又ハ本堂庫裏ヲ亡失ノ日ヨリ六年内ニ再建セサルトキハ創立許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 神社又ハ寺院ヲ移轉セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一 移轉ノ事由

二 移轉先地名

三 建物並境内地ノ坪數、圖面及境内地周圍ノ狀況

四 移轉費及其ノ支辨方法

第八條 第五條ノ規定ハ神社又ハ寺院移轉ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 神社又ハ寺院ノ廢止又ハ合併セムトスルトキハ其ノ事由及財産ノ處分方法ヲ具シ朝鮮總

督ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

- 一 神社ノ稱號ヲ變更シ又ハ祭神ヲ増減變更セムトスルトキ
 - 二 寺院ノ稱號ヲ變更シ又ハ本尊ヲ増減變更セムトスルトキ
 - 三 寺院ノ所屬宗派ヲ變更セムトスルトキ
 - 四 神社又ハ寺院ノ維持ノ方法ヲ變更セムトスルトキ
 - 五 建物又ハ境内地ノ坪數ヲ増減セムトスルトキ
- 前項第五號ノ場合ニ於テハ其ノ圖面ヲ申請書ニ添附スヘシ
- 第十一條 寺院ニハ住職ヲ置キ寺院ニ關スル事務ヲ管理セシムヘシ
住職ヲ命セラレタルトキハ本人、死亡其他ノ爲住職ニ異動アリタルトキハ檀徒信徒總代ヨリ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
- 第十二條 神社ニハ崇敬者總代寺院ニハ檀徒信徒總代各三人以上ヲ置キ其ノ住所氏名ヲ其ノ神社寺院所在地ヲ管轄スル道長官ニ届出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ
道長官ハ前項ノ總代ヲ不適任ト認ムルトキハ變更セシムルコトヲ得
總代ハ神社又ハ寺院ノ維持保存ニ關シ神職又ハ住職ヲ補助シ神社又ハ寺院ニ關スル願届ニ連署スヘシ
- 第十三條 神社又ハ寺院ハ其ノ所有ニ屬スル不動産及寶物ニ關シ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ
- 一 土地ニ在リテハ所在地、地番號、地目、面積及境内地境外地ノ區別

- 二 建物ニ在リテハ所在地、建坪、構造ノ種類及境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別
 - 三 寶物ニ在リテハ其ノ名稱員數品質形狀尺寸作者及傳來
- 第十四條 神社又ハ寺院ハ財産臺帳ヲ備ヘ其ノ所有ニ屬スル不動産及寶物ニ關シ前條各號ノ事項ヲ登載スヘシ

第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 不動産又ハ寶物ヲ賣却、讓與、交換、質入若ハ抵當ト爲サムトスルトキ
- 二 境内地ノ立竹木ヲ伐採セムトスルトキ
- 三 負債ヲ爲サントスルトキ

第十六條 境内地及其ノ建物ハ道長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ神社ニ在リテハ祭典儀式ノ執行寺院ニ在リテハ傳法、布教、法要執行及僧尼止住ノ目的以外ニ濫ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第十七條 第五條第一項但書、第七條、第九條、第十條又ハ第十五條ニ依リ寺院ヨリ提出スル願書ニハ其ノ所屬宗派管長ノ意見書ヲ添附スヘシ

第十八條 本令ニ依ル届出ハ其ノ事故ノ生シタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スヘシ

第十九條 本令中寺院ニ關スル規定ハ内地ニ於ケル佛道各宗派ニ屬スルモノニ限り之ヲ適用ス

第二十條 許可ヲ受ケスシテ神社寺院又ハ之ニ類似ノ建造物ヲ設ケタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

附 則

本令ハ大正十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ存在スル神社又ハ寺院ハ本令施行ノ日ヨリ五月内ニ第一條又ハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

○朝鮮總督府令第八十三號 (大正四年八月十六日)

布 教 規 則

第一條 本令ニ於テ宗教ト稱スルハ神道、佛道、及基督教ヲ謂フ

第二條 宗教ノ宣布ニ從事セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ布教者タル資格ヲ證明スヘキ文書及履歷書ヲ添ヘ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ布教管理者ヲ置キタル教派宗派又ハ朝鮮ノ寺刹ニ屬スル者ニ在リテハ第二號ノ事項ヲ省略スルコトヲ得

一 宗教及其ノ教派宗派ノ名稱

二 教義ノ要領

三 布教ノ方法

前項各號ニ掲クル事項ヲ變更シタルトキハ十日内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第三條 神道各教派又ハ内地ノ佛道各宗派ニ於テ布教ヲ爲サムトスルトキハ其ノ教派又ハ宗派ノ

管長ハ布教管理者ヲ定メ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一 宗教及其ノ教派、宗派ノ名稱

二 教規又ハ宗制

三 布教ノ方法

四 布教管理者ノ權限

五 布教者監督ノ方法

六 布教管理事務所ノ位置

七 布教管理者ノ氏名及其ノ履歷書

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 朝鮮總督ハ布教ノ方法、布教管理者ノ權限及布教者監督ノ方法又ハ布教管理者ヲ不適當

ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 布教管理者ハ朝鮮ニ居住スル者タルコトヲ要ス

布教管理者ハ毎年十二月三十一日ノ現在ニ依リ所屬布教者名簿ヲ作り翌年一月三十一日迄ニ朝

鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ノ名簿ニハ布教者ノ氏名及居住地ヲ記載スヘシ

第六條 朝鮮總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第三條以外ノ教派又ハ宗派ニ對シ布教管理者ヲ

置カシムルコトアルヘシ

前項ニ依リ布教管理者ヲ置キタルトキハ十日内ニ第三條第一項各號ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

第七條 前條ノ布教管理者ニ付テハ第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス

第三條以外ノ教派又ハ宗派ニ於テ其ノ規約等ニ依リ布教管理者ヲ置キタルトキハ第四條第五條及前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條 宗教ノ宣布ニ從事スル者氏名ヲ變更シ居住地ヲ移轉シ又ハ布教ヲ廢止シタルトキハ十日内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第九條 宗教ノ用ニ供スル爲教會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設立セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 設立ヲ要スル事由
- 二 名稱及所在地
- 三 敷地ノ面積及建物ノ坪數其ノ所有者ノ氏名並圖面
- 四 宗教及其ノ教派宗派ノ名稱
- 五 布教擔任者ノ資格及其ノ選定方法
- 六 設立費及其ノ支辨方法
- 七 管理及維持ノ方法

前項第五號ニ依リ布教擔任者ヲ選定シタルトキ設立者又ハ布教管理者ハ其ノ氏名及居住地ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ十日内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十條 前條第一項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ

許可ヲ受クヘシ

第十一條 宗教ノ用ニ供スル教會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ廢止シタルトキハ十日内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十二條 布教管理者及朝鮮寺刹ノ本寺住持ハ各其ノ所屬寺院、教會堂、說教所又ハ講義所別ニ毎年十二月三十一日ノ現在ニ依リ其ノ信徒數及其ノ年ニ於ケル信徒ノ増減數ヲ翌年一月三十一日迄ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ布教管理者ヲ置カサル教派、宗派及朝鮮ノ寺刹ニ屬セサル教會堂說教所又ハ講義所ニ在リテハ各其ノ布教擔任者ヨリ届出ツヘシ

第十三條 布教管理者ヲ置キタル教派、宗派ニ屬スル者又ハ朝鮮ノ寺刹ニ屬スル者本令ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ布教管理者又ハ本寺住持ノ副書ヲ添附スヘシ

第十四條 第九條第一項又ハ第十條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 朝鮮總督ハ必要アル場合ニ於テハ宗教類似ノ團體ト認ムルモノニ本令ヲ準用スルコトアルヘシ

前項ニ依リ本令ヲ準用スヘキ團體ハ之ヲ告示ス

附 則

第十六條 本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治三十九年統監府令第四十五號ハ之ヲ廢止ス

第五編 布教 ○朝鮮神社寺院規則及布教規則制定ノ件

第五編 布教 ○滿洲布教法

第十八條 明治三十九年統監府令第四十五號第一條第二條及第三條ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ本令第二條ノ届出ヲ爲シ又ハ第三條ノ認可若ハ第九條ノ認可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ本令第二條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第二號ノ事項、本令第三條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第二號第四號ノ事項、本令第九條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第三號第五號ノ事項並布教擔任者ノ氏名及履歷ヲ具シ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十九條 本令施行ノ際現ニ宗教ノ宣布ニ從事シ、布教管理者ヲ置キ又ハ宗教ノ用ニ供スル教會堂說教所講義所ノ類ヲ管理スル者ニシテ前條ニ該當セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ第二條第三條又ハ第九條ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ第九條ノ事項ヲ届出タル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

○滿洲開教規程創定

明治四十一年二月十五日
宗規 第十三號

曹洞宗滿洲開教規程左ノ通創定シ曹洞宗議會ノ協贊ヲ經且ツ内務大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗滿洲布教法

第一條 宗務院ハ滿洲樞要ノ地ニ布教所ヲ設置シ左記各號ノ事業ヲ舉行ス

- 一 滿洲駐在ノ文武官僚及居留人民ニ布教スルコト
- 二 滿洲駐在ノ守備軍隊ヲ慰問シ及之ニ布教スルコト

大正十四年十月十二日
宗法第一一號
改正
以テ題號ヲ

三 滿洲官民ニ布教シ及其ノ僧侶ヲ教導スルコト

四 必要ニ應シ教育機關ヲ設ケ居留人民及滿洲人民ノ子弟ヲ教育スルコト

第二條 大連、安東縣、旅順ヲ第一期開教地トシ漸次教域ノ發展ヲ計ルモノトス開教地以外ニシテ布教ノ必要ニ逼リ若クハ開教ニ便宜ナル地方ニハ臨機布教ヲ開始スルコトアルヘシ

第三條 滿洲ニ布教管理一名布教師若干名ヲ置ク

第四條 布教管理ハ關東都督府所在地若クハ特定メタル管理事務所ニ駐在シ宗務院ノ命ヲ承ケ各布教所ヲ監督シ開教ノ事業ヲ統理ス

布教師ハ擔任布教所ニ駐在シ宗務院又ハ管理ノ指揮監督ヲ承ケ布教ノ事業ヲ管掌ス

第五條 布教所ハ維持方法ノ確定ヲ待チ兩本山別院又ハ寺院組織ト爲スモノトス

第六條 本法ノ施行ニ要スル細則ハ宗務院ニ於テ別ニ之ヲ定ム

○關東州及南滿洲布教所規則ノ件

大正十二年四月二日
宗達 甲 第三號

今般關東廳令第七十九號ヲ以テ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル寺院、教會、廟宇其ノ他ノ布教所規則別記ノ通制定セラレタルニ付未派僧侶一般之ヲ領知スヘシ

關東廳令第七十九號

關東州及南滿洲鐵道附屬地寺院、教會、廟宇其ノ他ノ布教所規則左ノ通定ム

大正十一年十月二十六日

關東長官男爵 伊集院彥吉

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

關東州及南滿洲鐵道附屬地寺院、教會、廟宇其ノ他ノ布教所規則

第一條 寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ノ設立ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ住職、僧侶、牧師、道士又ハ布教師ト爲ルヘキ者及檀信徒ト爲ルヘキ者三人以上ノ連署ヲ以テ左ノ事項ヲ具シ所屬宗派ノ管長又ハ之ニ類スル監督者ノ承認書ヲ添ヘ關東長官ニ願出ツヘシ

- 一、事由
 - 二、設立地
 - 三、名稱
 - 四、宗派系統
 - 五、本尊又ハ祭神
 - 六、本堂其ノ他ノ建物ノ位置、構造及建坪、竝ニ境内ノ位置面積及模様
 - 七、設立費及其ノ支辨方法
 - 八、布教方法
 - 九、維持方法
 - 十、檀信徒トナルヘキ者ノ戸數
 - 十一、住職、僧侶、牧師、道士又ハ布教師ト爲ルヘキ者ノ履歷及其ノ資格
 - 十二、本堂其ノ他ノ建物ノ起工及竣成豫定期日
- 前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第六號ノ事項及境内地周圍ノ狀況ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第二條 寺院、教會、廟宇又ハ其他ノ布教所ノ移轉ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ

關東長官ニ願出ツヘシ

- 一、事由
 - 二、移轉地
 - 三、本堂其他ノ建物ノ位置、構造及建坪竝境内ノ位置、面積及模様
 - 四、移轉費及其ノ支辨方法
 - 五、本堂其ノ他ノ建物ノ起工及竣成豫定期日
- 前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第三號ノ事項及境内地周圍ノ狀況ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ
- 第三條 寺院、教會、廟宇又ハ其他ノ布教所ノ廢止若ハ併合ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

- 一、事由
 - 二、廢止又ハ併合セラルヘキ寺院其ノ他ノモノノ名稱及所在地
 - 三、併合スヘキ寺院其ノ他ノモノノ名稱及所在地
 - 四、本堂其ノ他ノ建物及財產ノ處分方法
- 第四條 第一條第一項第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一、事由

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

二、變更セムトスル箇所及設計

三、所要ノ費用額及其ノ支辨方法

四、著手及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第二號ノ事項ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第五條 第一條第一項第二號乃至第五號第七號乃至第九號及第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルト

キハ其ノ事由ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

第六條 寺院、教會、廟宇、又ハ其ノ他ノ布教所ノ設立、移轉、廢止又ハ併合ノ許可ヲ受ケタル者各之ヲ了シタルトキハ遲滯ナク關東長官ニ届出ツヘシ

寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ノ設立移轉又ハ併合ノ許可ヲ受ケテ二年内ニ之ヲ爲ササルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 寺院、教會、又ハ其ノ他ノ布教所ニハ神社類似ノ社祠又ハ鳥居ヲ建設スルコトヲ得ス

第八條 寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ハ其ノ設立後遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル明細

書ヲ調製シ之ヲ關東長官ニ提出スヘシ

一、名稱

二、所在地

三、宗派系統

四、本尊又ハ祭神

五、堂宇其ノ他ノ建物

六、境内地

七、境内附屬建物

八、檀信徒ノ戸數

九、維持方法

十、沿革

第九條 寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ハ其ノ設立後遲滯ナク其ノ所有ニ屬スル不動産及

寶物ニ關シ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ届出ツヘシ

一、土地ニ在リテハ其ノ所在地、地目及反別又ハ坪數及境内地、境外地ノ區別

二、建物ニ在リテハ其ノ位置、名稱、構造、建坪又ハ間數及境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ル

モノトノ區別

三、寶物ニ在リテハ名稱、員數、形狀、品質、寸尺、作者、及傳來

前項ノ届出ヲ爲シタル後、届出テタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク届出ツヘシ

第十條 寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ハ財産臺帳ヲ備ヘ其ノ所有ニ屬スル不動産及寶物

ニ關シ前項各號ノ事項ヲ記載スヘシ

第十一條 寺院、教會、廟宇其ノ他ノ布教所ニ於テ其ノ建物ノ全部若ハ一部又ハ其ノ寶物ヲ亡失

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

シタルトキハ其ノ日時及顛末ヲ具シ遲滯ナク關東長官ニ届出ツヘシ

第十二條 寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ニ於テ本堂、説教場等主ナル建物ノ要部ヲ亡失シタル後二年内ニ之ヲ再建セサルトキハ其ノ設立許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 寺院、教會、廟宇、又ハ其ノ他ノ布教所ノ財産ノ管理其ノ他ノ重要ナル事項ニ付テハ住職、僧侶、牧師、道士、布教師等ハ檀信徒總代ト協議ノ上之ヲ處理スヘシ

寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ニ於テ其ノ不動産又ハ寶物ニ付賣却貸付其ノ他ノ處分ヲ爲サントスルトキ又ハ負債ヲ爲サントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ關東長官ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十四條 住職、僧侶、牧師、道士、布教師、教職等就職シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官

ニ届出ツヘシ

一、就職年月日

二、職名

三、履歴及資格

前項ノ届書ニハ資格ヲ證明スル書類ヲ添附スヘシ

第十五條 住職、僧侶、牧師、道士、布教師、教職等死亡又ハ退職シタルトキハ檀信徒總代ヨリ

關東長官ニ届出ツヘシ

第十六條 寺院、教會、廟宇、又ハ其ノ他ノ布教所ノ檀信徒ハ其ノ設立後遲滯ナク三人以上ノ總

代ヲ推舉スヘシ

檀信徒總代ハ其ノ住所、氏名ヲ民政署長又ハ同支署長ニ届出ツヘシ

檀信徒總代ハ寺院、教會、布教所又ハ廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ノ維持、管理ニ關シ住職僧侶、

牧師道士、教職ヲ補助スヘシ

第十七條 檀信徒總代ニシテ不適任ト認ムルモノアルトキハ民政署長又ハ同支署長ハ之ヲ改選セシムルコトヲ得

第十八條 許可ヲ受ケスシテ寺院、教會、廟宇、又ハ其ノ他ノ布教所ヲ設立、移轉、廢止、若ハ併合シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十九條 本令ノ規則ニ依ル民政署長又ハ同支署長ノ職務ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長又ハ同支署長之ヲ行フ

附 則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ當分ノ内支那人ノ經營スル寺廟ノ類ニハ之ヲ適用セス

本令施行前許可ヲ受ケ設立シタル寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ハ本令ニ依リ之ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル寺院、教會、廟宇其ノ他ノ布教所ハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ第八條、第九條及第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五編 布教 ○關東州及南滿洲布教所規則

第五編 布教 ○布哇布教法

寺院、教會又ハ其ノ他ノ布教所ニシテ第七條ノ規定ニ依リ禁シタル施設ヲ爲シタルモノニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ除去スヘシ

○布哇布教法定

大正五年十二月二十七日
宗規第三十七號

今般曹洞宗布哇布教規程左記ノ通制定シ曹洞宗議會ノ協贊ヲ經且文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗布哇布教法

第一條 宗務院ハ布哇布教ノ發展ヲ期スル爲メ樞要ノ地ニ布教師ヲ駐在セシメ左ノ事業ニ從事セシム

一 本邦ヨリ移住セル者其ノ他本宗ヲ信奉スル者ニ布教スルコト

二 必要ニ應シ教育機關ヲ設ケ移住者ノ子弟ヲ教育スルコト

三 必要ニ應シ救濟機關ヲ設ケ移住者ノ孤兒扶養者ナキ老衰者及貧民病者ヲ救濟スルコト

四 前各號ノ外移住者ノ安寧福利ヲ保維スルニ必要ナル施設ヲ爲スコト

第二條 布哇ニ布教管理一名布教師及布教師補若干名ヲ置ク

第三條 布教管理ハ兩本山布教別院ニ駐在シ宗務院ノ命ヲ承ケ各布教所ヲ監督シ布教ノ事業ヲ統

理ス 布教師ハ擔任布教所ニ駐在シ宗務院又ハ布教管理ノ指揮ヲ承ケ布教ノ事業ヲ管掌ス

大正十一年十二月二十七日
宗法第一號
改題第一號

昭和六年四月十六日
宗法第五號
改題第五號

布教師補ハ宗務院又ハ布教管理ノ指揮ヲ承ケ布教所ニ駐在シ主任布教師ヲ補佐シテ布教ノ事業ヲ分掌ス

第四條 宗務院ハ前條ノ外臨機布教師ヲ特派シ各布教所ヲ巡教セシムルコトアルヘシ

第五條 宗務院ハ現在布教所ノ外必要ト認ムル地ニ新ニ布教所ヲ開設セシムルコトアルヘシ

第六條 本法ノ施行ニ關シ必要ナル規則ハ宗務院ニ於テ別ニ之ヲ定ム

○海外布教者補助金支給規程制度

明治三十七年一月一日
甲 第三十七號
乙 第四號

今般曹洞宗議會ノ協贊ヲ經テ曹洞宗海外布教者補助金支給規程別記ノ通制定シ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗海外布教者補助金支給規程

第一條 曹洞宗僧侶ニシテ海外ニ渡航シ布教ニ從事スル者ニハ此ノ規程ニ依リ補助金ヲ支給ス

第二條 補助金ヲ受クル者ハ左ノ各號ヲ具備スルヲ要ス

一 四等教師以上若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル僧侶ニシテ宗務院ニ於テ其ノ任ニ堪フルト認メタルコト

二 宗務院ノ許可ヲ得テ渡航シ一箇年以上一定ノ地ニ在留シタルコト但シ第三條第三號第四號

ニ係ル者ハ本號ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第三條 補助金ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

第五編 布教 ○布哇布教法 ○海外布教者補助金支給規程

第五編 布教 ○授戒會修行令

- 一 寺院若クハ説教所ヲ創建シタル者
- 二 邦語若クハ土語ヲ以テ宗教上有益ナル著書出版ヲ爲シタル者
- 三 天災ニ基ケル非常ノ厄難又ハ重患ナル長病ニ罹リタル者
- 四 死亡シタル者
- 第四條 補助金ノ支給ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ所在信徒二十名以上連署シ領事ノ證明ヲ得テ直ニ宗務院ヘ請願スヘシ但シ死亡者ニ關シテハ其ノ代辨者ヨリ信徒總代三名以上ノ連署ヲ以テ願出ツヘキモノトス
- 第五條 宗務院ニ於テ第四條ニ定ムル願書ヲ受理シタルトキハ精密ニ調査シテ許否ヲ決シ許可スヘキ者ニハ其ノ支給金額ヲ定ム
- 第六條 補助金ヲ受ケタル者ハ其ノ事業上ノ情況及成績ヲ宗務院ニ報告スヘシ
- 第六條 此ノ規程ノ施行期限ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三節 各種特殊布教

○授戒會修行法制定

明治四十二年十二月二十五日
宗法 第二十一號

曹洞宗授戒會修行法別記ノ通制定シ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗授戒會修行令

- 第一條 授戒會ハ宗務院之ヲ統掌シ管轄宗務所ヲシテ之ヲ監督セシム
 - 第二條 授戒會ハ本令ニ定ムル授戒會修行ヲ心得ヲ遵守スヘシ
 - 第三條 三時四衆ノ供養及會中ノ經費ハ檀信徒ニ謀リ豫メ支辨ノ方法ヲ定ムヘシ入戒者ニ對シテハ適當ナル入戒金ヲ定ムル外臨時濫ニ施財ヲ勸募スヘカラス
 - 第四條 戒師ハ學徳完具ニシテ禪戒ノ義趣ヲ開解シ作法ニ通曉スル者ニ限ル
教授師引請師ハ戒衆ヲ勸化シ授戒作證ニ堪フル者タルヘシ
 - 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ戒師教授師又ハ引請師タルコトヲ得ス
 - 一 成規ノ結制ヲ修行セサル者但シ教授師引請師ニシテ別ニ定ムル所ニ依リ色衣著用ヲ特許セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 先授戒ヲ具足セサル者
 - 三 宗費ノ納期ヲ怠リ未タ完納セサル者
 - 四 謹慎以上ノ懲戒ニ處セラレ其ノ期間ニ在ル者
 - 第六條 授戒會ヲ修行セントスルトキハ戒師ヲ定メ當該寺院住職及干與者一同ノ連署ヲ以テ書式第一號ノ認可願ヲ調製シ啓建ノ四十日以前ニ管轄宗務所ヲ經由シテ宗務院ニ差出スヘシ但シ本寺ニシテ他府縣ニ在ル場合ハ其ノ連署ヲ要セス
- 宗務院ハ前項ノ願書ヲ調査シ支吾ナキトキハ認可指令ヲ交付シ及戒會中法堂ニ掲示セシムル爲メ授戒會修行心得書ヲ授與ス

第五編 布教 ○授戒會修行令

第五編 布教 ○授戒會修行令

前項ノ調査上必要ト認ムルトキハ宗務院ハ戒師ノ履歷書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第七條 戒師大木山貫首ナルトキハ當該大木山ニ對スル拜請ノ手續ヲ了シ其ノ允可ヲ得タル後當

該寺院住職直チニ書式第二號ノ届書ヲ調製シ管轄宗務所ヲ經由シテ宗務院ニ差出スヘシ

宗務院ハ前項ノ届出ニ依リ授戒會修行心得書ヲ授與スルコト前條ニ同シ

第八條 授戒會ヲ修行スルトキハ戒師及當該寺院ハ義財法ニ定ムル義財ヲ納附スヘシ

前項ノ義財ハ完戒後一週間以内ニ書式第三號ノ納金表ヲ添ヘ戒弟子數ニ對スル管轄宗務所長ノ

奥書證明ヲ付シテ宗務院ニ納附スヘシ但シ戒師大木山貫首ナルトキハ所長ノ奥書證明ヲ要セス

前項戒弟子數ハ正戒代戒ヲ論セス之ヲ計算スヘキモノトス但シ亡戒因縁戒ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 兩本山各直轄寺院ノ授戒會ハ總テ本令ニ依ルヘシ但シ當該本山監院之ヲ監督シ願届其ノ

他ノ手續ハ當該本山ヲ經由スヘシ

兩本山各直末寺院ハ第六條ノ願書ニ其ノ本山ノ連署又ハ添書ヲ要スルノ限ニ在ラス

附 則

第八條ノ義財ニ關シテハ義財法ノ制定施行ニ至ルマテ仍從前ノ納金ニ關スル規定ニ依ルモノト

ス

○書式第一號

授戒會修行認可願

何府何市何町
何縣何郡何村

何 院寺

拙寺儀今般何々ノ爲メ(一般布教ノ爲メカ又ハ特殊ノ報恩追福ノ爲メ)何年何月何日ヨリ何月何日マテ授
戒會修行致度戒師ハ何府何市何町(格)何寺住職(又ハ前職)何誰ヲ請シ(當該寺院住職自ラ戒師タルトキハ戒師ノ儀ハ住職何誰相勤メト
記ス)成規ニ準シ如法ニ嚴修可致候間御認可被下度干與者連署ヲ以テ此段相願候也

右 何院住職

年 月 日

何 誰印

何府何市何町(格)何院住職

(末寺アルモノハ)末寺總代 何 誰印

何府何市何町(格)何院住職

何府何市何町 何 誰印

何縣何郡何村

何府何市何町 何 誰印

何府何市何町

(檀徒ナキトキハ)信徒總代 何 誰印

何府何市何町

(信徒總代總員連署)

何府何市何町

第五編 布教 ○授戒會修行令

第五編 布教 ○授戒會修行令

本寺何院住職

何 誰⑩

教學部長 姓名 殿

(宗務所奥書書式)

前書願出取調候處事實相違無之ニ付奥書進達仕候也

何府(第何)曹洞宗務所長

何 誰⑩

年 月 日

○書式第二號

授戒會修行屆

何府何市何町(格)寺

何 院寺

拙寺儀今般大本山^{永平}總持寺貫首大禪師ヲ拜請シ何年何月何日ヨリ何月何日マテ授戒會修行致候間此段及御届候也

尙貫首大禪師拜請ノ儀ハ何月何日付當該大本山ノ允可ヲ得候間此段中添候

右 何院作職

何 誰⑩

年 月 日
教學部長 姓名 殿

(宗務所奥書書式)

前書届出ニ付奥書進達仕候也

何府(第何)曹洞宗務所長

何 誰⑩

年 月 日

○書式第三號

授戒會義財納金表

一金 戒師義財

一金 入戒四衆何百何拾何人義財

計金何圓何錢也

右ハ拙寺御認可ヲ經テ(又ハ届出)ノ通リ何年何月何日授戒會ヲ啓建シ何月何日完戒致候ニ付成規ニ準シ納付候也

(現金直納ノ外ハ財務部ノ加入セル口座番號郵便振替貯金ニ歸込ムカ)
又ハ郵便爲替又ハ銀行爲替ヲ以テ送金シ其ノ旨此ノ納表ニ記スヘシ)

何府何市何町何院住職

何 誰⑩

年 月 日

同寺授戒會戒師

何府何市何町(格)寺何院住職

何 誰⑩

財務部
東京部
一〇二
八番

第五編 布教 ○授戒會修行令

第五編 布教 ○授戒會修行令

(戒師大本山貫首ナルトキハ左ノ通り記スヘシ)

同寺授戒會戒師

大本山 永平 總持 寺貫首大禪師

隨行長 何

誰

財務部長 姓名 殿

(宗務所證明奥書書式)

(戒師大本山貫首ナルトキハ此ノ證明奥書ヲ要セス)

前書納表入戒四衆員數取調候處事實相違無之依テ奥書進達仕候也

何縣(第何)曹洞宗務所長

年 月 日

何 誰

曹洞宗授戒會修行法附錄

授戒會修行心得

- 一 授戒ハ佛祖正傳ノ儀式ニシテ禪定及智慧ノ基因ナリ宗門ニ於ケル一大事因縁ト稱スルモノ實ニ此ニ存ス深ク照亮スヘシ
- 一 防非止惡倫常ニ過ナカラシムルモノ授戒ノ功德ヨリ大ナルハナシ禮佛聞法懺悔受戒利生報恩慧命ヲ相續セシムルヲ旨トスヘシ
- 一 授戒作法ハ專ラ儀規ニ法リ濫ニ新條ヲ攀ツヘカラス
- 一 會中ノ四衆ヲ差別シ就中優婆塞優婆夷ノ結界ヲ嚴密ニシ起居進退ヲ整肅シ一切ノ行事見聞

ニ巨益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

一 日夜火盜ヲ警メ戒衆ノ衛生ニ注意シ道場ヲ嚴淨シテ華藏世界ヲ現成セシムヘシ

右件々堅ク之ヲ遵守スヘシ

年 月 日

曹洞宗務院

○軍人布教規程改定

明治三十九年六月三十日 甲 第七號

曹洞宗軍人布教規程別記ノ通改定シ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得且内務大臣ノ認可ヲ得タリ依テ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

右普達ス

曹洞宗軍人布教法

- 第一條 宗務院ハ陸海軍人ヲ教化スル爲メ豫メ軍隊ノ承認ヲ得テ其ノ所在地ニ布教師ヲ派遣シ駐在セシム
- 第二條 軍人化導ノ方法ハ説教演説講義及施木又ハ吉凶慶弔其ノ他適宜ノ施設ニ依ル
- 第三條 軍人布教ノ事務及軍人布教師ハ宗務院之ヲ直轄ス
- 第四條 兩本山貫首内地親化ノ際ハ適宜ニ其ノ巡錫地域ノ陸海軍隊ヲ慰問シ及軍人ヲ親化セララルコトアルヘシ
- 第五條 陸海軍隊所在地又ハ最寄ノ寺院ニシテ軍人布教ニ關スル道場ニ指定セララルトキハ之ヲ

第五編 布教 ○軍人布教法

大正十二年十月十日
宗務院
改題第一號

第五編 布教 ○軍人布教法細則
辭スルコトヲ得ス

第六條 陸海軍隊所在地又ハ其ノ地方ノ寺院住職前任職徒弟ハ軍人布教ニ關スル法要アル毎ニ宗務院宗務所又ハ布教師ノ指揮ニ依リ隨喜參同スルノ義務ヲ有ス

第七條 軍人布教師ハ戰時ニ於テ從軍布教ノ義務ヲ有ス

第七條 臺灣樺太滿洲等ノ軍人ノ布教ニ關シテハ其ノ布教法ニ依ル

第九條 軍人布教ニ關スル細則ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

○軍人布教規程細則 明治三十四年十二月十五日
甲 第六十二號

曹洞宗軍人布教法細則

第一條 宗務院ハ陸軍各師團及師團所在地外ニ在ル師團附屬ノ各種兵營及海軍各鎮守府等ニ軍人布教師ヲ派遣シ軍人化導ノ本務ニ服セシム

第二條 軍隊所在地ニ布教ヲ開始スルトキハ宗務院ヨリ其軍隊ノ長官ニ對シ開教ノ旨趣ヲ通牒シ並ニ布教師ノ姓名ヲ報告ス布教師交代ノトキ亦同シ

第三條 軍人布教師ハ毎月三回以上十回以下道場ヲ定メ適宜ニ説教演説及講義等ヲ修行シ且臨機ノ化導ヲ爲スヘシ

第四條 軍人ノ化導ハ明治十五年ノ勅語ヲ主體トシ之ニ本宗ノ教義ヲ參酌シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養振作スルヲ主旨トス

本法ノ改
正ニ依リ
題號ヲ改

第五條 軍人布教師ハ軍隊ノ吉凶ヲ慶弔スヘシ

第六條 兩本山貫首親化ノ因ミ軍隊ヲ慰問シ及軍人ヲ親化セラルトキハ軍人布教師ハ其ノ所在地ノ軍務官ニ就キ其ノ日時ヲ協定シ豫メ隨行長ニ報告ヲ爲スヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ軍人布教師ハ地方宗務所長ト協同シ庶般ノ準備ヲ爲スヘシ

第八條 軍人布教師ハ如何ナル場合ト雖モ軍機ニ關スル事項ヲ陳辯シ及文書ヲ以テ公衆ニ報道スヘカラス

第九條 軍人布教師ハ軍人化導ノ際ニ於テ外教及他宗派ヲ誹謗スヘカラス

第十條 軍人布教師ハ如何ナル場合ト雖モ威儀形相ヲ亂スヘカラス

第十一條 軍人布教師ハ任期中疾病又ハ回避スヘカラサル事項ヲ除クノ外任意ニ辭職スルコトヲ得ス

第十二條 軍人布教師ハ宗務院ノ許可ヲ得スシテ一週間以上ノ缺勤ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 軍人布教師ハ毎月布教月報ヲ調製シ布教ノ狀況ヲ詳記シ宗務院ニ提出スヘシ

第十四條 軍隊所在地ニ軍人布教ノ任務ニ堪フル者アルトキハ直ニ之ヲ任用スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ派遣布教師俸給ノ半額又ハ三分ノ一ヲ支給ス

第十五條 軍人布教師ニシテ甲乙内地ヲ兼任シ布教スルトキ及四年以上奉職シ成績ノ顯著ナル者ニハ其ノ實績ヲ調査シ相當俸給ヲ加ス

第十六條 軍人布教師從軍シタル場合ハ特別ノ手當ヲ支給ス

第五編 布教 ○軍人布教法細則

第五編 布教 ○刑務所布教法
第十七條 軍人布教師ニシテ其ノ任務ニ堪ヘサル者又ハ一箇年以上ヲ經過シ成績ノ舉ラサル者ハ直ニ解職スルコトアルヘシ

○監獄布教規程改正 明治三十九年六月三十日 第八號

曹洞宗監獄布教規程別記ノ通改定シ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得且内務大臣ノ認可ヲ得タリ依テ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗刑務所布教法

第一條 宗務院ハ受刑者ヲシテ改過遷善ノ實績ヲ舉ケシムル爲メ刑務所ノ承認ヲ經テ之ニ布教師ヲ常在セシメ受刑者ノ教誨ニ從事セシム
第二條 受刑者教誨ノ方法ハ専ラ刑務所ノ成規慣行ニ準據シ傍ラ適宜ノ措置ヲ施行ス
第三條 刑務所布教ニ關スル事務並ニ布教師ハ宗務院之ヲ直轄ス
第四條 兩本山貫首親化ノ地域ニ於テ刑務所アルトキハ其ノ親化ヲ受ケシムルコトヲ得布教師巡教ノ場合亦同シ
第五條 第四條ノ親化又ハ布教ヲ受ケントスルトキハ刑務所教誨師又ハ其ノ地方宗務所長ヨリ刑務所ニ交渉シ其ノ承認ヲ經テ豫メ本山貫首又ハ布教師ノ許諾ヲ受ケヘシ
第六條 各府縣宗務所ハ其ノ所在地方ノ刑務所ニ於テ教誨師ニ缺員ヲ生シ若クハ特志ノ教誨ヲ承

認スル場合ニハ當該官署ニ交渉シテ刑務所布教師ノ任命又ハ特派ヲ宗務院ニ申請スヘシ
第七條 刑務所ノ教誨師ニ補セラレ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ程度ニ應ジ宗務院ヨリ相當ノ補助金又ハ慰勞金ヲ給與ス
第八條 無俸給ヲ以テ刑務所ヨリ教誨師ノ依囑ヲ受クル者ニハ其ノ人器ニ應ジ宗務院ヨリ相當ノ衣資ヲ給與ス
第九條 刑務所所在地ノ寺院ニシテ布教師ノ宿舍ニ充テラルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス
第十條 刑務所ノ請求ニ依リ布教師ニ於テ法要ヲ修行スルトキハ最寄ノ寺院住職前任職徒弟ハ宗務院ノ指揮又ハ布教師ノ要求ニ依リ隨喜參同スルノ義務ヲ有ス
第十一條 受刑者布教ニ關スル細則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

○監獄布教規程細則 明治三十五年六月十日 第三十六號

曹洞宗刑務所布教法細則

第一條 宗務院ハ刑務所所在地ニ常在若クハ通勤ノ布教師ヲ任命シ受刑者ノ教誨ニ從事セシム
第二條 刑務所ノ有給教誨師ニ補セラレ又ハ特志者ニシテ教誨師ノ依囑ヲ承認シタル者ハ其ノ辭令ノ寫ニ履歷書ヲ添附シ管轄宗務所ヲ經由シテ宗務院ヘ届出ツヘシ補任ヲ解除セラレ依囑ヲ辭シタルトキモ亦其ノ届出ヲ爲スヘシ
第三條 布教師ハ専ラ刑務所ノ成規慣行ニ依準シ尙ホ各受刑者犯罪ノ起因ヲ忖度シテ因果應報ノ

第五編 布教 ○刑務所布教法細則

第五編 布教 ○刑務所布教法細則

理致ヲ説示シテ遷善改過ノ實績ヲ學ケシムヘシ

第四條 布教師ハ慈念愛語ヲ以テ對機教誨シ如何ナル場合ト雖モ廳惡ノ言語ヲ爲シ威儀形相ヲ亂ルヘカラス

第五條 布教師ハ受刑者ノ教誨ニ際シ外教及他宗派ヲ誹謗スヘカラス

第六條 布教師ハ疾病又ハ止ムヘカラサル事故ニ依リ其ノ教誨師ヲ辭セントスルトキハ豫メ管轄宗務所長ニ協商シ適當ノ後任者ヲ擇出シ當該官署ニ交渉承認ヲ得テ辭職ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 布教師ハ毎年一月七月ノ二回ニ各前半期間ニ於ケル報告書ヲ調製シ受刑者ノ員數犯罪ノ種別及全受刑者教誨個人教誨改過ノ實績其ノ他重要事項ノ概略ヲ列記シ宗務院ニ提出スヘシ

第六編 教育

第一節 通則

○教育制度改良ノ件

明治三十四年十二月二十八日 甲 第十 八 號

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ決定シタル別記教育制度改良方案ハ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗教育制度改良方案

第一條 曹洞宗ノ學林ヲ分テ曹洞宗大學林高等中學林曹洞宗中學林ノ三種トス

第二條 曹洞宗大學林ハ宗乘餘乘ノ蘊奧及須要ナル學科ノ蘊奧ヲ教授スル所トス

第三條 曹洞宗高等中學林ハ曹洞宗大學林ニ入ラントスル者又ハ布教教育ノ任務ニ當ラントスル者ニ須要ナル宗乘餘乘及高等ノ普通學ヲ教授スル所トス

第四條 曹洞宗中學林ハ曹洞宗高等中學林ニ入ラントスル者又ハ普通僧侶ノ資格ヲ備ヘントスル者ニ須要ナル宗乘餘乘及普通學ヲ教授スル所トス

第五條 曹洞宗大學林曹洞宗高等中學林ハ各一箇所トシテ之ヲ東京ニ置ク

第六條 曹洞宗中學林ハ全國ヲ四大學區ニ分チ每學區ニ一中學林ヲ置ク其ノ區域ハ別ニ之ヲ定ム

第六編 教育 ○教育制度改良ノ件

本件ハ其後教育制度變更ノレタラモモ
改正セラルモ
現行教育制度ノ根
基トナル
モノナル
スニ付
收録

第七條 各學林修業年間ヲ定ムルコト左ノ如シ

曹洞宗大學林 三箇年

曹洞宗高等中學林 三箇年

曹洞宗中學林 五箇年

第八條 曹洞宗大學林曹洞宗高等中學林曹洞宗中學林ノ經費ハ曹洞宗務院ニ於テ之ヲ支辨ス

第九條 曹洞宗大學林曹洞宗高等中學林曹洞宗中學林ノ學則及職制ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十條 兩本山僧堂及地方認可僧堂ノ設備方法並ニ監督方法ハ學林教育ノ學則規定ト共ニ宗令ヲ

以テ別ニ之ヲ定ム

第十一條 此改正制度ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

(別表) 曹洞宗中學林學區表

第一學區

東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 栃木縣 茨城縣 長野縣 新潟縣 山梨縣

第二學區

福島縣 岩手縣 宮城縣 山形縣 秋田縣 青森縣 北海道廳

第三學區

靜岡縣 愛知縣 岐阜縣 三重縣 滋賀縣 和歌山縣 福井縣 石川縣 富山縣 奈良縣 京都府 大阪府 兵庫縣

第四學區

岡山縣 廣島縣 鳥取縣 島根縣 山口縣 香川縣 高知縣 德島縣 愛媛縣 佐賀縣 長崎縣 福岡縣 熊本縣 大分縣 宮崎縣 鹿児島縣

○教學財産保管規程創定

明治四十一年二月十五日 宗規 第十四號

曹洞宗教學財産保管規程左ノ通創定シ曹洞宗議會ノ協贊ヲ經且ツ内務大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗教學財産保管法

第一條 宗務院ハ布教教育ニ關スル宗門公共ノ財産ニシテ其ノ保管上特ニ法人ノ名義ヲ必要トスル物件アルトキハ之ヲ曹洞宗教學財團ノ資産ニ編入ス

第二條 前條ニ依リ曹洞宗教學財團ノ資産ニ編入スルトキハ財團ニ於テ當該編入財産ノ使用目的ヲ變更シ又ハ之ヲ處分セントスルトキハ豫メ宗務院ノ同意ヲ經ヘキ旨ノ條件ヲ附スヘシ

第三條 宗務院ニ於テ前條ニ依リ同意ヲ與ヘントスルトキハ豫メ曹洞宗議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第四條 宗務院ハ毎年曹洞宗教學財團ノ財産目錄ヲ曹洞宗議會ニ告報スヘシ

○教學財團設立ノ件

明治四十一年二月十五日 告示 第五號

曹洞宗教學財團設立ノ件別記ノ通曹洞宗議會ニ告報シタリ

第六編 教育 ○教學財産保管規程

本件ハ一便ニモ係ルモノトシテ、方布教ニ關スルモ、宜シクモ、收録スルニ、大正十二年一月二十日、宗務院、改題第一號、以テ之ヲ發布ス

第六編 教育 ○教學財團設立ノ件

曹洞宗教學財團設立ノ件

第一條 宗務院ハ其ノ所管ニ係ル財産ノ保管ヲ確實ニスル爲メ特ニ法人ヲ組織スルノ必要ヲ認メタルニ依リ別記ノ通財團法人曹洞宗教學財團ノ設立許可ヲ申請シ明治四十年七月十日主務官廳ノ許可ヲ得タリ

第二條 本財團ノ現在資産ハ寄附行爲第四條ニ表示スル所ニシテ是レ本財團設立ノ基礎トシタルニ過キサルモ宗務院ハ將來布教々育ニ關スル宗門公共ノ財産ニシテ其ノ保管上特ニ法人ノ名義ヲ必要トスル物件アルトキハ相當ノ手續ヲ履ミ漸次本財團ノ資産ニ編入スルモノトス

第三條 此ノ曹洞宗教學財團設立ノ件ヲ曹洞宗議會ニ提出スルヲ以テ其ノ告報ノ規式トス別記

財團法人設立許可申請

曹洞宗ノ宗門事業トシテ經營スル布教及教育事業ニ獨立ノ財産ヲ保有スルハ宗門教學ノ發展ヲ企圖スルニ缺クヘカラサル急務ナルヲ以テ茲ニ其ノ目的ヲ達スル爲メ財團法人ヲ設立シ拙者等ノ權利ニ屬スル物件ヲ出捐シテ財團資産ノ基礎ト致度依テ別紙寄附行爲ヲ具シ財團法人設立ノ儀奉願候條速ニ御許可被成下度此段速習ヲ以テ申請候也

東京府東京市芝區芝公園五號地十番寄留

森 川 悟 山印

宮城縣仙臺市大町五丁目貳拾八番地

大内源太右衛門印

内務大臣 原 敬 殿

○

曹洞宗教學財團寄附行爲

第一條 本財團ハ曹洞宗々立ノ布教及教育機關ニ必要ナル財産ヲ供用シ並ニ曹洞宗ノ布教及教育事業ニ要スル費用ヲ供給スルヲ以テ目的トス

第二條 本財團ヲ曹洞宗教學財團ト稱ス

第三條 本財團ハ事務所ヲ東京市芝區新堀町三十六番地曹洞宗務院内ニ置ク

第四條 本財團ハ左ニ表示スル資産ヲ以テ成立ス

山林壹町貳反歩

此地價金六圓

以上所在地 山口縣佐波郡防府町大字東佐波令字寺山第五百七十七番ノ拾參

郡村宅地壹町歩

此地價金貳百四拾五圓四拾七錢

以上所在地 愛知縣愛知郡千種町字大久手九拾八番ノ一

畑四反九畝貳拾貳步

此地價金五拾貳圓貳拾貳錢

第六編 教育 ○教學財團設立ノ件

大正十年
宗務院移
轉ノ際第
三條改正
第四條ノ
資産表ハ
其ノ後變
化セリ

第六編 教育 ○教學財團設立ノ件

以上所在地 宮城縣仙臺市南鍛冶町九拾六番

畑壹反壹畝貳拾步

此地價金拾貳圓貳拾五錢

以上所名地 宮城縣仙臺市南鍛冶町九拾九番

合計反別貳町八反壹畝拾貳步

合計地價金參百拾五圓九拾四錢

第五條 本財團ノ目的ヲ贊助シ財産ヲ贈與スル者アルトキハ本財團ノ資産ニ編入スルモノトス

第六條 第四條第五條ノ資産及其ノ資産ヨリ生スル收益ヲ以テ本財團ノ經費及第一條ニ指定シタル目的ニ充用ス

第六條ノ二 將來曹洞宗宗立ノ教育事業經營ヲ目的トスル財團法人設立ノ場合ハ理事一致ノ決議ニ依リ當該事業ニ供スヘキ本財團所有ノ資産ヲ該財團ニ無償讓與スルコトヲ得

第七條 本財團ニ理事三人ヲ置ク
理事ハ曹洞宗管長ノ選任スル曹洞宗務院教學庶務財務ノ各部長ヲ以テ之ニ充ツ

理事中ヨリ專務理事一人ヲ置キ前項教學部長ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 理事ノ任期ハ曹洞宗務院各部長在職中トス部長ニシテ交迭シ若クハ缺員ヲ生シタルトキハ其ノ後任部長直ニ理事ノ職ヲ繼承スルモノトス

專務理事タル教學部長ニシテ交迭シ若クハ之ヲ缺キタルトキハ其ノ後任部長直ニ專務理事ノ職ヲ繼承スルモノトス

第九條 專務理事ハ毎年一回財産目錄ヲ作り且ツ第一條ノ目的ニ充用スル資産ノ現況表並ニ資産ヨリ生スル收入及其ノ支出計算表ヲ製シ理事ノ議決ヲ經テ之ヲ曹洞宗管長ニ報告スヘシ

第十條 本寄附行爲ハ目的ノ變更ニ關スル事ヲ除クノ外理事一致ノ決議ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ得テ變更スルコトヲ得

○ 資産現所有者表示
別紙財團法人設立許可申請ニ係ル曹洞宗教學財團寄附行爲第四條ニ表示セル不動産ノ現所有者ハ左ノ通ニ有之候

- 山口縣佐波郡防府町大字佐波令字寺山第五百五十七番ノ拾參
- 一 山林壹町貳反步
- 地價金六圓
- 愛知縣愛知郡千種町字大久手九拾八番ノ壹
- 一 郡村宅地壹町步
- 地價金貳百四拾五圓拾七錢
- 以上三筆

現所有者 森田悟山

宮城縣仙臺市南鍛冶町九拾六番
第六編 教育 ○教學財團設立ノ件

第六編 教育 ○教學財團設立ノ件

一 畑四反九畝貳拾貳步

地價金五拾貳圓貳拾貳錢

同 上 九拾九番

一 畑壹反壹畝貳拾步

地價金拾貳圓貳拾五錢

以上二筆

以上

明治四十年六月三日

現所有者 大内源太右衛門

東京府東京市芝區芝公園五號地十番寄留

森田 悟 由

宮城縣仙臺市大町五丁目貳拾八番地

大内源太右衛門

内務大臣 原 敬 殿

内務省東戌第三三號

東京府東京市芝公園五號地十番

森田 悟 由

外一名

明治四十年六月三日付願財團法人設立ノ件

右民法第三十四條ニ依リ許可ス

明治四十年七月十日

内務大臣 原 敬 殿

○曹洞宗教育財團設立ノ件

大正九年十二月十五日 宗令第十一號

曹洞宗教育財團設立ノ件曹洞宗議會ノ協賛ヲ經タリ依テ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗教育財團設立ノ件

第一條 宗務院ハ宗門ノ經營ニ係ル曹洞宗大學ノ昇格及其ノ他教育機關ノ設立改善維持ノ資金ヲ得ルノ目的ヲ以テ末派寺院住職前住職徒弟檀信徒及共ノ他ノ特志家ヨリ寄附金ヲ募集ス

第二條 前條ノ寄附金募集ハ大正十年ヨリ十箇年ノ繼續事業トス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第三條 寄附金額ハ總金額貳百萬圓以上ニ達セシムルモノトス

第四條 宗務院ハ末派寺院住職ニ寄附金勸募委員ヲ囑託シ囑託證ト寄附金勸募帳トヲ交付ス

第五條 宗務院ハ此ノ寄附金ヲ別途會計トシ收納スルニ從ヒ確實ナル銀行ニ預入シ漸次ニ蓄積シテ之ヲ保管スルモノトス

第六編 教育 ○教育財團設立ノ件

第六編 教育 ○教育財團設立ノ件

第六條 前條ノ保管金額壹萬圓以上ニ達シタルトキハ主務官廳ノ許可ヲ經テ財團法人トシ曹洞宗教育財團ト稱ス

第七條 前條ノ財團設立以後ニ收納スル寄附金ノ元金及利子ハ其年度十二月二十五日現在ノ金額ヲ翌年度ノ三月三十一日マテニ財團ノ資産ニ編入ス

第八條 財團ノ管理財團所有資産ノ用途及保管ノ方法ニ關スル事項ハ財團寄附行爲ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第九條 寄附金ノ勸募、收納金ノ整理財團設立申請等ノ事務ハ教學部長ノ所管トシ特ニ左ノ職員ヲ置キ專ラ其ノ事務ニ從事セシム

一 財團係 貳人

一 書記 若干人

第十條 宗務院ハ寄附金募集費トシテ寄附金勸募委員ニ對シ其ノ納金額ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ宗費ヲ以テ支給ス

第十一條 前條ノ募集費ノ支給ハ一時其ノ收納寄附金ノ内ヲ以テ支辨シ其ノ年度九月三十日マテノ支出金額ヲ積算シ之ヲ翌年度宗費豫算歲出臨時部ニ編入シテ之ヲ補填ス

第十二條 第九條ノ經費ハ總テ宗費支辨トス

大正十年度ニ要スル前項ノ經費豫算ヲ金六千圓トシ之ヲ同年度宗費豫算歲出臨時部ニ編入ス但シ大正十一年以後ノ此ノ經費豫算金額ハ其ノ都度之ヲ定メ其ノ年度宗費豫算歲出臨時部ニ編入

スルモノトス

第十三條 宗務院ハ每次曹洞宗議會ニ對シ前年度ノ寄附金收納額及財團ノ資産額ヲ報告ス

第十四條 寄附金勸募ニ關スル規則及第九條ノ職員職務章程等ハ宗令又ハ宗達ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

本件ハ大正十二年十二月十五日左記宗務院歲入歲出豫算附帶第四號ニ依リ第十條第十一條第十二條ノ旨趣變更セリ

曹洞宗教育興隆會費寄附金勸募費ニ關スル件（豫算附帶第四號）

第一條 第二十四次宗會ノ協賛ヲ經タル曹洞宗教育財團設立ノ件ニ基キテ定メタル曹洞宗教育興隆會ノ入會勸募及會費寄附金募集ノ費用トシテ勸募委員ニ支給スル金額ハ其ノ收納金ノ内ヨリ支出シ其ノ積立利子ヲ以テ之ヲ補填スルコトニ改ム

第二條 前條ノ外督勵專使ノ特派費及勸募ノ督勵並ニ整理上特ニ必要ト認メタル支給金モ一時其ノ收納金ノ内ヲ以テ支辨シ其ノ積立利子ヲ以テ之ヲ補填ス

第三條 前條ノ支出金額ハ別途會計トシ毎年豫算ヲ定メ宗會ノ協賛ヲ經ルモノトス

第四條 將來宗務院ノ年度歲出豫算ニ計上スル教育興隆會費ハ前各條ヲ除キタル職員ノ俸給諸給及事務費トス

○同上ノ件 大正十年
十一月一日

第六編 教育 ○教育財團設立ノ件

告諭

第二十四次曹洞宗議會ノ協賛ヲ經大正九年宗令第十一號ヲ以テ發布シタル曹洞宗教育財團設立ノ件ハ其ノ事業殊ニ重大ナルヲ以テ之カ實行方法ニ就キ研究審議ヲ累ネ先ツ財團法人設立ノ許可ヲ得次ニ寄附勸募ノ方法トシテ曹洞宗教育興隆會ヲ組織スルコトニ決シ今般文部大臣ヨリ財團法人設立ノ許可ヲ得タリ依テ茲ニ曹洞宗教育興隆會規則竝ニ關係事項ヲ制定シ本日之ヲ發布スルニ至レリ

抑々宗門ノ發展ヲ計リ國家ニ貢獻セントスルニハ教育機關ノ完備ヲ要スルハ言ヲ俟タス然ルニ宗門ノ現狀ハ其ノ教育機關未ク完備ノ域ニ達シ居ラサルヲ遺憾トス是ニ於テ特殊ノ方法ニ依リ教育ノ資金ヲ蓄積シ鞏固ナル基礎ノ上ニ僧堂學校其ノ他必要ナル施設ノ完成ヲ計ラントス
惟フニ本事業ハ重大ニシテ固ヨリ容易ノ業ニアラサルモ宗門今後ノ盛衰ハ繫リテ本事業ノ成敗ニ在リ是ヲ以テ末派寺院住職ハ各自克ク此ノ旨ヲ體シ宜シク宗門本末一致協力シ大誓願心ヲ奮起シテ以テ其ノ成效ヲ期スヘシ

○曹洞宗教育財團設立許可ノ手續

大正十年十月二日 告示第二十號

今般兩本山貫首兩親下特別ノ慈慮ニ依リ教育基金トシテ帝國政府五分利公債額面金貳萬圓ヲ御寄附アラセラレタルニ付大正九年宗令第十一號曹洞宗教育財團設立ノ件第六條財團法人設立ノ儀左記寫ノ通本年七月一日附ヲ以テ文部大臣ニ申請シ同九月二十一日附其ノ設立許可ノ指令ヲ得直ニ

法定ノ登記手續ヲ經タリ

本日宗令第九號ヲ以テ發布セラレタル曹洞宗教育興隆會規則ニ依リ末派寺院住職前任職徒弟檀徒信徒及其ノ他特志家ノ入會ヲ勸募シタル會員ノ會費及特殊ノ寄附金ハ其ノ收納ニ從ヒ順次本財團ノ資産ニ編入スルモノトス

(願書寫)

財團法人設立許可願

曹洞宗僧侶教育ノ事業ハ宗費支辨ヲ以テ經營シツアルモ其ノ發展充實ヲ企畫スルニハ特殊ノ資産ヲ蓄積シテ之ヲ援助スルノ必要ヲ認メタルニ依リ其ノ目的ヲ達スル爲メ財團法人ヲ設立シ別紙ニ附帶スル寄附金ヲ以テ財團資産ノ基礎ト致度依テ別紙寄附行爲ヲ具シ民法第三十四條ニ依リ財團法人設立ノ儀奉願候條速ニ御許可被成下度此段連署ヲ以テ相願候也

大正十年七月一日

福井縣吉田郡志比谷村志比五號拾五番地

北野元峰

神奈川縣橋樹郡鶴見町大字鶴見百貳拾八番地

新井石禪

文部大臣 中橋徳五郎殿

(此ノ寄附行爲ハ大正十四年四月全部變更シタルニ付略ス)

第六編 教育 ○曹洞宗教育財團設立許可ノ手續

第六編 教育 ○曹洞宗教育財團設立許可ノ手續
寄附書

一金貳萬圓 但シ帝國政府五分利公債額而金額
右金員ハ別紙財團法人曹洞宗教育財團設立御許可相成候ハ、同法人資産ノ内ハ寄附可致茲ニ證
約候也

大正十年七月一月

福井縣吉田郡志比谷村志比五號拾五番地

北野元峰

神奈川縣橋樹郡鶴見町大字鶴見百貳拾八番地

新井石禪

(指令寫)

文部省東專二〇七號

曹洞宗教育財團設立者

北野元峰

新井石禪

本年七月一日付申請曹洞宗教育財團設立ノ件民法第三十四條ニ依リ許可ス

大正十年九月二十一日

文部大臣

中橋徳五郎

○曹洞宗教育興隆會規則

大正十年十月一日
宗令第九號

大正九年宗令第十一號曹洞宗教育財團設立ノ件第十四條ニ依リ今般曹洞宗教育興隆會ヲ組織シ
其ノ會則ヲ左記ノ通制定シ茲ニ之ヲ發布シ本日ヨリ之ヲ施行ス
財團法人ノ設立ハ既ニ其ノ手續ヲ了リタルヲ以テ曹洞宗教育財團設立ノ件第九條ニ定ムル職員
ノ事務ハ爾今曹洞宗教育興隆會事務所役員之ヲ繼承ス

曹洞宗教育興隆會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ大正九年宗令第十一號曹洞宗教育財團設立ノ件ニ定ムル教育資金募集ノ目的ヲ達
スル爲メ之ヲ組織ス

第二條 本會ハ曹洞宗教育興隆會ト稱ス

第三條 本會會員ハ本宗末派寺院住職徒弟檀徒信徒及其ノ他ノ特志家ヨリ之ヲ募集ス

第四條 本會會員ヲ分子テ左ノ六種トス

- 一 名譽會員
- 二 功勞會員
- 三 維持會員
- 四 特別會員

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

大正十年三月十一日
宗令第一一四號
第一條以テ改正

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

五 護持會員

六 通常會員

名譽會員ハ第五條ニ定ムル會費千口以上ヲ負擔シタル者、功勞會員ハ同五百口以上ヲ負擔シタル者、維持會員ハ同百口以上ヲ負擔シタル者、特別會員ハ同十口以上ヲ負擔シタル者、護持會員ハ同五口以上ヲ負擔シタル者、通常會員ハ同一口以上ヲ負擔シタル者トス

第五條 本會ノ會費ハ一日金壹圓ト定メ口數貳百萬口以上金額貳百萬圓以上ニ達セシムルモノトス

第六條 會費ハ入會ノ際之ヲ即納スヘシ但シ一人ニシテ十口以上ノ負擔者ハ二箇年乃至五箇年ニ分納スルコトヲ得

第七條 末派寺院住職前任住職及徒弟ハ其ノ資力ニ應シ相當ノ會費負擔口數ヲ定メテ入會スルモノトス

第八條 末派寺院住職ハ其ノ所屬檀信徒ヲ勸誘シテ其ノ資力ニ應スル會費負擔口數ヲ定メテ入會セシムルモノトス

第九條 末派寺院所屬檀信徒以外ノ特志家ニ入會ヲ勸募スルトキハ本會事務所役員直接之ニ當ル但シ特ニ緣故者ニ其ノ勸誘ヲ依囑スルコトアルヘシ

第十條 會員ノ會費ハ曹洞宗教育財團設立ノ件第五條及第七條ニ依リ曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入ス

大正十四年八月一日
宗令第一

第九號ヲ以テ第十條及第十一條改正

前項ノ會費ハ大學以外ノ教育ノ資ニ充ツル爲メ其ノ幾部ヲ割キ之ヲ曹洞宗興學財團ノ資産ニ編入ス

第十一條 會員ノ會費以外特殊ノ寄附金アルトキハ前條ニ準シ之ヲ曹洞宗教育財團及曹洞宗興學財團ノ資産ニ編入ス

第十二條 前二條ニ依リ曹洞宗教育財團及曹洞宗興學財團ノ資産ニ編入シタル財産ハ其ノ財團寄附行爲ノ定ムル所ニ依リ左ノ事業ニ充用ス

- 一 曹洞宗大學ノ昇格
- 一 曹洞宗中學校ノ改善
- 一 曹洞宗僧堂教育ノ改善
- 一 將來必要ニ應スル宗門施設ノ各種教育機關ノ設立

第二章 事務所及役員

第十三條 本會事務所ヲ曹洞宗務院内ニ設ケ左ノ役員ヲ置ク

理事長 一名

理事 三名

但シ理事中一名ヲ專務理事トス

監事 三名以内

主事 若干名

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

書記 若干名

理事長ハ總務ヲ以テ之ニ充テ理事ハ教學庶務財務ノ各部長ヲ以テ之ニ充ツ但シ專務理事ハ教學部長タル理事ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第十四條 理事長ハ會務ヲ統轄シ理事ハ會務ニ參與シ專務理事ハ會務ヲ處理ス

監事ハ定時又ハ臨時ニ會務ノ狀況ヲ監査ス
主事ハ專務理事ノ指揮ヲ承ケ會務ニ從事ス

書記ハ專務理事及主事ノ命ヲ承ケ記録及雜務ニ從事ス

第十五條 重要ノ會務ハ理事長及理事ノ評議ヲ以テ之ヲ決シ管長ノ允可ヲ受クヘシ

第十六條 本會ハ督勵專使若干名ヲ各地ニ特派シ本會ノ旨趣ヲ宣傳シ會員ヲ募集ヲ督勵セシムルコトアルヘシ

前項ノ督勵專使ハ管長之ヲ任命ス

第三章 募集區域及勸募役員

第十七條 會員ノ募集ハ各府縣曹洞宗務所管内ヲ一區域トシ一區域毎ニ左ノ役員ヲ置ク

勸募監督 一名

勸募督勵員 若干名

勸募委員 若干名

勸募贊助員 若干名

勸募監督ハ宗務所長ニ勸募督勵員ハ管内各教區長ニ勸募委員ハ各寺院住職ニ管長之ヲ任命シ勸募贊助員ハ各寺院檀徒總代又ハ信徒總代ニ管長之ヲ囑託ス

寺院住職特殊ノ申請ニ依リ檀徒總代又ハ信徒總代ノ外重ナル世話人ニ勸募贊助員ヲ囑託スルコトアルヘシ

第十八條 勸募監督ハ管内寺院住職前住職徒弟檀徒信徒ノ入會勸募ヲ獎勵監督ス
勸募督勵員ハ教區内寺院住職前住職徒弟檀徒信徒ノ入會勸募ヲ督勵ス
勸募委員ハ其ノ寺院前住職徒弟檀徒ノ入會ヲ勸募シ入會者ノ會費ヲ徵收シテ之ヲ宗務院内本會事務所ニ直送納附ス勸募贊助員ハ前項勸募委員ノ執務ヲ贊助ス

寺院住職ヲ缺キ又ハ住職事故アルトキハ勸募贊助員ニ於テ勸募委員ノ執務ヲ代理ス

第十九條 臺灣朝鮮滿洲樺太及海外ニ在ル寺院住職及布教所主任者ニハ内地寺院住職ニ準シ勸募委員ヲ任命シテ所屬檀徒ノ入會ヲ勸募セシム

第二十條 入會勸募手續會費徵收送納手續ハ細則ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 會員ノ祖先親族先亡精靈薄ヲ兩本山ニ祭祀シ永世春秋兩彼岸會ニ供養回向ス

前項祭祀ノ爲メ會員ハ入會ノ際會費一口ニ對シ一靈ノ戒名ヲ申込ミ得ルモノトス

第二十二條 會員ニハ第四條ノ會員種別ヲ明ニシタル會員章及理事長署名ノ會費領收證ヲ交附ス

第四章 會員表彰

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會規則

昭和二年四月十六日
宗令第五號
以第五條改正

同上

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會細則

第二十三條 維持會員以上ニハ前條ノ外管長ノ謝狀ヲ贈與ス

第二十四條 功勞會員以上ニハ前條ノ謝狀ニ記念品ヲ添附ス

第二十五條 會員ニシテ他ノ會員勸募其他ニ特殊ノ功勞アル者ニ對シテハ前各條ニ定ムル外特殊ノ表彰ヲ爲スコトアルヘシ

第二十六條 會員ノ種別住所氏名及負擔會費口數ハ宗報ニ掲載シテ之ヲ報告ス

○曹洞宗教育興隆會細則 大正十年十月一日
宗達甲第十六號

本日宗令第九號ヲ以テ發布セラレタル曹洞宗教育興隆會規則ニ附帶スル同會細則左記ノ通相定ム

各宗務所長ニ對スル勸募監督、各管内組長ニ對スル勸募督勵員、各寺院住職ニ對スル勸募委員ノ任命辭令、各寺院檀徒總代又ハ信徒總代ニ對スル勸募贊助員ノ囑託書及各寺院ニ配布ノ會員勸募帳簿ハ目下取急キ調製中ナルモ其ノ數頗ル多數ニ上リ全國同時ニ之ヲ發送スルコト困難ニ付調製了リタル地方ヨリ順次之ヲ發送スルコトス依テ地方ニ依リテハ其ノ送達遲延スルコトアルヘキニ付此ノ旨豫メ心得置クヘシ

曹洞宗教育興隆會細則

第一條 本會勸募監督、勸募督勵員、勸募委員ノ各任命辭令ハ宗務院ヨリ之ヲ直送シ勸募贊助員ノ囑託書ハ當該寺院ニ送附ス

第二條 勸募贊助員囑託書ノ送附ヲ受ケタルトキハ當該寺院住職ハ直ニ之ヲ檀徒總代又ハ信徒總代タル各本人ニ傳達スヘシ

前項ノ囑託書ハ宗務院ニ届出テアル現在ノ檀徒總代又ハ信徒總代ニ宛テタルモノニ付檀徒總代又ハ信徒總代改選ノ結果送附ノ囑託書本人ト相違スルトキハ速ニ成規ノ干與者異動届(此ノ届出務所經由ノ成規ニ依ルヘシ)ヲ提出シ勸募贊助員囑託書ノ改調ヲ宗務院ニ申請スヘシ但シ此ノ場合ハ前項既送ノ囑託書ヲ同時返送スヘキモノトス

第三條 本會規則第十七條末項ニ依リ檀徒總代又ハ信徒總代以外重ナル世話人ニ勸募贊助員ノ囑託ヲ申請スルトキハ其ノ氏名及特殊ノ事情ヲ詳記シテ宗務院ニ差出スヘシ

第四條 會員勸募帳簿ハ宗務院一定ニ之ヲ調製シ所屬檀信徒ノ數ニ應シタル紙數ヲ備ヘ之ヲ各寺院ニ配布ス

第五條 各寺院住職タル勸募委員前條ノ勸募帳簿ノ配布ヲ受ケタルトキハ速ニ勸募贊助員ヲ召集シテ本日發布ノ告諭其ノ他本會ニ關スル令達ノ旨趣ヲ演達シ檀信徒一般ノ入會勸募實行ノ方法ヲ協議スヘシ

前項ノ協議ニ於テ住職ハ率先シテ其ノ資力ニ應スル成ルヘク多數ノ會費負擔口數ヲ定メテ入會シ前任職又ハ徒弟ニ相當資力アル者アルトキハ其ノ會費負擔口數ヲ定メテ入會セシメ檀信徒ニ對シテ成ヘク多數ノ會費口數ヲ負擔シテ入會セシムル勸誘方法ヲ協定シ其ノ實行ニ努力スヘシ

第六條 入會者決定スルトキハ勸募帳簿相當欄ニ會員ノ種別會費口數住所氏名及本會規則第二十

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會細則

- 一條ニ依ル祖先親族先亡靈名ヲ記載シ會費徵收ノ年月日ヲ記入スヘシ
會費十日以上ノ負擔者ニシテ本會規則第六條但書ニ依リ會費ヲ分納スル場合ハ其ノ分納額及年賦期限ヲ豫定シテ之ヲ勸募帳簿相當欄ニ附記シ其ノ第一回徵收ノ年月日ヲ明記スヘシ
前項ノ分納ハ負擔會費金額ノ五分ノ一以上ヲ第一回ニ徵收スヘキモノトス
第七條 勸募督勵員ハ常ニ教區内寺院ノ勸募狀況ヲ視察シテ其ノ督勵ニ努ムヘシ
第八條 勸募監督ハ常ニ管内寺院ノ勸募狀況ヲ視察シテ其ノ良好ノ成績ヲ擧クルコトニ努ムヘシ
第九條 宗務院ヨリ勸募督勵專使ヲ特派スル場合ハ宗務院ノ通知ニ依リ其ノ指揮ニ從フヘシ
第十條 入會勸募ノ終了期限ヲ會員勸募帳簿配布到着ノ日ヨリ滿六箇月トス但シ特殊ノ事情アル寺院ニ限リ更ニ六箇月以内之ヲ延期スルコトヲ得
第十一條 寺院住職ハ前條ノ期限内ニ前住職徒弟檀信徒一般ノ入會勸募ヲ終了シ勸募帳簿ニ徵收シタル會費金額ヲ添ヘ會費金額ヲ直接宗務院ニ納付スヘシ
會費金ノ納付ハ本會ノ加入スル(郵便振替貯金口座東京第二五八六六番)ニ拂込ミ勸募帳簿及納金表ハ別ニ之ヲ郵送スヘシ
前項會費金ノ納附ハ現金、郵便爲替又ハ銀行爲替トスルヲ妨ケス但シ送金ノ郵便ハ必ス書留トスヘシ
第十二條 會費分納者ハ前條ノ納金手續ニ於テ其ノ第一回徵收分ヲ納附シ第二回以後ハ其ノ徵收ノ都度之ヲ納附スヘシ

- 第十三條 募集費トシテ會費徵收額ノ十分ノ一ヲ支給スルニ付各寺院ニ於テ協議、勸募、會費徵收及納金等ニ要スル一切ノ費用ハ此ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨シ第十一條徵收金納附ノ際之ヲ控除シテ其ノ領收證ヲ添附スヘシ第十二條分納會費第二回以後ノ徵收納附ノ際亦同シ
募集費ヲ自辨シ前項ノ支給金ヲ控除セサル場合ハ其ノ金額ヲ特殊寄附金トシテ本會之ヲ受領シ特ニ領收證ヲ交附ス
第十四條 第十一條ノ納附手續ヲ了リタルトキハ宗務院ハ其ノ受附順ニ依リ本會規則第二十二條ニ定ムル會員章及會費領收證ヲ當該寺院ニ送附ス但シ會費分納者ニハ其ノ分納毎ニ分納領收證ヲ送附シ完納ノ際更ニ規定ノ領收證ヲ送附スルモノトス
第十五條 本會規則第二十三條ニ依ル維持會員以上ニ對スル謝狀ノ贈與ハ會費完納ノ際トス同二十四條ニ依ル功勞會員以上ニ對スル紀念品ノ添附モ亦同シ
第十六條 會員章會費領收證謝狀紀念品又ハ會費分納領收證ノ送附ヲ受ケタル寺院住職ハ速ニ之ヲ各本人ニ傳達スヘシ
第十七條 寺院住職ニシテ勸募手續又ハ會費分納期間中ニ轉住辭職又ハ免職ノ場合ハ勸募委員ノ職責ヲ明ニシテ後任住職ニ之ヲ引繼クヘシ
第十八條 前條ノ期間中ニ寺院住職死亡ノ場合ハ其ノ檀徒總代又ハ信徒總代タル勸募贊助員ニ於テ勸募委員ノ職責ヲ代理シ後任住職ニ之ヲ引繼クヘシ
第十九條 前二條ノ場合ニ於テ當該寺院後任住職ハ當然前任勸募委員ノ職責ヲ繼承スヘキモノトス

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會細則

ス

第二十條 本會ノ事務ニ關シ宗務院ニ提出スル文書ハ總テ宗務院内本會理事長宛トシテ之ヲ直送スヘシ但シ他ノ法規令達ニ別段ノ規定アル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

○同會寄附金募集延期ノ件

昭和六年十月一日
宗令第五號

茲ニ大正十年十月一日宗令第九號ヲ以テ發布セシ曹洞宗教育興隆會規則ニ據ル教育資金募集期限ハ本年九月三十日ヲ以テ十箇年ヲ滿了スルモ未タ所定額ヲ徵集スルニ至ラス仍テ曹洞宗教育財團設立ノ件第二條但書ニ準シ昭和六年十月一日ヨリ同曆十一年九月三十日ニ至ル五箇年間更ニ募集期間ヲ延長ス

○同決議

昭和八年一月一日
宗令第一號

大正十年宗令第九號ヲ以テ發布シタル曹洞宗教育興隆會規則ニ定メラレタル事業ノ促進及整理ニ關シ茲ニ昭和六年宗令第五號ヲ以テ會費募集期間延長ノ件ヲ發布シタリ然ルニ今般第三十七次宗令ニ於テ別記ノ通り決議セラレタルニ依リ興隆會ハ本年四月ヨリ該決議ノ趣旨ニ基キ會務ヲ處理スヘキニ付末派寺院住職中會費未完納ノ向ハ深ク同會設立ノ目的ト宗門教學ノ前途トヲ考慮シ此際一段ノ奮勵ヲ加ヘ速ニ檀信徒ヲ勸奨シテ成ルヘク今明兩年中ニ完納スルコトニ努ムヘシ
追テ未納負擔額及年賦割當額並ニ納期等ニ關シテハ別ニ興隆會ヨリ直接當該寺院ニ通知スヘシ

決議

大正十年宗令第九號ヲ以テ發布セラレタル曹洞宗教育興隆會ノ事業ノ促進ハ宗門各種教育機關ノ完成上最モ急ヲ要スルニ拘ラス同會設置以來既ニ十餘年ヲ經過スルモ今尙之カ完結ヲ告グルニ至ラス宗門教學ノ前途實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ仍テ宗務院ハ左記ノ方法ニ依リ之ヲ整理ス

- 一 未納負擔額ノ徵收期間ヲ昭和八年度ヨリ向フ七箇年トシ之ヲ十四期ニ分チ毎年二回每期其ノ十四分ノ一ヲ徵收ス但シ當該寺院ノ都合ニ依リ一時ニ納附スルヲ妨ケス
前號ノ未納負擔額ノ納附ニ關シ從來興隆會ト別段ノ契約アルモノハ其ノ契約ニ依ル
- 二 各寺院ノ負擔額ハ從前通り會員募集ノ方法ニ依ルモ又ハ各寺院若クハ住職ニ於テ之ヲ負擔スルモ當該寺院ノ任意トス
- 三 從來各寺院ニ交附シタル募集費ハ昭和九年四月ヨリ之ヲ廢止ス但シ昭和九年中ノ完納者（一時若クハ分納）ニ對シテハ此ノ限ニアラス
- 四 前各號ノ實行ニ關シ宗務院ハ事情ヲ調査シ昭和十年四月ヨリ宗費徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

以上

○同會費寄附金取扱條規

大正十一年三月一日
宗達甲第三號

曹洞宗教育興隆會會費寄附金取扱條規ヲ左記ノ通相定ム

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會寄附金取扱條規

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會費寄附金取扱條規

曹洞宗教育興隆會費寄附金取扱條規

第一條 本會規則ニ定メラレタル會員ノ會費及寄附金ノ取扱ハ凡テ此ノ條規ニ依ル

本會經費并ニ本會細則第十三條ニ規定スル募集費ノ支出ハ大正九年宗令第十一號曹洞宗教育財團設立ノ件第十一條及第十二條ニ依ル

第二條 取扱ハ本會主事ヲ主任トシ簿表ノ登録記入整理ハ書記ヲ指揮シテ之ニ當ラシム

第三條 取扱執務ハ左ノ簿表ニ依ル

- 一 受附簿
- 二 會員臺帳
- 三 特志寄附帳
- 四 會費及寄附金受入明細簿
- 五 寺院カード
- 六 受入金日計
- 七 受入金月計
- 八 傳票
- 九 郵便振替貯金受拂通知票
- 十 郵便振替貯金受拂明細簿
- 十一 銀行當座預金簿

十二 銀行預金取扱明細簿

十三 曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入金額明細簿

十四 證憑

第四條 會費及寄附金ハ凡テ書記ニ於テ受附簿ニ登録ス

受附簿ニ登録セル會費及寄附金ハ證憑ヲ具シ金額及要項ヲ記入セル傳票ト共ニ取扱主任ニ交附ス

第五條 取扱主任前條ノ傳票閱覽ノ後寺院扱ノ會費及寄附金ハ該寺院「カード」ニ記入シ受入簿

ニ記載シ會員臺帳又ハ特志寄附帳ニ登録ス

前項受入簿ニハ一寺院扱毎ニ會費總額、分納者アルトキハ其ノ分納金額、細則第十三條ニ依ル募集費ヲ控除シタルモノハ其ノ控除金額、會費以外ノ寄附金アレハ其ノ金額ヲ區別シ受入金額ヲ明ニ記載スヘシ

會員臺帳ニハ會員ノ種別氏名、負擔會費口數、會費分納者ハ其ノ分納金額及回数ヲ登録スヘシ

第六條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ完納者ニハ會員章及會費領收證、分納者ニハ會員章及會費分納領收證ヲ調製シ取扱寺院ニ送附ス會費以外特殊ノ寄附金ニ對スル領收證ノ送附亦同シ

前項領收證送附ノ際第五條第二項ニ定ムル受入簿ノ區別ヲ明ニシタル受入金額報告書ヲ添附ス

第七條 現金、銀行爲替又ハ郵便爲替受入ノ場合ハ取扱主任ハ專務理事ニ證憑ヲ提示シ受入簿ニ檢印ヲ要メ理事長ノ承認ヲ經テ即日又ハ翌日限り銀行當座預金ニ預入スヘシ

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會費寄附金取扱條規

第六編 教育 ○曹洞宗教育興隆會費寄附金取扱規

本會ノ加入スル郵便振替貯金口座ハ東京第二五八六六番ナルモ若シ本會納附ノ金額ヲ宗務院財務部加入ノ郵便振替貯金口座ニ拂込ミ又ハ他ノ宗費等ニ混シテ財務部ニ納入シタル者アルトキハ財務部ヨリ現金ヲ以テ之ヲ本會ニ交附シ本會ハ前項ノ取扱ニ依リテ之ヲ處理スルモノトス

第八條 受入金ハ凡テ日計ヲ爲スヘシ

第九條 受入金ハ日計ニ依リ更ニ月計表ヲ調製スヘシ

第十條 郵便振替貯金及銀行預金ニ對シテハ理事長ヲ以テ本會代表者ト定メ貯金ノ受拂及預金ノ出納ニハ理事長ノ印章ヲ用フヘシ

第十一條 郵便振替貯金ノ受拂並ニ銀行預金ノ出納ハ必ラス該明細簿ニ一々取扱金額年月日及事由ヲ詳記シ置クヘシ

第十二條 郵便振替貯金及銀行預金利子ハ本會別收入トシ年度決算毎ニ之ヲ計上スヘシ

第十三條 受入金ハ金額壹千圓以内ハ郵便振替貯金又ハ銀行當座預金ヲ以テ保管シ金額壹千圓ニ滿ツル毎ニ帝國政府公債ニ換ヘテ之ヲ保管スヘシ

前項公債ノ買入レハ理事會ノ評議ヲ經ヘシ理事會ニ於テ公債ノ時價買入レテ不利ト認ムル場合ハ其ノ買入レヲ延期シ金額ハ短期定期銀行預金ト爲シ置クヘシ

第十四條 凡テ會員寄附金ノ取扱ハ其ノ簿表ノ適當部分ニ一々取扱者ノ檢印ヲ付シ其ノ責任ヲ明ニスヘシ

第十五條 證憑ハ取扱後其ノ所屬ヲ整理シテ本會存續期間中之ヲ保存スヘシ

第十六條 本會規則第十條第十一條ニ依リ本會收納金ヲ曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入スルトキハ理事會ノ評議ヲ經テ其ノ都度金額年月日ヲ明細簿ニ登錄シ財團ニ於テ資産増加ノ登錄申請手續ヲ履行セシムルモノトス

第十七條 本會規則第二十六條ニ依ル會員ノ種別住所氏名及負擔會費口數ノ宗報報告ハ第四條受附簿登錄順ニ依リ掲載シ會費金ノ分納者ハ其ノ分納金額ノ下ニ負擔總額ト分納回数ヲ附記ス

前項ノ宗報報告ハ報告回数、受入ノ期間及小計累計ノ金額ヲ明示ス

第十八條 此ノ條規ニ定メタル以外ニ必要ナル事項生シタルトキハ理事長ハ理事會ノ評議ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

○教育財團寄附行爲變更ノ件 昭和十年二月十八日 宗令第八號

今般曹洞宗教育財團寄附行爲改正ノ件左ノ通曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

曹洞宗教育財團寄附行爲改正

第一章 目的及事業

第一條 本財團ハ曹洞宗教育法ノ規定ニ遵ヒ大學令ニ依ル大學並專門ノ教育ヲ施ス學校ノ經營維持ヲ以テ目的トス

第二條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

第六編 教育 ○教育財團寄附行爲變更ノ件

第六編 教育 ○教育財團寄附行爲變更ノ件

一 駒澤大學ノ經營

二 專門學校令ニ依ル專門學校ノ設立經營

第二章 名稱及事務所

第三條 本財團ヲ曹洞宗教育財團ト稱ス

第四條 本財團ハ事務所ヲ東京市芝區新堀町三十六番地曹洞宗務院内ニ置ク

第三章 資産及會計

第五條 本財團ノ資産ハ左ノ各號財産ヨリ成ル

- 一 設立者ノ寄附スル帝國政府五分利公債額面貳萬圓及其ノ他ノ供託證券額面四拾八萬圓總計五拾萬圓並ニ駒澤大學救地壹萬六百拾九坪壹合四勺價格金六拾九萬九千參百八拾壹圓建物建坪參千七拾參坪八合九勺價格金五拾八萬四千六百五圓四拾壹錢
- 二 將來有志者ヨリ寄附スル資財
- 三 所有資産ヨリ生スル果實
- 四 學校ヨリ生スル各種收入
- 五 曹洞宗務院ノ補助金
- 六 其他雜收入

第六條 本財團ノ資産ヲ左ノ二種ニ分ツ

一 基本財産

前條第一號第二號ニ依ル資産

二 常用財産

前條第三號乃至第六號ニ依ル收入金

第七條 本財團ノ資産中寄附者ノ指定條件アルモノハ其ノ條件ニ隨ヒ管理シ又ハ處分スルモノトス

第八條 基本財産ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

但シ事業遂行上已ムヲ得サルトキハ理事會ノ決議ニ依リ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ承認ヲ得テ其ノ一部ヲ運用スルコトヲ得

第九條 基本財産ノ内金五拾萬圓ハ大學ノ基金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ供託ス但シ此ノ供託金ハ國債證券又ハ地方債券其ノ他文部大臣ノ定メタル有價證券ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ハ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ認可ヲ得ルヲ要ス

曹洞宗管長ハ前項ノ承認ニ就テハ曹洞宗會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第十條 基本財産ノ内前條ニ定ムル以外ノ現金ハ確實ナル銀行ニ預入シテ保管スルモノトス但シ之ヲ不動産又ハ前條但書ニ準スル有價證券ト爲スコトヲ得

前項ノ各事項決定ハ理事會ノ決議ニ依ルヲ要ス

第十一條 本財團ニ於テ事業遂行上已ムヲ得サル場合ニ於テ負債ヲ爲サントスルトキハ理事會ノ決議ニ依リ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ認可ヲ得ルヲ要ス

第六編 教育 ○教育財團寄附行爲變更ノ件

前項ノ負債ニ關シ擔保權ヲ設定セントスルトキハ曹洞宗管長ハ其ノ承認ニ先チテ曹洞宗會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第十二條 本財團ノ經費ハ常用財産ヲ以テ支辨ス

豫算ハ專務理事ニ於テ年度開始前ニ理事會ノ議決ヲ經テ之ヲ編成シ決算ハ年度終了後直ニ之ヲ調製シ財産目錄ト共ニ理事會ノ承認ヲ經テ之ヲ主務官廳並ニ曹洞宗管長ニ報告スヘシ

曹洞宗管長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ曹洞宗會ニ報告スルヲ要ス

第十三條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ總テ翌年度歲入ニ繰入ルルモノトス

第十四條 常用財産ノ管理及其ノ支出ノ方法ハ理事會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 役員

第十六條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 五人
監事 一人
評議員 若干人
書記 一人

理事中一人ハ曹洞宗務院教學部長四人ハ曹洞宗務院各部長及第二條ニ定ムル學校職員中ヨリ曹洞宗管長之ヲ選任ス

理事中專務理事一人ヲ置キ前項教學部長ヲ以テ之ニ充ツ

專務理事ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ掌理ス專務理事事故アル場合ハ年長順ニ依リ他ノ理事共ノ職務ヲ代行ス

監事ハ曹洞宗務院總務ヲ以テ之ニ充ツ

評議員ハ曹洞宗寺院住職及教育ニ經驗アル者ヨリ曹洞宗管長之ヲ選任ス

役員ノ任期ハ總テ三年トス任期中缺員ヲ生シタルトキハ本條第三項乃至第五項ニ依リ補充選任ス但シ補充ニ依リ選任シタル者ノ任期ハ其ノ補充ノ日ヨリ起算ス

第十七條 理事及監事ノ任務ハ民法ノ規定ニ依リ評議員ノ任務ハ重要ノ事項ニ關シ理事ノ諮問ニ應スルモノトス書記ハ理事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十八條 役員任期滿了ノトキト雖モ後任者就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第五章 理事會

第十九條 理事會ハ必要ノ都度之ヲ開ク

理事會ハ開會五日前ニ日時場所及會議ノ目的タル事項ヲ示シタル書面ヲ以テ專務理事之ヲ招集ス理事二名以上カ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求アリタルトキハ專務理事ハ理事會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二十條 理事會ハ理事定數五分ノ三以上ノ出席ヲ以テ成立シ其ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナル場合ハ議長之ヲ決ス

第六編 教育 ○教育財團寄附行爲變更ノ件

第二十一條 理事會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一 第二條事業遂行ニ關スル事項

二 駒澤大學ノ學長詮衡並ニ人事ニ關スル事項

三 寄附ニ係ル金員及物件ノ受納又ハ謝絶

四 本寄附行爲所定ノ事項及專務理事ニ於テ必要ト認メタル事項

五 其他必要ノ事項

第二十二條 理事會ノ議長ハ專務理事之ニ當ル

附 則

第二十三條 本寄附行爲中變更ノ必要ヲ生シタルトキハ曹洞宗管長ノ指示ニ基キ理事全員ノ同意

ニ依リ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ認可ヲ得テ變更スルコトヲ得

前項曹洞宗管長ノ指示ニ就テハ管長ハ曹洞宗宗會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第二十四條 本寄附行爲施行ニ必要ナル規則ハ理事會ノ議決ヲ經曹洞宗管長ノ承認ヲ得テ之ヲ定

ム

○興學財團設立及寄附行爲變更ノ件

昭和十年二月十八日
宗 令 第 七 七 號

第二十八次曹洞宗宗會ニ於テ宗務院ハ左ノ決議案ヲ提出シ其ノ可決ヲ得タリ

決議案第一號

曹洞宗大學ノ昇格及曹洞宗中學林ノ組織變更ニ關シ勅令ノ定ムル所ニ依リ大學ハ學校即財團又ハ學校ノ經營ノミヲ目的トスル財團ノ經營トシ中學及僧堂其ノ他ノ教育ノ施設ハ其ノ財團ヨリ全然分離スルノ必要アルヲ以テ宗務院ハ第二十四次宗會ノ協賛ヲ經タル曹洞宗教育財團設立ノ件中大學昇格以外ノ教育資金ハ總額ノ四分ノ一ヲ限度トシテ分割シ之ヲ從前設立セル曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入シテ其ノ施設ニ移シ又從前曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入シアル不動産ノ内現在ノ大學ノ校地校舍ハ之ヲ曹洞宗教育財團ノ資産ニ移シテ曹洞宗教育財團ハ専ラ大學及專門學校ノ經營維持ヲ目的トスルコトニ變更スルヲ得

右ハ曹洞宗教育財團ノ寄附行爲ノ目的ヲ變更シ從來ノ目的ノ外ニ中學及僧堂其ノ他ノ教育施設ノ經營者タルヘキモノニ改ムル豫定ノ處同寄附行爲中目的ニ關スル件ハ絶對ニ變更シ能ハサル規定アルヲ以テ主務官廳ニ於テ其ノ變更認可不可能ト詮議決定シタリ依テ更ニ其ノ目的ニ適合スヘキ財團法人ヲ新設シ之ヲ曹洞宗興學財團ト稱シ大正十四年一月二十二日付ヲ以テ左記ノ通文部大臣ノ許可ヲ得同二月四日其ノ登記手續ヲ經タリ

又現在曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入シアル不動産ノ内現在曹洞宗大學ノ校地校舍及現在曹洞宗各中學林ノ校地校舍ハ曹洞宗教育財團及新設曹洞宗興學財團ノ資産ニ移シ得ル規定ヲ定ムル爲メ曹洞宗教育財團ノ寄附行爲中一條追加ノ件モ大正十四年一月二十八日付ヲ以テ左記ノ通文部大臣ノ認可ヲ得タリ

右ノ次第ナルヲ以テ前記決議案文中「之ヲ從前設立セル曹洞宗教育財團ノ資産ニ編入シテ其ノ施

第六編 教育 ○興學財團設立及寄附行為變更ノ件
設ニ移シ」ヲ「之ヲ新ニ設立スル曹洞宗教學財團ノ資産ニ編入シテ其ノ施設ニ移シ」ト訂正シ追
テ宗會ノ事後承諾ヲ要スヘキモノトス
東普四六六號
曹洞宗興學財團設立者
新井石禪

大正十三年十二月十二日申請財團法人曹洞宗興學財團設立ノ件民法第三十四條ニ依リ許可ス
大正十四年一月二十二日
文部大臣 岡田良平

曹洞宗興學財團寄附行為改正

第一章 目的及事業

- 第一條 本財團ハ曹洞宗宗立ノ教育事業ヲ經營維持シ並ニ曹洞宗ノ教育事業ニ要スル財産ヲ供用
シ又其ノ費用ヲ供給スルヲ以テ目的トス
第二條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ
一 愛知中學校ノ維持經營
二 世田谷中學梅檀中學及山口縣多々良中學ノ經營補助
三 専門僧堂及禪林ニ對スル經營補助
四 其ノ他曹洞宗ノ教育機關ニ對スル援助
第二章 名稱及事務所

第三條 本財團ヲ曹洞宗興學財團ト稱ス

第四條 本財團ノ事務所ヲ東京市芝區新堀町三十六番地曹洞宗務院内ニ置ク

第三章 資産及會計

第五條 本財團ノ資産ハ左ノ各號財産ヨリ成ル

- 一 設立者ノ寄附スル帝國政府五分利公債額面金壹萬圓
- 二 梅檀中學敷地建物及其ノ他ノ財産並ニ將來曹洞宗教學財團ヨリ移管スル財産
- 三 將來有志者ヨリ寄附スル資財
- 四 所有資産ヨリ生スル果實及教育事業ヨリ生スル各種收入
- 五 曹洞宗務院ノ補助金
- 六 其ノ他雜收入

第六條 本財團ノ資産ヲ左ノ二種ニ分ツ

一 基本財産

前條第一號第二號ニ依ル資財

二 常用財産

前條第三號乃至第六號ニ依ル收入金

第七條 本財團ノ資財中寄附者ノ指定條件アルモノハ其ノ條件ニ隨ヒ管理シ又ハ處分スルモノト
ス

第六編 教育 ○興學財團設立及寄附行為變更ノ件

第八條 基本財産ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

但シ事業遂行上已ムヲ得サルトキハ理事會ノ決議ニ依リ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ承認ヲ得テ其ノ一部ヲ運用スルコトヲ得

第九條 本財團ノ資産ハ理事會ノ議決ヲ經タル方法ニヨリ専務理事之ヲ管理ス

第十條 基本財産ノ内現金ハ確實ナル銀行ニ預入シテ之ヲ保管スルモノトス但シ之ヲ不動産又ハ有價證券ニ代フルコトヲ得此ノ場合ハ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ認可ヲ得ルヲ要ス

曹洞宗管長ハ前項但書ノ承認ニ就テハ曹洞宗會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第十一條 本財團ニ於テ事業遂行上已ムヲ得サル場合ニ於テ負債ヲ爲サントスルトキハ第八條但書ノ規定ニ依ルコトヲ得サル場合ニ限り理事會ノ決議ニ依リ曹洞宗管長ノ承認ヲ經且ツ主務官廳ノ認可ヲ得ルヲ要ス

前項ノ負債ニ關シ抵當權ヲ設定セントスルトキハ曹洞宗管長ハ其ノ承認ニ先チテ曹洞宗會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第十二條 本財團ノ經費ハ常用財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

前項ノ經費豫算ハ専務理事ニ於テ年度開始前ニ理事會ノ議決ヲ經ヘク且其ノ決算ハ財産目錄ト共ニ理事會ノ承認ヲ經テ之ヲ主務官廳並ニ曹洞宗管長ニ報告スヘシ

第十三條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ總テ翌年度歲入ニ繰入ルモノトス

第十四條 本財團ノ豫算及常用財産ノ支出方法ハ理事會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 役員

第十六條 本財團ニ理事三人ヲ置ク

理事ハ曹洞宗務院教學庶務財務ノ各部長タル者ヲ以テ之ニ充ツ

理事中専務理事一人ヲ置キ前項教學部長タル理事ヲ以テ之ニ充ツ

専務理事ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ掌理ス

専務理事事故アル場合ハ年長順ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第十七條 理事ノ任期ハ曹洞宗務院各部長ノ在職中トス部長ニシテ交迭シ若ハ缺員ヲ生シタルト

キハ其ノ後任部長タル者直ニ専務理事ノ職ヲ繼承スルモノトス

専務理事タル教學部長ニシテ交迭シ若ハ之ヲ缺キタルトキハ其ノ後任部長タル者直ニ専務理事ノ職ヲ繼承スルモノトス

役員ハ任期滿了ノトキト雖後任者就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第五章 理事會

第十八條 理事會ハ必要ノ都度之ヲ開ク

理事會ハ開會五日前ニ日時場所及會議ノ目的タル事項ヲ示シタル書面ヲ以テ専務理事之ヲ招集ス

第十九條 理事會ハ理事定數ノ三分ノ二以上ノ出席ヲ以テ成立シ其ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以

第六編 教育 ○教育法

テ之ヲ決ス可否同數ナル場合ハ議長之ヲ決ス

第二十條 理事會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一 第二條ノ事業遂行ニ關スル事項

二 本財團並ニ愛知中學校ノ豫算決算

三 其他本寄附行爲所定ノ事項及專務理事ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十一條 理事會ノ議長ハ專務理事之ニ當ル

附 則

第二十二條 本寄附行爲中變更ノ必要生シタルトキハ曹洞宗管長ノ指示ニ基キ理事全員ノ同意ニ依リ且ツ主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十三條 本寄附行爲執行ニ必要ナル規則ハ理事會ノ議決ヲ經曹洞宗管長ノ承認ヲ得テ之ヲ定ム

○教育法改正 大正十四年八月一日 宗法第二號

明治三十九年宗法第一號曹洞宗教育法ヲ左記ノ通改正シ曹洞宗宗會ノ協贊ヲ經且文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗教育法

第一條 本宗僧侶ノ教育ハ專ラ佛祖ノ身心ヲ學得シ傍ラ普通高等ノ學科ヲ修メシメ法燈ノ傳持者

及布教傳達ノ人器ヲ養成スルヲ目的トス

第二條 本宗ノ教育ハ第一條ノ目的ヲ達スル傍ラ本宗ノ精神ニ依リ檀徒信徒及一般ノ子弟ヲ教育シ智德ノ開發人格ノ向上ヲ計ルモノトス

第三條 本宗ノ教育機關ハ左ノ六種トス

一 本山僧堂

二 專門僧堂

三 禪林

四 大學

五 中學

六 尼學林

須要ニ應シ前項以外ノ教育機關ヲ設置シ又ハ特殊ノ方法ニ依リ教育ヲ施行スルコトアルヘシ

第四條 本山僧堂ハ兩本山各別ニ之ヲ設立シ大學、專門學校卒業及之レト同等以上ノ學力ヲ有スル僧侶又ハ專門僧堂三年修了以上ノ僧侶ヲ安居セシメ宗乘ノ蘊奧ヲ攻究實踐シ行解相應ノ人器ヲ養成ス

五 尼學林

六 尼學林

本山僧堂ニハ專門僧堂及禪林ト同一ノ教育機關ヲ併置ス

第五條 專門僧堂ハ宗立若ハ宗務院ノ指定スル寺院ノ設立トシ中學卒業及之レト同等以上ノ學力ヲ有スル僧侶又ハ禪林五年修了以上ノ僧侶ヲ安居セシメ宗乘餘乘ヲ教授シ參禪ヲ旨トシ法式ヲ

第六編 教育 ○教育法

昭和十七年
二月十日
昭宗法第一號
以第十號
第一日
修正

同上
同上

第六編 教育 ○教育法

實習セシメ布教傳道ニ堪フル人器ヲ養成ス

同上 第六條 禪林ハ寺院ノ設立ヲ認可シ尋常小學校卒業及之レト同等以上ノ學力アル僧侶ヲ安居セシメ參禪ヲ旨トシ法式實習ノ傍ラ宗乘餘乘並ニ須要ナル中學程度ノ普通學科ヲ教授シ布教傳道ニ堪フル人器ヲ養成ス

同上 禪林ハ前項ノ學科教授ノ機關トシテ私立學校令ニ據ル學校ヲ設置スルコトヲ要ス但シ普通學科ノ教授ヲ公私立中等學校ニ依託スル禪林ハ此ノ限ニアラス

同上 第七條 禪林ハ寺院協同ノ設立宗務院又ハ宗務所ノ設立トスルコトヲ得

禪林ハ特殊ノ場合ニ限り專門僧堂ヲ併置スルコトヲ得

第八條 大學ハ大學令ニ據ル大學トシ之ヲ設置ス

同上 大學ニ大學豫科及專門部ヲ併置ス

第九條 中學ハ中學校令ニ據ル中學校又ハ私立學校令ニヨル中學トシ同令ニ依ル學科ヲ教授ス

第十條 尼學林ハ篤志家ノ設立ヲ認可シ尋常小學校卒業及之レト同等以上ノ學力ヲ有スル尼僧ヲ安居セシメ參禪ヲ旨トシ法式實習ノ傍ラ宗乘餘乘並ニ須要ナル普通學科及實科ヲ教授シ布教傳達ノ補助ニ堪フル人器ヲ養成ス

第十一條 本山僧堂ノ經費ハ各本山ノ負擔トス

第十二條 大學ハ曹洞宗教育財團ノ經營トシ財團資産ノ充實スルマテ宗務院其ノ經費ヲ補足ス

第十三條 中學ハ曹洞宗興學財團ノ經營トシ財團資産ノ充實スルマテ宗務院其ノ經費ヲ補足ス

第十四條 宗立專門僧堂ハ曹洞宗興學財團ノ經營トス

同上 指定專門僧堂ノ經費ハ設立寺院ノ負擔トシ曹洞宗興學財團ノ果實及宗務院ノ支出金ヲ以テ之ヲ補助ス

第十五條 禪林ノ經費ハ設立者ノ負擔トシ曹洞宗興學財團ノ果實及宗務院ノ支出金ヲ以テ普通學科教授ニ要スル教師ノ俸給ヲ補助ス

第十六條 尼學林ノ經費ハ設立者ノ負擔トシ曹洞宗興學財團ノ果實及宗務院ノ支出金ヲ以テ之ヲ補助ス

第十七條 宗務院ハ視學機關ヲ設ケ毎年一回以上各教育機關ヲ視察ス

同上 第十八條 本山僧堂專門僧堂禪林大學中學尼學林ノ各規則及各修學ノ程度ニ應スル教師分限ヲ定ムル規定並ニ視學ニ關スル規定ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

附 則

同上ヲ以テ削除

第十九條 (削除)

第二十條 本法ニ依ル專門僧堂ハ宗令ヲ以テ其ノ規則ヲ發布スルト同時ニ其ノ施行期ト現在認可僧堂ノ處理方法ヲ定ムルモノトス

第二十一條 本法ニ依ル禪林ハ宗令ヲ以テ其ノ規則ヲ發布スルト同時ニ其ノ施行期ヲ定ムルモノトス

第二十二條 本法ニ依ル尼學林ハ宗令ヲ以テ其ノ規則ヲ發布スルト同時ニ其ノ施行期ヲ定ムルモノトス

第六編 教育 ○教育法

第六編 教育 ○視學員規程

ノ尼僧學林ハ漸次其ノ規則ニ依ラシムルモノトス

○視學員規程

昭和三年十二月二十四日
宗令第十一五號

今般曹洞宗視學員規程左記ノ通制定シ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗視學員規定

第一條 宗務院ニ視學員ヲ置ク

第二條 視學員ハ宗務院職員又ハ末派僧侶中ヨリ必要ニ應シ管長之ヲ選任ス

第三條 視學員ハ教學部長ノ命ヲ受ケ特ニ指命セラレタル學事ヲ視察ス

第四條 視學員ハ視察中緊急處理ノ必要アリト認メタル事項アルトキハ直ニ教學部長ニ具申スヘシ

第五條 視學員ハ視察中左記事項ニ就キテハ關係者ニ注意ヲ與フヘシ

法規令達ニ抵觸シタル事項

部ノ指示ニ反シタル事項

其ノ他特ニ指命ヲ受ケタル事項

第六條 本山僧堂ニ就テハ左記事項ヲ視察スヘシ

安居者現員數

參禪ノ概況

本山僧堂規則第四條ニ依ル安居ノ數及ヒ其ノ成績

安居者ノ掛搭及ヒ送行ノ狀況

本山僧堂併置專門僧堂禪林ノ視察ニ就テハ本規程第七條ヲ準用ス

第七條 專門僧堂禪林ニ就テハ左記事項ヲ視察スヘシ

師家准師家教職員ノ現員數

安居者現員數

參禪辨道ノ狀況

專門僧堂第五條ニ依ル安居者數及ヒ其ノ成績看讀科教授ノ狀況

附屬學校ノ狀況（普通學科ヲ他ニ委託スル禪林ニアリテハ其ノ通學ノ狀況）

教科用書ノ種類

看讀科教授ノ狀況

學級編成ノ狀況

設備ノ狀況

經濟ノ狀況

衛生ノ狀況

社會教育宗教教育其他布教ニ關スル諸施設アルトキハ其ノ狀況

其ノ他特ニ指命ヲ受ケ又ハ必要ト認メタル事項

第六編 教育 ○視學員規程

第六編 教育 ○視學員規程

第八條 駒澤大學宗立各中學ニ就キテハ左記事項ヲ視察スヘシ

教職員學生ノ現員數

學生ノ休退學狀況

物件購入ノ狀況

圖書什器等管理ニ關スル事項

運動施設ニ關スル事項

教職員執務ニ關スル事項

金錢出納ニ關スル事項

社會教育宗教教育其ノ他布教施設アルトキハ其ノ事項

其ノ他指命ヲ受ケ又ハ必要ト認ムル事項

第九條 尼學林ニ就キテハ左記事項ヲ視察スヘシ

設備ノ狀況

教職員學生ノ現員數

學級編成ノ狀況

學生入退學及ヒ休學狀況

授業ノ狀況

教科用書ノ種類

經濟ノ狀況

衛生ノ狀況

其他指命ヲ受ケ又ハ必要ト認ムル事項

第十條 視學員視察ヲ終リタルトキハ部長ニ復命書ヲ提出スヘシ

第十一條 視學員ハ直命待遇トス但シ宗務職員ニシテ視學員ヲ兼ヌル場合ハ其等級ニ依ル

第十二條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二節 僧 堂

○僧堂規則改定 大正十五年十一月一日
宗令第七、第八、第九號

大正十四年宗法第二號曹洞宗教育法ニ基キ曹洞宗本山僧堂規則、曹洞宗專門僧堂規則、同看讀科規則、曹洞宗禪林規則、同附屬學校準則左記ノ通制定シ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗本山僧堂規則（宗令第七號）

第一章 總 則

第一條 本山僧堂ハ曹洞宗教育法第四條ニ依リ參禪學道ノ僧侶ヲ安居セシメ宗乘ノ蘊奧ヲ攻究實踐シ行解相應ノ人器ヲ養成スルヲ以テ目的トス
本山僧堂ハ兩本山各別ニ之ヲ設立ス

第六編 教育 ○僧堂規則

第六編 教育 ○僧堂規則

第二條 本山僧堂ノ教育ハ當該本山貫首之ヲ統管シ西堂後堂及其他ノ職員ヲシテ之ヲ助化セシム

第三條 本山僧堂ニ掛搭セント欲スル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ具フルコトヲ要ス

- 一 大學、專門學校又ハ之レト同等以上ノ學校卒業者
- 二 專門僧堂三年修了以上ノ者

第四條 掛搭ノ資格ヲ有セサルモ年齢滿二十五歲以上ニシテ心操行持能ク法器ニ堪ヘ最モ參禪ニ急ナル者ハ特ニ掛搭ヲ許スコトヲ得

第二章 掛搭及搭行

第五條 掛搭及送行ハ毎年春秋兩解間トス但シ結果ノ都合ニ依リ臨時掛搭ヲ許可スルコトヲ得

第六條 掛搭志願者ハ其ノ年九月二十日マテニ書式第一號願書同第二號履歷書ヲ志願ノ本山僧堂ニ提出スヘシ其ノ本山僧堂ハ結果ノ全缺ヲ計リ之レカ許否ヲ指令ス

掛搭許可ノ指令ヲ得タル者ハ速ニ書式第三號保證書ヲ提出シ指定ノ期間ニ當該本山ニ拜登スヘシ

拜登ノ際ハ形相行李齊整スルコトヲ要ス

第七條 送行セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三章 參禪學道

第八條 本山僧堂雲納ノ參禪ハ專ラ高祖太祖ノ宗乘ニ依準ス

第九條 本山僧堂雲納ノ行持ハ洞上行持軌範及當該本山ノ清規山法ニ依ラシム

第十條 本山僧堂ハ滿一年以上安居シタル者ニシテ心事ヲ了畢シタル者又ハ心事未了ト雖モ操行過失ナキ者ニハ書式第四號本山僧堂安居證明狀ヲ授與ス

第四條ニ依リ特ニ掛搭ヲ許サレタル者ハ前項ニ準シ書式第五號本山僧堂安居證明狀ヲ授與ス
前二項ノ證明狀ハ送行ノ際之ヲ授與スルモノトス但シ中途ニ其ノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四章 雜則

第十一條 本山僧堂雲納諸般ノ心得ハ別ニ新條ヲ設ケス專ラ従前ノ山規慣例ニ依ラシム

第十二條 本山僧堂雲納ハ當該本山貫首ノ垂誨ヲ至誠ニ遵奉シ並ニ西堂監院後堂及其ノ他ノ職員ノ開示告報ヲ慇懃ニ服膺スヘシ

第十三條 本山僧堂雲納ノ褒賞及警誡ハ當該本山ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 本山僧堂ハ毎年一回三月末左記事項ヲ宗務院ニ報告ス

一 雲納ノ僧籍及員數
第三條ノ資格ヲ一々明記シ第四條ニ依リ特ニ掛搭ヲ許シタル者ハ其ノ旨ヲ明記シ僧籍ヲ區別ス

一 雲納ノ掛搭及送行

新ニ掛搭シタル者ハ掛搭ノ年月送行シタル者ハ送行ノ年月

一 雲納ニ下附シタル安居證明狀

第六編 教育 ○僧堂規則

第六編 教育 ○僧堂規則

安居ノ年限及心事了畢又ハ未了ノ區別及第四條ニ依リ掛搭ヲ許シタル者ノ安居證明狀

一 參禪ノ概況

一 其ノ他必要ナル事項

第五章 併置教育機關

第十五條 本山僧堂ニ併置スル專門僧堂及禪林ト同一ノ教育機關ハ總テ專門僧堂規則及禪林規則ヲ適用ス但シ本山ニ適用シ能ハサル條項ハ其ノ規則ヲ準用スルモノトス

第十六條 前條ノ教育機關ハ之ヲ本山僧堂併置專門僧堂及本山僧堂併置禪林ト稱ス

第十七條 併置專門僧堂及併置禪林ノ教育ノ統管及助化ハ第二條ニ同シ但シ特ニ分擔ノ職員及學科擔任ノ教師ヲ置クコトアルヘシ

第十八條 併置專門僧堂及併置禪林ノ安居雲納ハ僧籍ニ於テ明ニ之ヲ區別ス

第十九條 併置專門僧堂及併置禪林ノ經費ハ當該本山ノ負擔トス

第六章 附則

第二十條 此ノ規則ノ總テノ書式ハ追テ之ヲ定ム

第二十一條 此ノ規則ハ大正十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 従前ノ本山僧堂規則ハ大正十八年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

○書式第一號

掛搭志願書

昭和二年三月一日
宗令第一二
號ヲ以テ
書式追加

何縣何郡何村

何寺住職(何誰徒弟)

何 誰

右ハ本年^春解間ヨリ御山僧堂へ掛搭志願ニ付(規則第四條ニ依ル者ハ)(規則第四條ニ依リ特別ノ御詮議ヲ以テ)御差許被成下度別紙履歷書相添へ此段相願候也

年 月 日

右

何 誰

何縣何郡何村何寺住職

(保證人ハ師僧又ハ近親法類タルヘシ)

保證人

何 誰

大木山 永平寺 總持寺 僧堂御中

○書式第二號

履歷書

一 誕辰 何曆何年月日生

一 本貫 何縣(族)何市何町何番地何誰何男(ハ)在籍

一 得度 何曆何年月日何縣何郡何村何寺住職何誰ニ就テ得度

一 修學 (順序ヲ追ヒ修學ノ箇所及修學ノ程度ヲ詳細ニ記載スヘシ)

一 證明 (修學ノ證明書ヲ得タル者ハ其旨詳細ニ記載シ別ニ各證明書ノ寫ヲ添附スヘシ)

第六編 教育 ○僧堂規則

第六編 教育 ○僧堂規則

- 一 立身 何曆何年夏何府何郡何市何町何村何寺住職何誰常、片、再會ニ於テ立職
- 一 傳法 何曆何年月日何縣何郡何市何町何村何寺住職何誰ノ室ニ入テ嗣法了畢
- 一 住職 何曆何年月日何府何郡何市何町何村何寺へ首先住職(轉住シタル者ハ其旨記載スヘシ)
- 一 轉衣 何曆何年月日轉衣許狀ヲ受ク
- 一 結制 何曆何年夏何府何郡何市何町何村何寺ニ於テ初會修行
- 一 退隱 何曆何年月日何寺依願退隱
- 一 法齡 何歲(得度ヨリ起算スヘシ)
- 一 世壽 何年

(注意) (前各項中之ニ該當スルコトナキ者ハ之ヲ省クヘシ)

右拙僧履歷相違無之候也

年 月 日

何府何郡何市何町

何寺住職(何誰徒弟)

何 誰

何縣何郡何市何町何村何寺住職

保證人 何 誰

大木山 永平寺 總持寺 僧堂御中

○書式第三號

保證書

今般何誰御山僧堂ニ掛搭御差許相成候ニ就テハ御規則堅ク遵守セシムヘキハ勿論本人身分ニ關スル儀ハ拙僧ニ於テ一切引受可申此段保證致候也

年 月 日

何府何郡何市何町何寺住職

何誰保證人 何 誰

大木山 永平寺 總持寺 僧堂御中

○書式第四號

甲第何號

大木山僧堂安居證明狀

何府何郡何市何町何寺住職(何誰徒弟)

何 誰

何曆何年月日生

何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當本山僧堂ニ安居シ心事了了ス(心事未了ト雖モ操行過失ナシ)依テ之ヲ證明ス

年 月 日

第六編 教育 ○僧堂規則

第六編 教育 ○僧堂規則

大木山 永平寺 總持寺 僧堂

大木山西堂 何

誰

維那 何

誰

(西堂缺員若ハ不在ノトキハ後堂何誰ト署名シ後堂モアラサルトキハ西堂代理監院何誰ト署名ス)

○書式第五號

乙第何號

大木山僧堂安居證明狀

何府何郡何町何寺住職(何誰徒弟)

何 誰

何 誰

規則第四條ニ依リ特ニ掛搭ヲ許シ何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當本山僧堂ニ安居シ心事ヲ了ス(心事未了ト雖モ操行過失ナシ)依テ之ヲ證明ス

年 月 日

大木山 永平寺 總持寺 僧堂

(署名ハ書式第四號ニ同シ)

○本山僧堂併置專門僧堂及禪林ニ關スル書式

(其ノ各規則ニ定ムル各書式ヲ準用ス)

曹洞宗專門僧堂規則(宗令第八號)

第一章 總 則

第一條 專門僧堂ハ曹洞宗教育法第五條ニ依リ參禪學道ノ僧侶ヲ安居セシメ宗乘餘乘ヲ教授シ參禪ヲ旨トシ法式ヲ實修セシメ布教傳達ニ堪フル人器ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 專門僧堂ハ宗立又ハ宗務院ノ指定スル寺院ノ設立トス

第三條 專門僧堂ハ宗務院之ヲ直轄シ師家ヲシテ之ヲ監理セシメ准師家及其ノ他ノ役員ヲシテ其ノ事務ヲ分掌セシム

第四條 專門僧堂ニ掛搭セント欲スル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 中學又ハ之レト同等以上ノ學校卒業者

二 禪林五年修了以上ノ者

第五條 前條ノ資格ヲ有セサルモ年齢滿二十歳以上ニシテ心操行持能ク參禪學道ニ堪ヘ得ル者ハ特ニ掛搭ヲ許スコトヲ得

第六條 掛搭ハ毎年四月一日トシ送行ハ毎年三月末日トス

第七條 掛搭志願者ハ其ノ年三月二十日マテニ書式第一號願書同第二號履歷書ヲ志願ノ專門僧堂ニ提出スヘシ其ノ專門僧堂ハ結業ノ全缺ヲ計リ之レカ許否ヲ指令ス

第八條 掛搭許可ノ指令ヲ得タル者ハ速ニ書式第三號保證書ヲ提出シ掛搭ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 掛搭アル場合ハ臨時ニ掛搭ヲ許スコトヲ得

第十條 掛搭及送行

第十一條 掛搭ハ毎年四月一日トシ送行ハ毎年三月末日トス

第十二條 掛搭志願者ハ其ノ年三月二十日マテニ書式第一號願書同第二號履歷書ヲ志願ノ專門僧堂ニ提出スヘシ其ノ專門僧堂ハ結業ノ全缺ヲ計リ之レカ許否ヲ指令ス

第十三條 掛搭アル場合ハ臨時ニ掛搭ヲ許スコトヲ得

第十四條 掛搭許可ノ指令ヲ得タル者ハ速ニ書式第三號保證書ヲ提出シ掛搭ノ手續ヲ爲スヘシ

第六編 教育 ○僧堂規則

昭和四年
十二月一日
宗令第一
八號以第
八條改正

第六編 教育 ○僧堂規則

第九條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ一箇月以上安居スルコト能ハサルトキハ其ノ事山ヲ具シ保證人連署ヲ以テ暫暇ヲ願出ツルコトヲ得

第十條 送行セントスル者ハ其ノ事山ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三章 參禪學道

第十一條 專門僧堂雲納ノ參禪ハ專ラ高祖太祖ノ宗乘ニ依準ス

第十二條 專門僧堂雲納ノ行持ハ洞上行持軌範ニ依ラシム

第十三條 專門僧堂ニ看讀科ヲ設ケ雲納ニ參禪ノ傍ラ宗乘餘乘其ノ他須要ノ學科ヲ授ケ及説教演說ヲ練習セシム

看讀科規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 專門僧堂雲納ノ接化ハ師家准師家之ヲ擔任シ看讀科ノ教授ハ師家准師家及講師之ヲ擔當ス

第十五條 專門僧堂ハ滿一年以上安居シ操行過失ナク且看讀科一學級以上修了シタル者ニハ安居ノ年月及看讀科修了ノ學級ヲ明記シ書式第四號ノ專門僧堂安居證明狀ヲ授與ス

第五條ニ依リ特ニ掛搭ヲ許サレタル者ハ前項ニ準シ書式第五號專門僧堂安居證明狀ヲ授與ス

前二項ノ證明狀ハ安居三年ニ滿チタル者ノ外ハ送行ノ際之ヲ授與スルモノトス但シ中途ニ必要アル場合ハ臨時ニ之ヲ授與スルコトヲ得

第四章 雲納心得及褒賞警誡

第十六條 專門僧堂雲納心得ノ大要ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 生死事大無常迅速道行ヲ修スルコト頭燃ヲ救フカ如クスヘシ苟モ放逸ナルヘカラス

一 佛祖ノ行履ニ非サルヨリハ履マスノ祖訓ヲ身心ニ鏤銘シテ進止云爲宜ク佛祖ノ訓誡ニ合フヘシ

一 四河海ニ入テ本名ナシ自他齊シク願懺シテ各々善知識ノ念ニ住スヘシ

一 信施一粒米ノ重キコト須彌山ノ如シ供衆ノ龜細ヲ論スヘカラス芙蓉楷祖ノ古風ニ習ヒ嚴冷枯淡ノ芳躅ヲ學フヘシ

一 宗務院ノ示諭訓達並ニ師家准師家ノ垂誨役寮ノ開示告報等至誠ニ遵守スヘシ

第十七條 專門僧堂雲納ニシテ行解圓滿衆僧ノ模範トスヘキ者ニハ師家以下役員一同評査ノ上相當ノ褒賞ヲ授與ス

第十八條 專門僧堂雲納ニシテ若シ不如法ノ動作アルコトヲ認メタルトキハ違法ノ輕重ニ依リ師家以下役員一同評査ノ上適當ノ處分ヲ執行ス

第五章 雜 則

第十九條 宗務院ハ左ノ事項ヲ具備スル寺院ニ對シ專門僧堂ノ設置ヲ指定ス

一 法式、參禪、説教練習及看讀科ノ用ニ供スヘキ伽藍堂宇ヲ有スルコト

一 二十五名以上ノ雲納ヲ安居セシムルニ堪フル資産ヲ有スルコト

一 三法幢地又ハ一等地以上ノ寺院ニシテ其ノ由緒位置及土地ノ狀況僧堂教育ニ適スルコト

第六編 教育 ○僧堂規則

昭和四年
二月一日
宗令第一
八號ヲ以
テ本條追
加ス

第六編 教育 ○僧堂規則

- 一 十名以上ノ雲納ヲ常在セシムルコト
- 第二十條 專門僧堂ニハ師家一名、准師家及講師各一名以上常在セシメ其ノ他必要ナル役員ヲ置クヘシ
- 第二十一條 指定專門僧堂設置寺院住職ニシテ自ラ師家タルコト能ハサルトキハ他ノ師家ヲ招聘スルコトヲ得准師家ニ關シテ亦同シ
- 第二十二條 指定專門僧堂師家准師家ノ就任解任ハ其ノ都度宗務院ノ認可ヲ受クヘシ
講師及役員ノ就任解任ハ其ノ都度宗務院ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 專門僧堂ハ寺院結制ノ請ニ應ジ僧堂雲納ヲ出會セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ出會ノ方所及期日並ニ出會雲納ノ姓名ヲ記載シ宗務院ノ許可ヲ受クヘシ
前項ノ出會ハ僧堂擔任ノ師家又ハ准師家ニ於テ當該結制ノ助化師トシテ雲納ヲ統理スルコトヲ要ス
- 第二十四條 指定專門僧堂ノ經費ハ設置寺院ノ負擔トス但シ安居雲納ノ多少ニ依リ曹洞宗興學財團ノ果實及宗務院ノ支出金ヲ以テ若干ノ經費ヲ補助ス
- 第二十五條 專門僧堂ハ安居雲納ヨリ若干ノ食費ヲ徵集スルコトヲ得
指定專門僧堂ニ在リテハ前項ノ場合宗務院ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十六條 專門僧堂ハ毎年三月末日ヲ以テ宗立ニ在リテハ其ノ管理者指定專門僧堂ニ在リテハ師家准師家設置寺院住職及維那ノ連署ヲ以テ左ノ事項ヲ宗務院ニ報告スヘシ

- 一 僧堂雲納ノ僧籍及員數
 - 第四條ノ資格ヲ一々明記シ第五條ニ依リ特ニ掛搭ヲ許シタル者ハ其ノ旨ヲ明記シ僧籍ヲ區別スヘシ
 - 一 僧堂雲納ノ出入
新ニ掛搭シタル者ハ掛搭ノ年月送行シタル者ハ送行ノ年月第九條ニ依リ暫假シタル者ハ其ノ期間ヲ明記スヘシ
 - 一 僧堂雲納ノ參禪法式實習概況
 - 一 師家准師家ノ接化及教授ノ概況
 - 一 僧堂雲納看讀科ノ成績
 - 一 僧堂雲納ニ下附シタル安居證明狀
安居ノ年限及看讀科修了ノ學級及第五條ニ依リ掛搭シタル者ノ證明狀ノ區別
 - 一 僧堂雲納ノ褒賞及警誡
 - 一 僧堂雲納ノ應請出會ノ概況
 - 一 其ノ他必要ナル事項
 - 第二十七條 本規則ニ規定セサル事項ハ當該專門僧堂ニ於テ之レヲ定メ宗務院ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六章 附則
- 第二十八條 此ノ規則ノ總テノ書式ハ追テ之ヲ定ム

第六編 教育 ○僧堂規則

第二十九條 此ノ規則ハ大正十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十條 宗立専門僧堂ハ曹洞宗興學財團資金ノ充實スルマテ當分之ヲ設立セス

第三十一條 宗立専門僧堂設立ニ至ルマテ本山僧堂併置ノ専門僧堂ヲ以テ之ニ充ツ

曹洞宗専門僧堂看讀科規則

第一條 看讀科ハ之ヲ三學級ニ分チ宗乘餘乘ヲ課シ及其ノ補助科トシテ國語漢文歷史及哲學ヲ學習セシム

第二條 看讀科ノ修業年限ヲ三箇年トシ一學級ノ修業年限ヲ一箇年トス

第三條 看讀科ノ學科課程ハ左ノ如シ

科目	學級		每週授時數
	第一學級	第二學級	
宗乘	宗乘要旨	同上	四
餘乘	佛教要義	同上	二
國語	講讀、文法、作文、修辭	同上	二
漢文	講讀、文法	同上	三
歷史	日本史大綱	印度史大綱	二
哲學	心理學大綱 倫理學大綱 論理學大綱	哲學概論	二
合計			一五
			一五
			四
			二
			二
			三
			二
			二
			四
			一五

第四條 前條ノ外隨時說教演說ヲ練習セシム

第五條 第三條ノ教科用書ハ宗務院之ヲ定ム

前項教科用書ノ採定又ハ變更ヲ要スルトキハ師家准師家ノ連署ヲ以テ宗務院ノ認可ヲ願出ツヘシ

第六條 第三條ノ課程ノ外機宜ニ應シテ須要ノ學科ヲ設ケ之ヲ學修セシムルコトヲ得此ノ場合ハ豫メ宗務院ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 始業終業時限ハ適宜之ヲ定メ宗務院ニ開申スヘシ但シ授業時數ハ一日凡ソ三時間以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第八條 毎年三月末ニ於テ一箇年間修業シタル學科ニ就キ試験ヲ行ヒ職員評査ノ上其ノ合格不合格ヲ定ム

宗乘ノ試験ハ講說又ハ筆記ノミニ依ラス綿密ニ其ノ見處ヲ點檢シテ宗意ニ參徹セシムルコトヲ要ス

第十條 試験評點ハ定點ヲ一百ト爲シ宗乘餘乘各七十點以上各科平均六十點以上ヲ合格トシ之ニ當ラサル者ヲ不合格トス

不合格ノ者ハ同一學級ノ課程ヲ再修セシムルモノトス

第十一條 半途ニ掛搭シ又ハ事故ノ暫暇ニ依リ一學級課程ノ全部ヲ學習セサル者ハ其ノ學力ノ程度ヲ勘定シテ特ニ試験ヲ許シ又ハ次後ノ試験マテ之ヲ延期セシム

第六編 教育 ○專門僧堂

第六編 教育 ○專門僧堂看讀科教科用書規定
第十二條 此ノ規則ニ規定セサル事項ハ宗務院ノ指揮ヲ受クヘシ

○專門僧堂看讀科教科用書規定 昭和三年四月一日 宗令第五號

曹洞宗專門僧堂看讀科規則第五條ニ依リ教科用書ヲ左ノ通撰定シ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗專門僧堂看讀科教科用書

科目	第一學級	第二學級	第三學級
宗乘	禪學講本(駒澤大學撰)	同上	同上
餘乘	佛教學講本 上(駒澤大學撰)	佛教學讀本(同上)	同上
國語	講讀 徒然草、平家物語 文章講話(早稻田大學出版部) 文章作法原理(實踐女學校 專門部出版)	校註大鏡抜抄	校註枕草紙 歷代和歌抄 現代國文學選(沼澤、宮崎共著)
漢文	文章軌範 古文眞寶(弘道館) 詩學便覽 回機活法 禪偈摘葉 禪偈讀套	孟子集註 中古文抄(育英書店) 同上	左傳新抄(弘道館) 白樂天詩(文明書局) 同上

昭和二年三月一日
宗令第三號
以テ追加式書

○書式第一號

掛搭志願書

哲	學	注意
歷史 日本佛敎小史(境野黃洋著) 心理學 (烏田外四名共著) 松邑三松堂 普通心理學 (金子馬治著) 早稻田大學出版部 論理學 (速水晃著) 岩波書店 論理學概論 (永野芳夫著) 三共出版社	印度支那(境野黃洋著) 佛敎小史 倫理學概論(荻原擴著) 倫理學(吉田靜致著) 哲學概論(桑木元翼著) 哲學概論(宮本和吉著) 哲學概論(兒玉達章著)	印度支那(孤峰智聖著) 日本禪宗史 教育學 (松邑烏田外四名共著) 三松堂 教育學大意講義 (渡邊政盛著) 啓文社 社會學原論(建部遜吾著)
科目ニ同種數書ヲ掲ケタルハ學修上ノ便ニ具ヘタルモノニ付採擇又ハ變更ヲ要スルトキハ規則第五條第二項ノ手續ヲ履行スヘシ		

何府市何町
何縣郡何村
何寺住職(何誰徒弟)

何誰

右ハ本年四月ヨリ貴專門僧堂へ掛搭志願ニ付(規則第五條) 『規則第五條ニ依リ特別ノ御詮議ヲ以テ』御差許被成下度別紙履歷書相添へ此段相願候也

年 月 日

右 何 誰

第六編 教育 ○專門僧堂掛搭書式

第六編 教育 ○專門僧堂掛搭書式

何縣何市何町何寺住職
(保證人ハ師僧又ハ
近親法類タルヘシ)

保證人 何

誰 ㊦

何々專門僧堂御中

○書式第二號

履歷書

- 一 誕辰 何曆何年月日生
 - 一 本貫 何縣(族)何府何市何町何番地何誰何男(又)在籍
 - 一 得度 何曆何年月日何縣何市何町何寺住職何誰ニ就テ得度
 - 一 修學 (順序ヲ追ヒ修學ノ年月ト修學ノ箇所
(及修學ノ程度ヲ詳細ニ記載スヘシ))
 - 一 證明 (修學ノ證明書ヲ得タル者ハ其旨詳細ニ
(記載シ別ニ各證明書ノ寫ヲ添付スヘシ))
 - 一 立身 何曆何年冬何縣何市何町何寺住職何誰隨、初再會ニ於テ立職
 - 一 傳法 何曆何年月日何縣何市何町何寺住職何誰ノ室ニ入テ嗣法了畢
- (其他轉衣、結制ノ僧侶分限ヲ得タルモノ、首先住職轉住退隱シタル者ハ項ヲ分チテ詳細ニ記載スヘシ)
- 一 法齡 何歲(得度ヨリ起算スヘシ)
 - 一 世壽 何年
- 右拙僧履歷相違無之候也
- 年 月 日

何縣何市何町

何寺住職(何誰徒弟)

何

誰 ㊦

何縣何市何町

何寺住職

何

誰 ㊦

何々專門僧堂御中

○書式第三號

保證書

今般何誰貴專門僧堂ニ掛搭御差許相成候ニ就テハ御規則堅ク遵守セシムヘキハ勿論本人身分ニ
關スル儀ハ拙僧ニ於テ一切引受可申此段保證致候也

年 月 日

何縣何市何町何寺住職

何誰保證人

何

誰 ㊦

何々專門僧堂御中

○書式第四號

甲第何號

專門僧堂安居證明狀

第六編 教育 ○專門僧堂掛搭書式

何府何市何町何村何寺住職(何誰徒弟)

何 誰

何曆何年月日生

何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當專門僧堂ニ安居シ操行過失ナク且看讀科第何級ノ課程ヲ修了セリ依テ之ヲ證明ス

年 月 日

何專門僧堂

師 家 何 誰 ㊦

准師家 何 誰 ㊦

維 那 何 誰 ㊦

○書式第五號

乙第何號

專門僧堂安居證明狀

何府何市何町何村何寺住職(何誰徒弟)

何 誰

何曆何年月日生

規則第五條ニ依リ特ニ掛搭ヲ許シ何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當專門僧堂ニ安居シ操行

過失ナク且看讀科第何級ノ課程ヲ修了セリ依テ證明ス

年 月 日

何專門僧堂

(署名ハ書式第四號ニ同シ)

曹洞宗禪林規則(宗令第九號)

第一章 總 則

第一條 禪林ハ曹洞宗教育法第六條ニ依リ得度以上ノ僧侶ヲ安居セシメ參禪ヲ旨トシ法式實習ノ傍ヲ宗乘餘乘竝ニ特ニ須要ナル中學程度ノ普通學科ヲ教授シ布教傳道ニ堪フル人器ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 禪林ハ寺院ノ設立ヲ認可スルヲ原則トシ寺院協同ノ設立又ハ宗務院ノ設立ヲ認可スルコトアルヘシ

第三條 禪林ハ宗務院之ヲ直轄シ師家ヲシテ之ヲ監理セシメ准師家及其ノ他ノ役員ヲシテ其ノ事務ヲ分掌セシム

第四條 禪林ニ掛搭セント欲スル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 尋常小學校卒業者
二 試驗ニ依リ前號ト同等以上ノ學力アリト檢定セラレタル者但シ試驗ハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ルヘシ

第六編 教育 ○禪林規則

第二章 掛搭及送行

第五條 掛搭ハ毎年四月一日トシ送行ハ毎年三月末日トス

第六條 掛搭志願者ハ其ノ年三月二十日マテニ書式第一號願書同第二號履歷書ヲ志願ノ禪林ニ提出スヘシ其ノ禪林ハ結業ノ全缺ヲ計リ之レカ許否ヲ指令ス

缺員アル場合ハ臨時ニ掛搭ヲ許スコトヲ得

第七條 掛搭許可ノ指令ヲ得タル者ハ速ニ書式第三號保證書ヲ提出シ掛搭ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ一箇月以上安居スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ暫暇ヲ願出ツルコトヲ得

第九條 送行セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三章 參禪學道

第十條 禪林雲衲ノ參禪ハ專ラ高祖太祖ノ宗乘ニ依準ス

第十一條 禪林雲衲ノ行持ハ洞上行持軌範ニ依ラシム

第十二條 禪林ハ第一條ニ定ムル學科教授ノ機關トシテ私立學校令ニ據リ中學程度ノ學校ヲ附屬設置シ所定ノ學科ヲ授ケ及説教演說ヲ練習セシム

禪林附屬學校準則ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 禪林雲衲ノ接化ハ師家准師家之ヲ擔任シ設置學校學科ノ教授ハ師家准師家及其ノ他ノ職員之ヲ擔當ス

第十四條 禪林ハ滿五年以上安居シ操行過失ナク設置學校ノ課程ヲ卒業シタル者ニハ書式第四號禪林安居證明狀及學科卒業證書ヲ授與ス

滿一年以上安居シ操行過失ナク設置學校一年以上ノ課程ヲ修了シテ送行ノ止ムナキニ至リタル者ニハ書式第五號安居證明狀及學科修了證書ヲ授與ス

第四章 雲衲心得及褒賞警誡

第十五條 禪林雲衲心得ノ大要ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 生死事大無常迅速道行ヲ修スルコト頭燃ヲ救フカ如クスヘシ苟モ放逸ナルヘカラス

一 佛祖ノ行履ニ非サルヨリハ履マスノ祖訓ヲ身心ニ鏤銘シテ進止云爲宜ク佛祖ノ訓誡ニ合フヘシ

一 四河海ニ入テ木名ナシ白他齊シク顧憐シテ各々善知識ノ念ニ住スヘシ

一 信施一粒米ノ重キコト須彌山ノ如シ供衆ノ龜紐ヲ論スヘカラス芙蓉楷祖ノ古風ニ習ヒ嚴冷枯淡ノ芳躅ヲ學フヘシ

一 宗務院ノ示諭訓達竝ニ師家准師家ノ垂誨役寮ノ開示告報等至誠ニ遵守スヘシ

第十六條 禪林雲衲ニシテ行解圓滿衆僧ノ模範トスヘキ者ニハ師家以下役員一同評査ノ上相當ノ褒賞ヲ授與ス

第十七條 禪林雲衲ニシテ若シ不如法ノ動作アルコトヲ認メタルトキハ違法ノ輕重ニ依リ師家以下役員一同評査ノ上適當ノ處分ヲ執行ス

第六編 教育 ○禪林規則

第六編 教育 ○禪林規則
第五章 雜 則

第十八條 禪林ニハ師家一名准師家一名以上教師若干名ヲ常在セシメ其ノ他必要ナル役員ヲ置クヘシ

第十九條 禪林設置寺院住職ニシテ自ラ師家タルコト能ハサルトキハ他ノ師家ヲ招聘スルコトヲ得准師家ニ關シテモ亦同シ

第二十條 禪林師家准師家ノ就任解任ハ其ノ都度宗務院ノ認可ヲ受クヘシ
教師及役員ノ就任解任ハ其ノ都度宗務院ニ届出ツヘシ

第二十一條 禪林ノ經費ハ設立者ノ負擔トス但シ安居雲納ノ多少ニ依リ曹洞宗興學財團ノ果實及宗務院ノ支出金ヲ以テ若干ノ經費ヲ補助ス

第二十二條 禪林ハ安居雲納ヨリ若干ノ食費及月謝ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ハ宗務院ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 禪林ハ毎年三月末日師家准師家設置寺院住職及維那ノ連署ヲ以テ左ノ事項ヲ宗務院ニ報告スヘシ

一 禪林雲納ノ僧籍及員數

第四條ノ資格ヲ一々明記スヘシ

一 禪林雲納ノ出入

新ニ掛搭シタル者ハ掛搭ノ年月送行シタル者ハ送行ノ年月第八條ニ依リ暫假シタル者ハ其ノ

期間ヲ明記スヘシ

一 禪林雲納ノ參禪法式實習ノ概況

一 師家准師家ノ接化及學校學科教授ノ概況

一 禪林雲納附屬學校學科ノ成績

學級別ニ詳細記載スヘシ

一 禪林雲納ニ下附シタル安居證明狀竝ニ學科卒業及修了證

詳細ニ區別明記スヘシ

一 禪林雲納ノ褒賞及警誡

一 其ノ他必要ナル事項

第二十四條 本規則ニ規定セサル事項ハ當該禪林ニ於テ之レヲ定メ宗務院ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 認可手續

第二十五條 禪林ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一 法式、參禪及說教演說練習ノ用ニ供スヘキ堂宇及附屬學校ノ用ニ供スヘキ相當ノ建物ヲ有スルコト

一 二十五名以上ノ雲納ヲ安居セシムルニ堪フル資産ヲ有スルコト

一 三法幢地又ハ一等地以上ノ寺院ニシテ位置及土地ノ狀況禪林教育ニ適スルコト

一 第十二條ニ定ムル學校ヲ設置シ私立學校令ニ據リ監督官廳ノ認可ヲ受クルコト

第六編 教育 ○禪林規則

昭和四年
二月一日
宗令第一
九號以
加本號
進

第六編 教育 ○禪林規則

- 一 十名以上ノ雲衲ヲ常在セシムルコト
- 第二十六條 前條ノ事項ヲ具備スルモ一市郡内若ハ一府縣内ニ禪林ノ數多キニ過クルト認めルトキハ之ヲ認可セサルコトアルヘシ
- 第二十七條 禪林ヲ設立セント欲スル者ハ書式第六號願書同第七號設備事項書ヲ調製シ管轄宗務所ヲ經由シテ宗務院ニ提出スヘシ
- 第二十八條 寺院協同ヲ以テ禪林ヲ設立セント欲スルトキハ設置スヘキ寺院協同經營ノ方法及代表タルヘキ寺院ヲ定メ連署ヲ以テ願出ツヘシ
- 禪林ヲ宗務所ノ設立トセントスルトキハ設置スヘキ寺院及經營ノ方法ヲ定メ宗務所長ヨリ願出ツヘシ
- 第二十九條 前二條ニ依リ宗務院ノ認可ヲ得タルトキハ禪林附屬學校準則ニ基キ學校設立ヲ監督官廳ニ出願シ其ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十條 前條監督官廳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ指令ノ寫ヲ添ヘ宗務院ニ開申スヘシ
- 第三十一條 前條ノ手續ヲ了シタル後設置者師家准師家ノ連署ヲ以テ禪林ノ開單ヲ届出ツヘシ
- 第三十二條 曹洞宗教育法第六條第二項但書ニ依リ普通學科ノ教授ヲ近隣所在ノ適當ナル公私立中等學校ニ依託セントスルトキハ其ノ依託スヘキ學校及通學ノ方法ヲ定メ第二十七條又ハ第二十八條ノ願書ト共ニ其ノ認可ヲ宗務院ニ願出ツヘシ
- 前項ノ場合ハ禪林ニ於テ教授スヘキ學科ハ禪林附屬學校準則ニ規定スル學科課程中單ニ宗乘及餘乗トシ適當ノ時間割ヲ定メテ之ヲ課スヘシ

第三十三條 前條ニ依ル禪林ニ在リテハ第二十九條及第三十條ノ手續ヲ要セス

第七章 附 則

- 第三十四條 此ノ規則ノ總テノ書式ハ追テ之ヲ定ム
- 第三十五條 此ノ規則ハ大正十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三十六條 従前ノ認可僧堂規則ハ大正十八年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

曹洞宗禪林附屬學校準則

第一章 總 則

- 第一條 本校ハ禪林ノ構内ニ設置スヘシ但シ事情ニ依リ近隣ナル他ノ構内ニ設置スルコトヲ得
- 第二條 本校ハ缺員アル場合ニ限り禪林安居雲衲ノ外一般子弟ノ入學ヲ許スコトヲ得但シ入學資格ハ禪林掛搭ニ要スル資格ニ同シ
- 第三條 本校ノ修業年限ヲ五箇年トシ一學級ノ修業年限ヲ一箇年トス
- 第四條 本校ハ私立學校令ニ據リ必要ナル學則ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ學則ハ此ノ準則ノ規定ニ基キ豫メ宗務院ノ承認ヲ經ルヲ要ス
- 第五條 本校ハ必要アルトキハ特ニ學校名稱ヲ附スルコトヲ得此ノ場合ハ豫メ宗務院ノ承認ヲ經テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 學科課程

第六編 教育 ○禪林規則

第六編 教育 ○禪林規則

第六條 學科目ハ宗乘、餘乘、修身、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、圖畫、體操トス

前項學科目中宗乘及餘乘ハ其ノ初歩ヨリ要綱ニ至リ修身以下ハ中學程度ノ普通學ノ大要ヲ授クルモノトス但シ英語ハ之ヲ隨意科トスルコトヲ得

第七條 各學年學科課程及教授時數ハ左表ノ如シ

學科目	學年別				
	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年	第五 年
宗 乘	宗乘初步	上	二宗乘攝要	同宗史綱上	同上
餘 乘	佛教初步	上	二各宗大意	佛同教史要上	同上
修 身	國民道德ノ要旨	上	一 同上	一 同上	一倫理學
國語及漢文	講讀、文法、作文、習字	同上	五 同上	五 同上	六 同上
(英 語)	發音、綴字、讀方、譯解、習字	同上	三 讀方、譯解、文法、書取	三 同上	三 讀方、譯解、作文、會話
歷 史	日本歷史	二 同上	二 東洋歷史	二 東洋歷史	二 西洋歷史
地 理	日本地理	一 外國地理	一 地 文	一 同上	一 同上
數 學	算 術	二 代 數	二 代 數	二 代 數	一 平面幾何
博 物	礦 物	一 植 物	一 生理及衛生	一 動物	一 植物
物理及化學	—	—	—	—	一 化學
圖 畫	自在畫	上	上	—	—
體 操	普通體操	二 同上	上	二 同上	上
每週教授時數合計	二二	二二	二二	二三	二三

第八條 教科用書ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 學年、學期及休日

第九條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ至ル

一學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 學年中休業定日ハ左ノ如シ

毎日曜日、大祭祝日、灌佛會、兩祖忌、達祖忌、太祖降誕會、成道會、高祖降誕會、涅槃忌、夏期休業八月一日ヨリ十月二十五日ヨリ

冬期休業十二月二十一日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第四章 入學、在學、退學及生徒心得

第十一條 入學ノ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日

以内ニ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第六編 教育 ○禪林規則

第六編 教育 ○禪林規則

第十二條 禪林掛搭者ハ必要條件トシテ優先入學セシメ其ノ他ノ者ハ補充トス

前項補充者ニシテ入學ヲ許スヘキ員數ニ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ

前項ノ選抜試驗ハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ國語算術ノ二科ニ就キ之ヲ行フ

第十三條 第二學年以上ニ入學シ得ヘキ者ハ前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アルコトヲ要ス

前項學力檢定ハ課程ノ各學科ニ就キ試驗ヲ行フモノトス

第十四條 第四學年以上ニハ入學ヲ許サス但シ他ノ禪林ニ於テ修了シタル者ノ轉錫ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 禪林掛搭者以外ノ生徒入學休學及退學手續ハ掛搭者ノ掛搭暫暇及送行ノ規定ニ準シ學則ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 禪林掛搭者以外ノ生徒入學金授業料等ハ學則ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十七條 禪林掛搭者以外ノ生徒心得褒賞及警誡ハ掛搭者ニ對スル規定ヲ準用シ學則ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五章 試驗、評點、修業及卒業

第十八條 試驗ヲ分チテ學期試驗及學年試驗トス

學期試驗ハ第一學期及第二學期ノ末ニ於テ其ノ學期間ニ履修シタル課程ニ就キ之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年末ニ於テ其ノ一學年間ニ履修シタル課程全部ニ就キテ之ヲ行フ但シ試驗ヲ要セサル學

科ニ就キテハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第十九條 正當ノ事由ナクシテ一學期中授業時間總數ノ三分ノ一以上缺席シタル者ハ其ノ學期試驗ヲ受クルコトヲ得ス正當ノ事由アリテ學年試驗ニ缺席シタル者ノ爲メ特ニ其ノ追試驗ヲ行フコトアルヘシ但シ其ノ學年中既得ノ成績ヲ參照シ追試驗ヲ行フモ合格ノ見込ナシト認メタル者ニハ之ヲ行ハス

第二十條 評點ハ學期評點、學年評點、學年成績及操行評點ノ四種トス

學期評點ハ第一及第二ノ各學期ニ於ケル各學科ノ學期試驗得點ト其ノ學期間ニ附シタル日課點ト平均シタルモノトス但シ日課點ヲ附セサル學科ハ試驗得點、試驗ヲ行ハサル學科ハ日課點ヲ以テ直ニ學年評點トス

學年成績ハ各學科ノ第一及第二期評點ノ平均點ト學年評點トヲ合算シテ之ヲ二分シタルモノトス

前各項評點ハ各一百ヲ以テ滿點トス

操行評點ハ甲乙丙丁ノ四等ニ分チ一學年平素ノ行爲勤惰等ニ依リ職員商議ノ上之ヲ定ム

第二十一條 左ノ各號ヲ具備スル者ヲ合格トシ其ノ一ヲ缺ク者ヲ不合格トス

第六編 教育 ○禪林規則

第六編 教育 ○禪林附屬學校教科書差定ノ件

- 一 學年成績各科四十點以上
- 二 學年成績全科平均六十點以上
- 三 操行評點丙以上

前項ノ合格者ニシテ學年成績平均八十點以上操行評點甲ヲ得タル者ヲ優等トス

第二十二條 學科目中隨意科ハ試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第二十三條 第五學年ノ課程ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

卒業ニ至ラスシテ退學ノ已ムナキニ至リタル者ニハ特ニ其ノ修了シタル學年ノ修業證書ヲ授與ス

○禪林附屬學校教科書差定ノ件

昭和三年四月一日
宗達乙第一號

今般曹洞宗禪林附屬學校準則第八條ニ依ル教科用書ニ關シ當事者ヨリ伺出ノ向モ有之ニ付參考ノ爲其ノ種類及程度ヲ左ノ通差定シタルニ依リ茲ニ之ヲ達示ス

曹洞宗禪林附屬學校教科書

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
乘宗	禪宗讀本 上(鴻盟社)	禪宗讀本 下(鴻盟社)	禪宗小史(新井境野共著)(修證義(鴻盟社))	十種勸問(永平大清規)	學道用心集(信心銘拾提)
乘餘	佛敎讀本 上(鴻盟社)	佛敎讀本 下(鴻盟社)	印度支那(佛敎小史)(鴻盟社)	日本佛敎小史(鴻盟社)	佛敎要義(佛敎論(口述))

身修	國語	文作	習字	漢文	歷史	地理	理科
大瀨甚太郎著 中學修身(卷一) (守成館)	佐々木政一編(三名) 介補 昭和一期 新國語讀本(卷一) 古川秀雄編 現代文範 前篇(院)	丹羽正長著 新書範 一	丹羽正長著 新書範 二	開成館編輯所編 現代漢文讀本 卷一 簡野道明編 新修日本外史鈔 (明治書院)	開成館編輯所編 新編日本歷史 上卷 日本歷史精圖 (帝國書院)	地理教授同志會編纂 改版帝國地理 十五年版(帝國書院)	守屋著 帝國精圖地理ノト
同 上卷二	同上 卷三、四	同 上卷二	同 上卷二	同 上卷二	同 上 下卷	山崎直方著 普通世界地理 上卷	新世界地圖(開成館)
同 上卷三	同上 卷五、六 藤村作、島津久基共 編(至文堂) 國文新讀本 上卷 最新日本文典 (富山房)	嵯峨天皇御書 昭代法帖 第八集	同 上卷三	同 上卷三	羽田亨著 訂中等東洋史教科書 東洋歷史精圖 (富山房) (帝國書院)	同 上 中卷	同 上
同 上卷四	同上 卷七、八	同 上卷四	同 上卷四	同 上卷四	大類仲著 新體西洋歷史 中等西洋史地圖 (富山房) (岩波書店)	同 上 下卷	同 上
訂改澤柳政太郎著 中學修身書(卷五) (同交館)	同上 卷九、十	同 上卷五	同 上卷五	同 上卷五	大類仲著 新體西洋歷史 芝葛盛著(明治書院) 訂中等日本歷史	小川琢治著 中等地理學通論 (富山房)	同 上

第六編 教育 ○禪林附屬學校教科書差定ノ件

第六編 教育 ○禪林附屬學校教科書差定ノ件

英	操體	畫圖	學	化	理	物	博	學	數
譯讀、ニュー、クラ ウン、リイダース (六版)卷一(三省 堂)プログレッシブ	普通體操	大成圖書 卷一 (大日本圖書會社) 平面幾何圖法(口授)	大成圖書 卷二 平面幾何圖法(口授)	大成圖書 卷三 立體幾何圖法(口授)	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
譯讀、ニュー、クラ ウン、リイダース (六版)卷二、ニユ イ、メソッド、サ イド、リイダース	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
譯讀、ニュー、クラ ウン、リイダース (六版)卷三、青木 氏、サイド、リ イダース(再版)卷一	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
譯讀、ニュー、クラ ウン、リイダース (六版)卷四、ニユ イ、フロイズ、リ イダース 卷一	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
譯讀、ニュー、クラ ウン、リイダース (六版)卷五、ニユ イ、フロイズ、リ イダース 卷二	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上

昭和二年
三月一日
宗令第四
號ヲ以テ
追加

○書式第一號

掛搭志願書

語	文法	作文	習字	算術	理科	博物	地理	歴史	英語
リイダース(再版) 卷一(開成館) 作文、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) 出版協會) 習字、ガントレツ ト、ブラクテイカ ル、コビー、ブツ (三省堂)	卷一(三省堂) 文法、長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版)卷二 習字、ガントレツ ト、ブラクテイカ ル、コビー、ブツ (三省堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)	長岡氏訂正、 カンダス、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ラム、マー(四版)卷 二、頭本氏、ニユ イ、エー、イ ジ、コー、ス(再版) ム、ボジヨン(再版) 一(泰文堂)

右ハ本年四月ヨリ貴禪林へ掛搭志願ニ付(尋常小學校卒業者)ニアラサル者ハ)『試験ノ上』御差許被成下度別紙履
歴書相添へ此段相願候也

年 月 日

右

第六編 教育 ○禪林掛搭書式

何府何市何町何寺住職

何 誰

(保證人ハ師僧又ハ近親法類タルヘシ)

保證人 何

誰Ⓞ

何寺禪林御中

○書式第二號

履歷書

誕辰 何曆何年月日生

本貫 何縣(府)何市何町何番地何誰何男(又)在籍

得度 何曆何年月日何縣何市何町何寺住職何誰ニ就テ得度

修學 (尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其年月日學校名ヲ明記シ其他ノ修學履歷アル者ハ詳細ニ記載スヘシ)

證明 (修學ノ證明書ヲ得タル者ハ其ノ旨詳細ニ記載シ別ニ證明書ノ寫ヲ添付スヘシ)

(立身傳法轉衣等ノ僧侶分限ヲ得タル者ハ項ヲ分チテ詳細ニ記載スヘシ)

法齡 何歲(得度ヨリ計算スヘシ)

世壽 何年

右拙僧履歷相違無之候也

年 月 日

何府何市何町何村

何寺住職何誰徒弟

何

誰Ⓞ

何寺禪林御中

○書式第三號

保證書

今般何誰貴禪林ニ掛搭御差許相成候ニ就テハ御規則堅ク遵守セシムヘキハ勿論本人身分ニ關スル儀ハ拙僧ニ於テ一切引受可申此段保證致候也

年 月 日

何府何市何町何村何寺住職

保證人

何

誰Ⓞ

何府何市何町何村何寺住職

何誰保證人

何

誰Ⓞ

何寺禪林御中

○書式第四號

甲第何號ノ一

禪林安居證明狀

何府何市何町何村何寺住職何誰徒弟

何

何歷何年月日生 誰

第六編 教育 ○禪林掛搭書式

何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當禪林ニ安居シ操行過失ナシ依テ之ヲ證明ス
年 月 日

何寺禪林

師 家

何

誰 ㊦

准師家

何

誰 ㊦

設置者

何

誰 ㊦

維那

何

誰 ㊦

○書式第四號ノ二

甲第何號ノ二

學科卒業證(普通學科ノ教授ヲ他ノ學校ニ依託シタル場合)
ハ此ノ證書ハ宗乘餘乘ノ學科ノミニ適用ス

何縣何郡何村何寺住職何誰徒弟

何

誰

何曆何年月日生

何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當禪林ニ安居中附屬學校規定ノ學科ヲ卒業セリ依テ之ヲ證明ス
年 月 日

何寺禪林(別ニ學校名ヲ附シタル場合ハ何
等禪林設置何々學校ト記スヘシ)

(署名ハ書式第四號ニ同シ)

○書式第五號

乙第何號ノ一

禪林安居證明狀

何縣何市何町何村何寺住職何誰徒弟

何

誰

何曆何年月日生

何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當禪林ニ安居シ五年ノ安居ヲ了セス送行シタルモ操行過失
ナシ依テ之ヲ證明ス
年 月 日

何寺禪林

(署名ハ書式第四號ニ同シ)

○書式第五號ノ二

乙第何號ノ二

學科修了證(學科卒業書ノ注意ニ同シ)

何縣何市何町何村何寺住職何誰徒弟

何

誰

第六編 教育 ○禪林掛搭書式

第六編 教育 ○禪林掛書式

何曆何年月日生

何曆何年月日ヨリ何曆何年月日マテ當禪林ニ安居中附屬學校規定ノ學科第何級ヲ修了セリ依テ之ヲ證明ス

年 月 日

何寺禪林(別ニ學校名ヲ附シタル場
合ハ書式第四號ニ同シ)

(署名ハ書式第四號ノ二ニ同シ)

○書式第六號

禪林開設願

何府何市何町
何縣何郡何村

寺格級階 何 寺院

右ハ今般禪林規則ニ依リ禪林ヲ開設致度依テ別紙設備事項書相添ヘ規則第二十七條ニ依リ此段相願候也

年 月 日

右何寺住職

何 誰[㊟]

(寺干與者一同連署ヲ要ス)

教學部長 姓名 殿

○書式第七號

設備事項書

一 設置寺院 所在地及寺格級階寺號

一 境内 何坪 但寺有地

一 伽藍及建物

本堂 間口何間奥行何間

庫裡 間口何間奥行何間

僧堂 間口何間奥行何間

但シ僧堂ナキトキハ之カ代用建物ヲ配スヘシ

學校ニ充ツヘキ建物 間口奥行部數及概略ノ平面圖

一 設置寺院附近ノ狀況

一 安居僧收容ノ豫定人員(最初何人順次何人ニ至ル)

一 師家准師家及學科教授ノ豫定

師 家 何寺住職何誰

准師家 何寺住職何誰

第六編 教育 ○禪林開設願書式

第六編 教育 ○師家令

學科教授

何學科 何誰

何學科 何誰

- 一 普通學科ノ教授ヲ他ノ學校ニ委託セントスルトキハ其ノ所在學校名及距離並ニ通學ノ方法
- 一 禪林經營ノ資源及方法

(詳細ニ明記スヘシ)

- 一 二箇寺以上協同ヲ以テ設立セントスルモノハ其ノ協同經營ノ方法

(詳細ニ明記スヘシ)

其ノ他必要ト認ムル事項

右之通ニ御座候也

年 月 日

何寺住職

何

誰[㊦]

(以下連署願書ニ同シ)

教學部長 姓名 殿

○師家令制定

昭和五年四月十五日
宗令第四號

明治二十八年十一月五日宗達甲第二十五號ヲ以テ發布シタル曹洞宗師家法ヲ左ノ通り改正シ文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布ス

曹洞宗師家令

第一條 曹洞宗ニ師家准師家ヲ置ク

第二條 師家准師家ハ志願者ノ出願ニ依リ兩本山貫首ノ査定ヲ經テ管長之ヲ認可ス

第三條 師家査定ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 一等教師ニシテ多年師家ニ隨待シ心事了畢ノ印可ヲ得タルコト

二 五年以上准師家トナリ接衆ノ實蹟アルコト

三 心操行持老實ニシテ宗内ニ德望ヲ有スルコト

四 法幢ヲ建立シタルコト

五 世壽四十五年以上法齡三十歳以上ノコト

第四條 准師家査定ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 二等教師以上ニシテ多年師家ニ隨待シ心事了畢ノ印可ヲ得タルカ又ハ操行過失ナキコト

二 第三條第三號及第四號ノ資格ヲ有スルコト

三 世壽三十年以上法齡十五歳以上ノコト

第五條 師家又ハ准師家ヲラント欲スル者ハ書式第一號願書同第二號履歷書ヲ整ヘ管長宛宗務院ニ提出スヘシ

第六編 教育 ○師家令

第六編 教育 ○師家令

第六條 本山西堂後堂又ハ駒澤大學長ノ職ヲ奉シタル者及大教師ニ補任セラレタル者ニハ出願ヲ俟タスシテ師家ヲ認可ス

第七條 碩德耆宿ニシテ師家ノ資格ヲ具備スル者ハ兩本山貫首ノ鑑識ニ依リ管長ニ於テ師家ヲ認可ス

第八條 師家ノ任務ハ左ノ如シ

一、本山西堂又ハ後堂ノ職ヲ奉シ接衆スルコト

二、專門僧堂又ハ禪林ニ於テ接衆スルコト

第九條 師家ハ二箇以內ノ專門僧堂又ハ禪林ヲ兼帶接化スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一年ノ日子ヲ等分シテ僧堂又ハ禪林ニ安單シ接衆ニ從事スヘシ

第十條 師家ハ本山僧堂規則專門僧堂規則又ハ禪林規則ニ準據セスシテ證明狀又ハ證書ヲ授與スルコトヲ得ス

第十一條 師家ハ本山西堂後堂ノ任命ヲ受ケ又ハ專門僧堂禪林ノ聘請ヲ受ケタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十二條 准師家ノ任務ハ左ノ如シ

一、本山僧堂ニ於テ單頭ノ職ヲ奉スルコト

二、專門僧堂又ハ禪林ニ常在シ接衆ヲ補佐スルコト

第十三條 准師家ハ本山僧堂單頭ノ任命ヲ受ケ又ハ專門僧堂禪林接衆補佐ノ依託ヲ受ケタルトキ

ハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條 師家又ハ准師家ニシテ謹慎以上ノ懲戒ニ處セラレタルトキハ師家又ハ准師家ノ認可ハ

自然消滅スルモノトス

第十五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 従前師家准師家ノ認可ヲ得タル者ハ本令改正ノ爲メ其ノ資格ニ影響セス

○書式第一號

師家(准師家)認可願

何府何市何町何寺院住職

何縣何郡何村

何等教師

何 誰

右曹洞宗師家(准師家)タルコトヲ御認可被下度乃チ履歷書及證憑相添へ曹洞宗師家令第五條ニ依リ此段相願候也

右

年 月 日

何

誰

管 長 殿

○書式第二號

履 歷 書

一 誕辰 何曆何年月日生

第六編 教育 ○師家令

大正十五年三月十五日
 宗令
 第五號
 第一號
 以東洋
 文部省
 正學部
 改

第六編 教育 ○駒澤大學學則
 大學令ニヨル駒澤大學々則左記ノ通制定シ文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ本年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 專門學校令ニ依ル從前ノ曹洞宗大學ハ其ノ名稱ヲ廢止シ駒澤大學ノ附屬專門部トシテ之ヲ存續スルコトニ決定シ其ノ專門部規則ハ目下文部大臣ニ認可申請中ナリ

駒澤大學學則

第一章 總則

- 第一條 本大學ハ大學令ニ依リ學術ノ理論及應用ヲ教授シ就中佛敎學、東洋學及人文學ノ蘊奧ヲ攻究セシメ併セテ人格ヲ陶冶シ風敎ヲ作興シ人心ヲ指導スヘキ人材ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本大學ハ學部、大學豫科及研究科ヲ以テ構成ス
- 第三條 本大學ハ文學部トス
- 第四條 學部ニ佛敎學科、東洋學科及人文學科ヲ置ク
- 第五條 學部ノ在學年限ハ三箇年以上六箇年以内トシ研究科ノ在學年限ハ三箇年以上トス
- 第六條 大學豫科ハ修學年限ヲ三箇年トシ高等普通教育ヲ施スト同時ニ學部ニ入ラント欲スル者ノ爲ニ必要ナル學科ヲ教授ス

第二章 學部

第一節 學科課程

第七條 各專攻學科ニ於テ在學中開設スヘキ學科目及單位數左ノ如シ

佛敎學科		撰擇科目	
必修科目	單位數	撰擇科目	單位數
禪學	六	宗敎哲學	一
佛敎學	五	佛敎文學	一
印度哲學	一	宗敎史	三
東洋哲學史	二	心理學	一
西洋哲學史	二	教育學及教育史	三
倫理學	一	宗敎制度	一
宗敎學	一	認識論	一
社會學	一	東洋倫理特殊講義	二
哲學概說	一	西洋倫理特殊講義	二
哲學	二	日本文化史	一
第一外國語(英語)一週四時間		日本佛敎各宗綱要	三
但シ修身ノ高等學校高等科敎員ヲ志望スル者ニアリテハ東洋哲學史一單位、哲學概說及哲學ノ三單位ニ限リ履修セサルコトヲ得		科學概論	一
		史學	一
		優生學	一
		第二外國語(梵語、巴利語、獨	

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第一外國語(英語)一週四時間

第二種

禪學概論

佛教概論

佛教々理史

英文學

英文學特殊講義及演習

教育學及教育史

言語學

國語及國文學

第一外國語(英語)一週四時間

但シ第一種又ハ第二種ノ中何レカ一種ヲ履修スヘク第一種ヲ履修スル者ニハ第二種ヲ、第二種ヲ履修スル者ニハ第一種ヲ撰擇科目トス

第二外國語(梵語、巴利語、西藏語、獨逸語) 一週二時間

但シ英語ノ高等學校高等科教員ヲ志望スル者ニアリテハ英文學ニ關スル學士試驗ヲ受クヘシ

第八條 學部ハ每學年ノ終リニ當リ次學年度ニ於ケル開講學科目ヲ告示ス

第九條 學生ハ每學年ニ學科八單位以上ノ授業ヲ受ケ三學年以上六學年以内ニ二十四單位以上ノ試験ヲ通過スルコトヲ要ス

第十條 學生ハ前條ノ學科二十四單位以外最初ノ二學年間ニ必ス外國語ヲ履習スルコトヲ要ス
第一外國語ハ必修科ニシテ第二外國語ハ撰擇科トス但シ第二外國語ヲ履習セサル者ハ最初ノ二學年間ニ撰擇學科中ヨリ二單位ヲ選ヒ履習スルモノトス
學生ハ每學年ノ初ニ於テ其ノ學年度ニ履習セントスル學科目ヲ届出テ學長ノ認可ヲ受クヘシ

第二節 學年學期及休業

第十一條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十二條 學期ハ左ノ三期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十三條 本學ノ休日ハ左ノ如シ

日曜日、大祭祝日、開校記念日

春季休業ハ四月一日ヨリ同七日ニ至ル

夏季休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第一期 四月二十日マテ 金四拾圓

第二期 九月二十日マテ 金四拾圓

第三期 一月二十日マテ 金貳拾圓

第二十八條 一旦受理シタル納入金ハ如何ナル理由アルモ一切之ヲ返附セス

第二十九條 學生在學中ハ兵役關係ヲ除クノ外、休學シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第五節 試験及稱號

第三十條 試験ヲ分チテ科目試験及學士試験ノ二種トス

第三十一條 科目試験ハ當該學科擔任教師ノ見込ヲ以テ隨時之ヲ行ヒ學士試験ハ論文及口頭試問トシ所定ノ學科單位數以上及外國語ノ授業ヲ受ケ其ノ科目試験ニ合格シタル者ニ對シテ之ヲ行フ

第三十二條 論文ハ履習シタル科目ノ範圍内ニ於テ題目ヲ定メ且ツ豫メ擔當教授ノ承認ヲ受クヘキモノトス

論文提出期ハ九月十一日ヨリ十二月二十日マテトス

第三十三條 論文試験委員ハ一論文毎ニ二名トシ學長之ヲ選定ス

第三十四條 科目試験及學士試験ノ評點ハ百點ヲ滿點トシ六十點以上ヲ合格トス

第三十五條 正當ノ事由ニ依リ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ行フ

第三十六條 學士試験ニ合格シタル者ニハ證書ヲ授與ス

前項ノ證書ヲ受ケタル者ハ文學士ト稱スルコトヲ得

第三章 研究科

第三十七條 學士試験ニ合格セシ者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ本大學研究科ニ入學セント欲スル者ハ其ノ研究事項及方法ヲ具シテ願出ツヘシ學長ハ教授會ニ附議シ適當ト認メタル者ニ限り入學ヲ許可ス

第三十八條 研究科學生ノ指導ハ學長ノ選定シタル教授之ヲ擔任ス

第三十九條 研究科學生ハ其ノ研究報告ヲ毎學年末ニ指導教授ヲ經テ學長ニ提出スヘシ

第四十條 研究科學生ノ爲メ特ニ講義ヲ開キ特別實習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

研究科學生ハ學長ノ許可ヲ受ケ學部ノ講義實習等ニ出席スルコトヲ得

第四十一條 研究科學生ハ在學料トシテ一學年金八拾圓ヲ納ムヘシ

第四十二條 研究科學生ハ特ニ學長ノ許可ヲ得タル者ノ外ハ他ノ業務ニ從事シ又ハ本大學所在地若ハ其ノ附近以外ニ居住スルコトヲ得ス

第四十三條 研究科學生ハ所定ノ年限以上在學ノ後其ノ研究事項ニ付論文ヲ學長ニ提出シ學位ヲ請求スルコトヲ得

前項學位ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 大學豫科

第一節 學科課程

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第六編 教育 ○駒澤大學學則
第四十四條 大學豫科ニ於ケル學科課程ハ左ノ如シ

學科	學年	第一學年每週教授時數	第二學年每週教授時數	第三學年每週教授時數
修身		一	一	一
國語及漢文		六	五	五
第一外國語		九	八	八
第二外國語		(四)	(四)	(四)
佛敎學		三	四	四
歷史		三	四	四
地理		二		
哲學概說				三
論理及心理			二	二
法理及經濟		三	二	二
數學		二	三	三
自然科學		三	三	三
軍事教練及體操		(三六)	(三六)	(三六)
計		(三六)	(三六)	(三六)

第一外國語ハ英語トス

第二外國語ハ獨逸語、梵語、佛蘭西語、巴利語ノ中其ノ一ヲ撰修スヘキモノトス

● 僧籍ナキモノニ對シテハ〔佛敎學〕ハ一週二時間乃至四時間ヲ課ス

第二節 學年學期及休業

第四十五條 第十一條乃至第十三條ハ之ヲ大學豫科ニ適用ス

第三節 入學休學及退學

第四十六條 第十四條ハ之ヲ大學豫科ニ適用ス

第四十七條 大學豫科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左記各號ニ該當スルモノトス

- 一 中學校第四學年修了者
 - 二 高等學校尋常科修了者
 - 三 高等學校高等科入學資格試驗合格者
 - 四 專門學校入學者檢定規定ニ依ル試驗檢定合格者
 - 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
 - 六 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第四十八條 左記各號ノ一ニ該當シ前學年各科目ノ試驗ニ合格シタル者ハ缺員アル場合ニ限り第一學年ニ入學ヲ許スコトアルヘシ
- 一 中學校卒業者
 - 二 專門學校入學者檢定規定ニ依ル試驗檢定合格者
 - 三 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第四十九條 入學志願者ノ數募集人員ニ超過スルトキハ其ノ選抜試驗ヲ行フ

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第五十條 入學志願者ハ本大學所定ノ入學願書ニ履歷書出身學校長ノ成績證明書若ハ資格證明書
戶籍謄本手札形寫眞及檢定料金五圓ヲ添ヘ本大學ニ差出スヘシ

第五十一條 第十六條乃至第二十一條ハ之ヲ大學豫科ニ適用ス

第五十二條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ二ヶ月以上修學スルコト能ハサル者ハ其ノ事由
ヲ具シ保證人連書ノ上一學年間休學ヲ願出ツルコトヲ得

第五十三條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ復學ヲ許スモノトス
休學期間内ト雖モ其ノ事故止ムトキハ願ニ依リ復學ヲ許スコトアルヘシ

第五十四條 第二十四條及第二十五條ハ之ヲ大學豫科ニ適用ス

第四節 入學料及授業料

第五十五條 第二十六條ハ之ヲ大學豫科ニ適用ス

第五十六條 授業料ハ一學年間金八拾圓トシ左ノ三期ニ分納スヘシ

第一期 四月二十日マテ 金參拾圓

第二期 九月二十日マテ 金參拾圓

第三期 一月二十日マテ 金貳拾圓

第五十七條 一旦受理シタル納入金ハ如何ナル理由アルモ一切之を返付セス

第五十八條 生徒在學中ハ兵役關係ヲ除クノ外休學シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第五節 試驗進級及修了

第五十九條 試驗ヲ分チテ臨時及學年ノ二種トス

第六十條 臨時試驗ハ擔當教師ノ見込ニ依リ臨機之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第六十一條 各科目ノ試驗成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不

合格トス

第六十二條 不合格ノ科目二科目ヲ超エサルトキハ教員會議ノ銓衡ニ依リ假リニ進級セシムルコ
トヲ得但シ此ノ場合ニハ不合格ノ科目ニ就キ再試驗ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス

第六十三條 大學豫科第三學年ノ試驗ニ合格シタル者ニハ修了證書ヲ授與ス

第五章 選科

第六十四條 學部ニ開設スル學科目ヲ選擇シテ之レヲ學修セント欲スル者アル時ハ缺員アル場合
ニ限り選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十五條 選科ニシテ專攻學科ヲ修了シタル者ニハ修業證書ヲ授ク

第六十六條 選科ニ入學シ得ル者ハ左ノ各號ノ何レカニ該當スルコトヲ要ス

一 師範學校、中學校、高等女學校卒業以上ノ者

二 教授會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

第六十七條 本章ニ規定シタル以外ノ事項ニ關シテハ第三十五條ヲ除ク外一般規定ヲ準用ス

第六章 賞罰

第六十八條 品性學業共ニ優秀ナル者ニハ學資ノ補助若ハ他ノ方法ヲ以テ旌表スルコトアルヘシ

第六編 教育 ○駒澤大學學則

第六十九條 學生ニシテ學則ニ背反シ其ノ他不都合ノ行爲アルトキハ情狀ニ依リ譴責、停學若ハ退學ヲ命ス

第七十條 品行不良ニシテ改悛ノ見込ナキ者又ハ學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者ニハ退學ヲ命ス

第七十一條 前二條ノ規定ニ依リ譴責停學若ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及保證人ニ通知シ且其ノ退學處分ハ同種學校ニモ之ヲ通告スルコトアルヘシ

第七十二條 學生ニシテ故意ニ校舎及器具等ヲ汚損シタル者ニハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第七章 職員

第七十三條 本大學ニ左ノ職員ヲ置ク

學長	一名
學監	一名
圖書館長	一名
監事	若干名
司書	若干名
書記	若干名
教授	若干名
助教授	若干名

講師 若干名

學生監 若干名

學生監補 若干名

第七十四條 學長ハ本大學ヲ統理シ所屬職員ヲ監督ス

第七十五條 學監ハ學長ノ命ヲ承ケ事務及學生ノ監督ヲ掌ル

第七十六條 圖書館長ハ學長ノ命ヲ承ケ圖書館ニ關スル事務ヲ掌ル

第七十七條 監事ハ學長若ハ學監ノ命ヲ承ケ諸般ノ事務ヲ整理ス

第七十八條 司書ハ學長若ハ圖書館長ノ命ヲ承ケ圖書館ノ事務ヲ整理ス

第七十九條 書記ハ上職ノ指揮ニ從ヒ諸般ノ事務ニ服ス

第八十條 教授ハ擔任學科ノ教授及研究ニ從事シ常ニ學生ノ研究指導ト素行監督トニ任ス

第八十一條 助教授及講師ハ各擔任學科ヲ教授シ學生ノ研究ヲ指導ス

第八十二條 學生監ハ他ノ教職員ト協力シテ學生生徒ノ指導監督ヲナシ言論、集會等ノ取締ニ任ス

第八十三條 學生監補ハ學生監ヲ補佐シ學生生徒ノ相談ニ應ス

第八十四條 本大學ニ功勞アリ又ハ學術上功績アル者ニハ評議員會ノ決議ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

第八十五條 本大學ニ評議員會ヲ置キ本學ノ教育其他ノ施設ニ關シ重要ノ事項ヲ審議ス

第六編 教育 ○駒澤大學學則

大正十五年三月一日
 改正 宗令十五
 條以第五年大

第六編 教育 ○駒澤大學專門部學則
 第八十六條 學部ニ教授會、豫科及專門部ニ級主任會ヲ設ケ學生徒ノ訓育監督ニ關スル事項ヲ審議ス

○駒澤大學專門部學則制定ノ件 大正十四年四月十五日 宗令第四號ノ二

今般從前ノ曹洞宗大學規則ヲ駒澤大學專門部學則ト改メ左ノ通り制定シ文部大臣ノ認可ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ發布シ本學年ヨリ之ヲ施行ス

駒澤大學專門部學則

第一條 專門部ハ本大學ニ附屬シ專門學校令ニ依リ禪學佛教學及須要ナル高等ノ學科ヲ教授シ布教傳道ニ堪フル人材ヲ養成シ兼テ中等學校教員タラントスル者ノ爲ニ資スル所トス
 第二條 專門部ニ佛教科、高等師範科ヲ置キ高等師範科ヲ國語漢文科及歴史地理科ニ分ツ
 第三條 專門部各科ノ修業年限ヲ三ケ年トシ之ヲ本科別科ニ分チ高等師範科ニハ別ニ修業年限一ケ年ノ專修科ヲ置ク
 第四條 各科ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

佛教科

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身及倫理學	國民道德	一	倫	理
	時數	每週一	每週一	每週一
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年
禪學	講義及演習	九	同	同
	時數	每週一〇	每週一〇	每週一〇
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
佛學	講義及演習	一〇	同	同
	時數	每週一〇	每週一〇	每週一〇
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
國語	講義及作文	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
歷史	佛敎史	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
哲學	心理及論理	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
宗教	宗敎史	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
法制・經濟	法	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
社會事業	社會學	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
體操	教練及體操	二	同	同
	時數	每週二	每週二	每週二
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二
合計		三五	三五	三五

法制・經濟・社會事業ノ三科目ハ隨意科トス

高等師範科
 一、國語漢文科

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身及倫理學	國民道德	一	倫	理
	時數	每週一	每週一	每週一
	第一學年	二	二	二
	第二學年	二	二	二

第六編 教育 ○駒澤大學專門部學則

第六編 教育 ○駒澤大學專門部學則

佛教科別科

本學ニ於テ志願者ノ履歷ニツキ銓衡ノ上適當ト認メタル者

高等師範科別科

甲 種

- 一、小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者
- 二、尋常小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者
- 三、小學校專科正教員免許狀ヲ有スル者
- 四、小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

乙 種

前條ノ資格ヲ有セサルモ本學ニ於テ志願者ノ履歷ニツキ銓衡ノ上適當ト認メタル者

第七條 各科第二學年以上ニ入學シ得ル者ハ缺員アル場合ニ限り前二條ノ資格ヲ享有シ更ニ本學ニテ前學年全學科ノ學力檢定試験ニ合格シタル者タルヘシ

第八條 專修科ハ國語漢文科、歴史地理科ヲ卒業シ更ニ其ノ學科ニ就テ研究セントスル者ヲ入學セシム

第九條 專修科ヲ第一種第二種群分チ第一種ハ國語漢文科、第二種ハ歴史地理ヲ卒業シタルモノヲ入學セシム

第十條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十一條 學期ヲ分チテ左ノ三期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十二條 專門部ノ休日ハ左ノ如シ

日曜日、大祭祝日、開校記念日

春季休業ハ四月一日ヨリ同七日ニ至ル

夏季休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬季休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第十三條 入學ノ時期ハ學年ノ始トス

第十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ所定ノ書式ニ依リ保證人連署ノ在學證書ヲ差出スヘシ

第十五條 願ニ依リ退學シタル者再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上復學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 保證人轉居改印等ノコトアルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ轉居其ノ他ノ事由ニ依リ保證人ヲ改メタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第十七條 學生ハ病氣又ハ事故ニ依リ缺席スルトキハ必ス事由ヲ具シ届出ツヘシ但シ病氣ノ爲七日以上缺席スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第六編 教育 ○駒澤大學專門部學則

第六編 教育 ○駒澤大學專門部學則

- 第十八條 缺席ノ日數ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ス若シ一箇月以上ヲ經過シ其ノ理由尙止マサルトキハ其ノ都度新ニ其ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス
- 第十九條 在學ハ六學年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ兵役ノ爲許可シタル休學日數ハ之ヲ算入セス
- 第二十條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上一學年間休學ヲ願出ツルコトヲ得
- 第二十一條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ復學スヘキモノトス
- 休學期間内ト雖モ其ノ事故止ムトキハ願ニ依リ復學ヲ許スコトアルヘシ
- 第二十二條 退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ
- 第二十三條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス
- 一 品行學業共ニ修學ニ不適當ナリト認メタル者
 - 二 出席常ナラサル者
 - 三 兵役以外ノ事由ニテ引續キ一箇年以上缺席シ又正當ノ理由ナクシテ一箇月以上缺席シタル者
- 第二十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ
- 第二十五條 各科ノ授業料ヲ一學年間金八拾圓トシ左ノ三期ニ分納スヘシ
- 第一期 四月二十日マテ 金參拾圓
- 第二期 九月二十日マテ 金參拾圓

- 第三期 一月二十日マテ 金貳拾圓
- 第二十六條 一旦受理シタル納入金ハ如何ナル理由アルモ一切之ヲ返付セス
- 第二十七條 生徒在學中ハ兵役關係ヲ除クノ外、休學シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス
- 第二十八條 試験ヲ分チテ臨時及學年ノ二種トス
- 第二十九條 臨時試験ハ擔任教師ノ見込ニ依リ臨時之ヲ行ヒ學年試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ
- 第三十條 各科目ノ試験成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ之ヲ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス
- 第三十一條 不合格ノ科目二科目ヲ超エサルトキハ教員會議ノ銓衡ニ依リ假リニ進級セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニハ不合格ノ科目ニ就キ再試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス
- 第三十二條 卒業者ニハ所定ノ卒業證書ヲ授與ス
- 第三十三條 品行學業共ニ優秀ナル者ニハ學資ノ補助若ハ他ノ方法ヲ以テ旌表スルコトアルヘシ
- 第三十四條 學生ニシテ學則ニ背反シ其ノ他不都合ノ行爲アルトキハ情狀ニヨリ譴責、停學、若ハ退學ヲ命ス
- 第三十五條 品行不良ニシテ改悛ノ見込ナキ者又ハ學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者ニハ退學ヲ命ス
- 第三十六條 前二條ノ規定ニ依リ譴責、停學者ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及保證人ニ通知シ且其ノ退學處分ハ同種學校ニモ通告スルコトアルヘシ

第六編 教育 ○駒澤大學徵兵令認定ノ件

第三十七條 學生ニシテ故意ニ校舍及器具等ヲ汚損シタル者ニハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

附 則

一、曹洞宗大學大學部現在生ニシテ駒澤大學々部ニ入學セサル者ハ仍從前ノ規則ニ依ルコトヲ得

二、第二十五條ノ授業料ニ關スル規定ハ昭和四年四月以後ノ入學者ヨリ之ヲ適用ス

三、第七條中改正シタル人文學科課程ハ昭和七年九月一日ヨリ之ヲ實施ス、本改正ニ依リ履修單位ノ増加セル學科目ニ於テハ昭和七年度ニ限り第一學期中ニ履修スヘキ授業ハ同學年末迄ニ之ヲ補充ス、但シ英文學並ニ英文學特殊講義及演習ノ増加セル單位ニ就テハ此限りニアラス

○駒澤大學徵兵令認定ノ件 大正十四年八月二日 告示第二十七號

大學令ニ依リ設立認可ヲ得タル駒澤大學ハ徵兵令第十三條ニ依ル認定ヲ得ル必要アリテ其ノ申請中ノ處五月十九日ヲ以テ左記官報寫ノ通認定セラレタリ

駒澤大學專門部ハ曹洞宗大學トシテ明治三十七年六月二日徵兵令第十二條ニ依ル認定ヲ得タルモノニ付其ノ效力ハ其ノ儘繼續ス

陸軍省 告示第三十八條 (官報寫)

駒澤大學學部同豫科

右ハ徵兵令第十三條第一項第二號ニ依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ト認定ス但シ認定ノ效力ハ研究科生ニ及ハス

大正十四年五月十九日

陸軍大臣 宇垣 一成

文部大臣 岡田 良平

○曹洞宗大學並駒澤大學專門部指定ノ件 大正十四年十月二日 告示第三十三號

今般左記文部省告示第三百十九號ノ通舊規則ニ依ル曹洞宗大學並駒澤大學專門部ヲ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定セラレ

文部省告示第三百十九條 (官報寫)

大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ左記ノ學校ヲ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定ス

大正十四年八月十九日

文部大臣 岡田 良平

一、曹洞宗大學並駒澤大學專門部 但シ本科卒業者ニ限ル

(他ノ學校七校列記アリ省略ス)

○駒澤大學中等教員無試驗檢定指定ノ件 昭和二年三月十五日 告示第三十一號

駒澤大學ハ本年二月二十二日ノ官報ヲ以テ左記學科ノ中等教員無試驗檢定ニ關スル指定學校トシテ告示セラレタリ

人文學科 英語 (英文學特殊講義及演習四單位、教育學)

公民 (昭八年三月二十七日文部省告示第二百二十二號ヲ以テ倫理學行政法、民法各二單位) 及教育史三單位ヲ履修シタル者ニ限ル

第六編 教育 ○曹洞宗大學並駒澤大學專門部指定ノ件 ○中等教員無試驗檢定指定ノ件

第一中學
明治十年
六月二十六日
依第三十三號
令依第三十三號
認令依第三十三號
三三三三三三三
日及月九年
三三三三三三三
門學及月九年
規程者檢校日
依第一號
定依第一號
指受指

第六編 教育 ○駒澤大學專門部無試験檢定ノ件 ○高等科教員無試験檢定ノ件

佛教學科 修身(東洋倫理特殊講義西洋倫理特殊講義各二單位)
(教育學教育史三單位ヲ履修シタル者ニ限ル)

東洋學科 國語(國文學特殊講義及演習三單位ヲ履修シタル者ニ限ル)

東洋學科 漢文(支那文學特殊講義及演習三單位ヲ履修シタル者ニ限ル)

豫 科 英語(英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ其成績優等ナル者ニ限ル)

○駒澤大學專門部無試験檢定ノ件 昭和三年四月一日 告示第九號

今般文部省告示第百拾七號ヲ以テ駒澤大學專門部卒業生ニ對シ中等教員無試験檢定ノ資格ヲ有スル旨左記ノ通發表セラレタリ

一、漢文

昭和三年三月以後ノ駒澤大學專門部卒業生ニ限ル

○駒澤大學高等科教員無試験檢定指定ノ件 昭和三年四月二日 告示第八號

今般文部省告示第百壹號ヲ以テ駒澤大學學部卒業生ニシテ左記各項ニ相等スル者ハ各頭書ノ學科目ニ付高等學校高等科教員無試験檢定ノ資格アル旨發表セラレタリ

一、修身

駒澤大學學部佛教學科卒業生ニシテ東洋倫理西洋倫理特殊講義及教育學教育史ヲ選擇履修シタル者

シタル者

二、國語

駒澤大學學部東洋學科卒業生ニシテ國文學特殊講義及演習ヲ履修シタル者

三、漢文

駒澤大學學部東洋學科卒業生ニシテ支那哲學支那文學特殊講義及演習ヲ選擇履修シタル者

四、英語

駒澤大學學部人文學科卒業生ニシテ英文學特殊講義及教育學教育史ヲ選擇履修シタル者

○第一中學林校名變更ノ件 大正十四年三月十五日 告示第十二號

曹洞宗第一中學林ハ追テ中學校令ニ依ル準備トシテ校名ヲ改メ世田谷中學校ト稱スルノ件左記ノ通文部大臣ノ認可ヲ得タリ

文部省東普三九號

曹洞宗第一中學林設立者 新井石禪

大正十三年一月二十九日申請曹洞宗第一中學林校名改稱ノ件認可ス

文部大臣 江木千之團

大正十三年二月二十二日

文部省告示第六十六號(官報寫) 東京府荏原郡世田谷町ニ設置セル曹洞宗第一中學林ヲ大正十三年四月ヨリ世田谷中學校ト改稱ノ件認可セリ

大正十三年二月二十五日

文部大臣 江木千之

第六編 教育 ○第一中學林校名變更ノ件

第六編 教育 ○第二中學校校名變更ノ件 愛知中學校設置認可ノ件

○第二中學校校名變更ノ件 大正十五年六月一日 告示第十七號

曹洞宗第二中學校ハ宮城縣宮城郡七北田村新敷地ニ移轉ノ機會ニ於テ校名ヲ改メ梅檀中學ト稱スルノ件左記ノ通文部大臣ノ認可ヲ得タリ

文部省宮普七號（指令寫）

曹洞宗第二中學校設立者 新井石禪

一月十五日申請曹洞宗第二中學校名稱變更ノ件認可ス

大正十五年二月十三日

文部大臣 岡田良平

文部省告示第四十五號（官報寫）

宮城縣仙臺市ニ設置セル曹洞宗第二中學校ヲ大正十五年四月一日ヨリ梅檀中學ト改稱ノ件認可セリ

大正十五年二月十六日

文部大臣 岡田良平

○愛知中學校設置認可ノ件 大正十四年三月十五日 告示第十三號

曹洞宗第三中學校ハ中學校令ニ依ル中學校ニ組織變更ノ計畫ヲ立テ校名ヲ愛知中學校ト改稱シ曹洞宗教學財團ノ經營トスル目的ヲ以テ昨年三月其ノ認可ヲ文部大臣ニ申請中ノ處教學財團ノ寄附行爲ニ定ムル目的ハ學校ノ經營者タルコト能ハサルヲ以テ別ニ新ニ曹洞宗興學財團ヲ設立シ其ノ

第三林三第 第三林三第 第三林三第
令一六三林第 令一六三林第 令一六三林第
日月十八中 日月十八中 日月十八中
十徵七明中 十徵七明中 十徵七明中
三兵十年治學 三兵十年治學 三兵十年治學

第二林三第 第二林三第 第二林三第
定二條規學門十年同月十定二條規學門十年同月十定二條規學門十年同月十
ヲ依第程者學八四三五七、依十徵月十八二 ヲ依第程者學八四三五七、依十徵月十八二 ヲ依第程者學八四三五七、依十徵月十八二
受リ一第檢校日十月年同リ三兵十八明中 受リ一第檢校日十月年同リ三兵十八明中 受リ一第檢校日十月年同リ三兵十八明中
指號八入專二八及七三認條令四年治學 指號八入專二八及七三認條令四年治學 指號八入專二八及七三認條令四年治學

財團ノ經營トスルコトニ改メ左記ノ通文部大臣ノ認可ヲ得タリ

中學校令ニ依ル中學校ハ財團ノ經營トスヘキ規定ナルヲ以テ右ハ事實ニ於テ組織變更ナルモ形式上ヨリスレハ中學校ノ新設ニシテ從來ノ曹洞宗第三中學校トハ形式上別箇ノモノトス依テ該中學校ニ編入ノ手續ヲ要ス然ルニ中學校ニ於テハ五年級ハ編入ノ手續ヲ許ササル規定アルヲ以テ已ムヲ得ス其ノ卒業ニ至ルマテ從來ノ曹洞宗第三中學校ヲ存置シ追テ廢止ノ手續ヲ爲スモノトス

文部省愛普一五號（指令寫）

曹洞宗興學財團

大正十三年十二月二十五日申請愛知中學校設置ノ件認可ス

大正十四年二月二十日

文部大臣 岡田良平

文部省告示第六十七號（官報寫）

愛知中學校ヲ愛知縣名古屋市東區ニ設置シ大正十四年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

大正十四年二月二十三日

文部大臣 岡田良平

○第四中學校校名變更ノ件 昭和三年一月二日 告示第四十七號

曹洞宗第四中學校ハ今般校名ヲ改メ山口縣多々良中學ト稱スルノ件左記ノ通文部大臣ノ認可ヲ得タリ

文部省口普第七四號

第六編 教育 ○第四中學校校名變更ノ件